

OKITEN 2016 沖展

会期●2016年3月19日土—4月3日日

会場●浦添市民体育館

68th EXHIBITION

絵 画 Fine Art

版 画 Print

彫 刻 Sculpture

グラフィックデザイン Graphic Design

書 芸 Calligraphy

写 真 Photograph

工芸[陶 芸] Pottery

工芸[漆 芸] Lacquer Ware

工芸[染 色] Dyeing

工芸[織 物] Weaving

工芸[ガラス] Glass Ware

工芸[木工芸] Woodwork

OKITEN 2016
沖展
68th
EXHIBITION

第68回「沖展」

春を彩る“美の祭典”第68回「沖展」が開幕いたしました。

「沖展」は、戦後の荒廃のなか「郷土再建には文化復興が県民の支えになる」という考え方に立ち、美術関係者の賛同を得て、1949年7月、沖縄タイムス創刊1周年を記念して開かれたのが最初でした。

当初は、美術展を開催できる環境がなく、春休みの期間に小中学校や高等学校の校舎を借りて開催するなど、会場を転々と変えてきたことから「ジブシー展」と呼ばれてきました。

第40回展から浦添市・浦添市教育委員会の深いご理解ご協力のもと、浦添市民体育館を会場として提供していただき、県内最大の春の美術・工芸公募展として、会期・会場ともに定着し、多くの県民に親しまれています。

第68回を迎える今展示作品は、一般応募作974点のなかから入賞・入選した551点と、沖展会員・準会員の力作ぞろいの作品が会場を埋め尽くしています。これもひとえに、会員、準会員の皆様が郷土の創造文化振興への使命感からでた御協力や、応募者の皆様の努力が大きな推進力となっております。人間国宝、現代の名工、新進気鋭の美術工芸家にいたるまで国内外に通用する人材が「沖展」から育まれてきたことでもおわかりだと思います。

ご来場者される皆様にとって、沖展が新しい価値、異なる価値との出会いを促し、芸術の風に触れる機会になれば幸いです。

最後に、沖展の運営に尽力されました各部門の会員・準会員の皆様、会場の提供など多大なご協力を頂きました浦添市をはじめ、浦添市教育委員会、浦添市民体育館、浦添市てだこホールの皆さま、「沖展」の趣旨に賛同いただき、ご支援を賜りました協賛企業、後援団体の関係各位に心より御礼申し上げます。

沖縄タイムス社

沖展会場案内図



第68回「沖展」審査結果

部 門		一 般 応 募							準 会 員				会 員			総 合 計	
		応募点数(人数)	冲展賞	奨励賞	浦添市長賞	うるま市長賞	沖縄教育出版賞	入 選	計	応募点数(人数)	準会員賞	他展示数	計	会員点数(人数)	特別展示	計	(総展示数)(総人数)
絵 画		166点 (166人)	1	3	1	1	0	77	83点 (83人)	16点 (16人)	2	14	16点	34点 (34人)	3	37点	136点 (135人)
版 画		17点 (13人)	0	2	1	1	1	10	15点 (13人)	5点 (3人)	1	3	4点	9点 (9人)	0	9点	28点 (25人)
彫 刻		22点 (19人)	1	2	1	1	1	12	18点 (17人)	2点 (2人)	2	0	2点	16点 (15人)	0	16点	36点 (34人)
グラフィックデザイン		51点 (40人)	1	3	1	1	1	28	35点 (33人)	5点 (3人)	2	3	5点	14点 (10人)	0	14点	54点 (46人)
書 芸		263点 (263人)	1	4	1	1	1	176	184点 (184人)	28点 (28人)	2	26	28点	36点 (36人)	1	37点	249点 (249人)
写 真		307点 (173人)	1	3	1	1	0	95	101点 (88人)	11点 (11人)	2	9	11点	10点 (10人)	2	12点	124点 (111人)
工 芸	陶 芸	74点 (57人)	1	2	1	1	1	40	46点 (42人)	6点 (6人)	1	5	6点	13点 (13人)	0	13点	65点 (61人)
	漆 芸	9点 (9人)	1	1	1	1	0	4	8点 (8人)	2点 (2人)	1	1	2点	6点 (5人)	0	6点	16点 (15人)
	染 色	12点 (12人)	0	0	1	1	0	8	10点 (10人)	3点 (3人)	0	3	3点	6点 (6人)	1	7点	20点 (20人)
	織 物	14点 (14人)	1	1	1	1	0	9	13点 (13人)	3点 (3人)	0	3	3点	12点 (12人)	0	12点	28点 (28人)
	ガラス	31点 (24人)	0	2	1	1	0	27	31点 (24人)	4点 (3人)	0	4	4点	5点 (4人)	0	5点	40点 (31人)
木工芸		8点 (8人)	1	1	1	1	0	3	7点 (7人)	1点 (1人)	0	1	1点	3点 (2人)	0	3点	11点 (10人)
合 計		974点 (798人)	9	24	12	12	5	489	551点 (522人)	86点 (81人)	13	72	85点	164点 (156人)	7	171点	807点 (765人)

第 68 回「沖展」の日程

■会 期:2016年3月19日(土)～4月3日(日) 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

■会 場:浦添市民体育館

●開会式 3月19日(土)午前9時30分 浦添市民体育館入り口

●表彰式 3月20日(日)午後4時30分 浦添市てだこホール大ホール

●合同祝賀会 3月20日(日)午後6時 浦添市てだこホール市民交流室

●閉会式 4月3日(日)午後6時(記念撮影・午後5時30分) 浦添市民体育館1階沖展事務局

第 40 回「沖展」うるま市選抜展

■会 期:2016年4月7日(木)～13日(水) 午前10時～午後6時

■会 場:うるま市具志川総合体育館(入場無料)

第68回「沖展」併催イベント

日 程		作品解説会 場所:浦添市民体育館 展示会場内	併催事業 場所:体育館下の階ロビー・屋外イベント会場・浦添市てだこホール
3月19日	(土)		
3月20日	(日)	【木工芸】午前11時 【織 物】午後1時 【ガラス】午後2時 【陶 芸】午後3時	■第68回「沖展」表彰式・合同祝賀会 16:30～浦添市てだこホール(大ホール・市民交流室)
3月21日	(月)		『沖縄タイムス社出版物販売』
3月22日	(火)		『沖展会員作品チャリティー販売』
3月23日	(水)		■期間:3/19(土)～4/3(日)
3月24日	(木)		■会場:体育館 1 階ロビー
3月25日	(金)	【染 色】午前11時	
3月26日	(土)	【版 画】午後1時 【写 真】午後2時 【絵 画】午後3時	
3月27日	(日)	【グラフィックデザイン】午前11時 【漆 芸】午後1時 【彫 刻】午後2時	■「陶芸教室(ろくろ体験・面シーサーづくり)」 14:00～16:00 屋外イベント会場
3月28日	(月)		
3月29日	(火)		
3月30日	(水)	【写 真】午後2時	
3月31日	(木)		
4月1日	(金)		
4月2日	(土)		
4月3日	(日)		

(注)上記日程は都合により変更場合があります。「屋外イベント」は荒天時には中止する場合があります。

C O N T E N T S

絵画部門	Fine Art	4
版画部門	Print	23
彫刻部門	Sculpture	31
グラフィックデザイン	Graphic Design	40
書芸部門	Calligraphy	50
写真部門	Photograph	77
工芸部門 [陶 芸]	Pottery	91
工芸部門 [漆 芸]	Lacquer Ware	104
工芸部門 [染 色]	Dyeing	111
工芸部門 [織 物]	Weaving	115
工芸部門 [ガラス]	Glass Ware	121
工芸部門 [木工芸]	Woodwork	126
物故会員・略歴		131
沖展のあゆみ		134
会員・準会員名簿		153
沖展会則		158
広告		

※会員、準会員、入賞、入選氏名は 50 音順

絵画部門

総評一稲嶺 成祚（会員）

絵画の部の今年の応募点数が166点、入選総数が83点。去年度が応募点数163点に対し入選総数100点だから、去年に比して入選点数17点の減となる。絵画の大きさの規制が縦横210センチ以内となっているが、入選作品の多くがこの規制に近い大作であり、入選点数が減ったとはいえ、今回も壁面に余裕のない展示になる。

いつものことながら、今年も一辺1メートル以内ぐらいの小品はほとんど選外となった。展示会の審査というのは相対評価なので、小品はその大きさからくる迫力で負ける。小品の応募で選外となった作者で、「私の作品は決して質的には劣らない」と思う方は、次回是非大作に挑んで雪辱を遂げてほしい。

審査を通して思うことだが、沖展の絵画部門は抽象から具象までほとんどのスタイルを網羅している。それぞれの作家が工夫を凝らして、各自の芸術世界の表出を心掛けているのには感心する。ただひとつ気になったのは、具象作品にカラー写真を拡大模写したような作品が多いことである。その描写技術の素晴らしさは感心するのだが、個性的な魅力に乏しい。

カラー写真のない時代の作家たちは、直接自然と対峙して絵を描いた。それで作家独自の自然の把握があり、それがその作家の芸術的魅力となって見る人を魅了した。そうした個性的具象作品が増えることを望みたい。

会員作品

赤いナイトウェア——赤 嶺 正 則
 百度踏揚——安次富 長 昭
 Emotional scene1——池 原 優 子
 人さまざま——稲 嶺 成 祚
 時空を越えて——ウエチ ヒ ロ
 レッドナイト——上 間 彩 花
 鼓舞——浦 添 健
 「Pride?!」——大 城 讓
 風景の中で——大 浜 英 治
 赤い地平線 16・80——喜久村 徳 男
 造形の未来像を探求し、
 素材に秘められた可能性——喜友名 朝 紀
 誘——金 城 進
 馬鹿の王——金 城 幸 也
 俯瞰 I ——具 志 恒 勇
 浸食——具志堅 誓 謹
 K 氏像——久 場 と よ
 潮流のラビリンス——佐久本 伸 光
 相——佐久本 米 子
 キャンパス内 個展——城 間 喜 宏
 にげーぐと——新 垣 正 一
 残像——砂 川 喜 代
 南風の記憶 2016——高 島 彦 志
 Wind scape——知 念 秀 幸
 追憶の形——鎮 西 公 子
 自画像——中 島 イソ子
 作品 A ——治 谷 文 夫
 気配 (78)——比 嘉 武 史
 叫——比 嘉 良 二
 ミスターゲイトマン——宮 里 昌 信
 市街暮色——安 元 賢 治
 視泉——山 内 盛 博
 天仁屋の褶曲——屋 良 朝 春
 不条理——与久田 健 一
 点と位置——與那嶺 芳 恵

準会員賞

追憶の日々——赤 嶺 広 和
 あがたぬくがた——仲 松 清 隆

準会員作品

モンサント——新 崎 多恵子
 山羊と私 (パートⅢ)——伊 川 はるよし
 無血の祈り——伊 波 則 雄
 風のある島、熱き魂
 (クルルンファ)——岸 本 ノブヨ
 Tomorrow——城 間 かよ子
 パワースポット——新 城 弘市郎
 チュンチャー——知 念 盛 一
 アコークロー——並 里 幸 太
 街——橋 本 弘 徳
 風光る——平 川 宗 信
 グスクぬアジ——松 田 盛 吉
 失われた幻——宮 里 昌 健
 「こく」——山 城 政 子
 階上の村——山 田 武

沖展賞

燃える魂どこへ——仲 程 悦 子

奨励賞

想——金 城 恵美子
 HOTEL MOONBEACH——鈴 木 金 助
 懺悔無音——砂 川 恵 光

浦添市長賞

消えない記憶——玉 木 義 勝

うるま市長賞

Che fare ?——北 山 千雅子

一般入選作品

ヒンブン——赤 嶺 慎 次
 里の午後——赤 嶺 美代子
 福木の郷——東 光 二
 転変する創造物の存在の模様——新 垣 龍 子
 慟哭の島 '15——池 原 菊 江
 静寂な道——石 川 哲 子
 陽春——石 川 豊 子
 KAIFUU (Ⅱ) (懷風)——石 原 美智子
 雨の交差点——伊 是 名 吉 明
 裏通り——稲 富 民 子

手の記憶——伊 禮 青 勝
 タ映え——伊 禮 芙紗子
 すき間から interspace——上 田 達 大
 生 (いのち)——上 原 成 美
 記憶の風景 -2016——上 原 はま子
 Passion——内 間 香奈江
 海へ続く道——運 天 肇
 底曳を終えて——大 城 信 利
 石敢當のある風景——大 城 春 信
 古都トレドの眺め
 (スペイン・世界遺産)——大 城 喜 満
 木麻黄のある風景——我那覇 絹 子
 マダレーナ——兼 村 美代子
 2016 年 幸福に導く——我 部 よしみ
 港風景 (伊奈武瀬)——亀 浜 勇 吉
 虫たちのプレリュード 2016——喜屋武 信 子
 屋下がりの船揚場——金 城 英 男
 シュンザ iN となき島——金 城 睦 雄
 夏日——金 城 美智子
 残暑の飛泉——国 吉 文 子
 大海へ——小 谷 明 美
 魂・いぶき——小 橋 川 邦 子
 アルバイシン——小 波 津 健
 花芭蕉——小 林 美 子
 沖縄を見つめて
 180 年余天底ガジマル——座 覇 政 秀
 沖縄の 7 つの断片
 Seven Fragments in Okinawa サンリー・ヨンツォー
 アダンの下から——重 田 照 吉
 宇宙への回帰——島 袋 孝 勇
 冬の岬Ⅱ——下 地 正 宏
 内なる声——城 間 幸 子
 ひととき——新 里 久
 残照——平 良 江美子
 ファンタジー——嵩 原 武 子
 ムーブメント——玉 寄 貞 子
 休日のショッピングモール——知 念 悦 子
 石灰岩に生きるヤシ——知 念 清 哲
 悼みの結晶を呑み込む人々——土 屋 朗 子
 G.G 広場の葉影——津 波 信 久
 LACANS——鶴 見 伸
 蒼茜——當 山 武 弘

深青のコラボ——渡 久 地 美智子
 幻舞——富 村 千賀子
 時——豊 里 三智恵
 礎 (4)——豊 元 節 子
 つながる——仲 座 包 子
 烈——仲 宗 根 市 子
 あらそう——仲 宗 根 勇 吉
 映——名 渡 山 千枝子
 家路——荷 川 取 純 子
 魔除け——西 平 賀 雄
 清水の里——根 路 銘 恵 二
 SPACE TOWN——比 嘉 孝
 樹 V——比 嘉 博
 幼き日——譜 久 原 邦 子
 廻り生く .Ⅱ——又 吉 園 子
 荒廃——松 田 利 男
 地層の表面——港 川 浩 秀
 無の境地——宮 城 才 子
 椿——宮 城 貴 子
 キャベツ畑——宮 城 良 眞
 5 年目の世界——宮 里 香
 私のメルヘンから…PART69——宮 里 ユキ子
 ある街の風景——山 城 光 子
 天国への階段——與 那 覇 勉
 灯り——与 那 覇 房 子
 常同行動——與 那 嶺 しのぶ
 天地開闢の意図——与 那 嶺 誠
 還暦
 (戦後 70 年マーカイガ!ウチナー…!!)——饒 平 名 知 健

特別展示

ヨットハーバー——儀 間 朝 健
 あの時の空——与 儀 達 治
 木組み——与 儀 達 治



俯瞰 I (130×160) 具志 恒勇 (会員)



人さまざま (121.5×155) 稲嶺 成祚 (会員)



誘 (145×176) 金城 進 (会員)



気配 (78) (133×164) 比嘉 武史 (会員)



天仁屋の褶曲 (148×180) 屋良 朝春 (会員)



風景の中で (90×150) 大浜 英治 (会員)



レッドナイト (97×130) 上間 彩花 (会員)



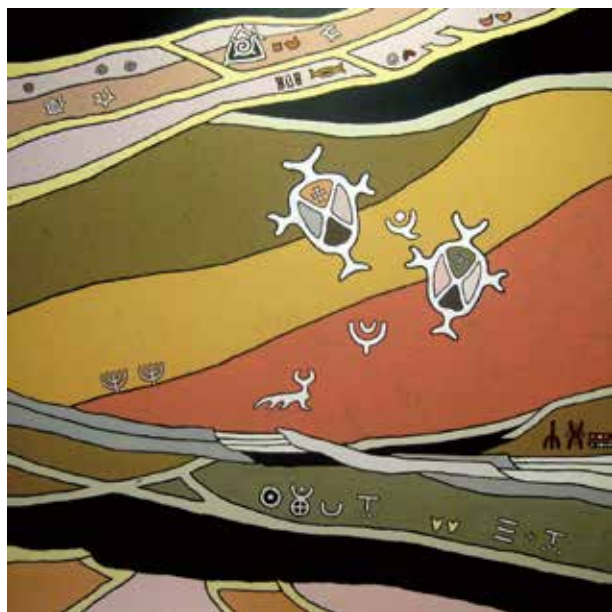
赤いナイトウェア (170×144)
赤嶺 正則 (会員)



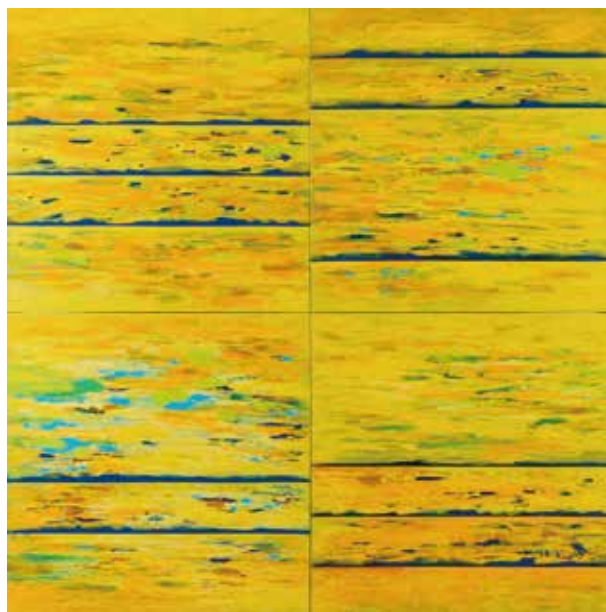
視泉 (201×184×32) 山内 盛博 (会員)



鼓舞 (165×134) 浦添 健 (会員)



時空を越えて (162×162) ウエチ ヒロ (会員)



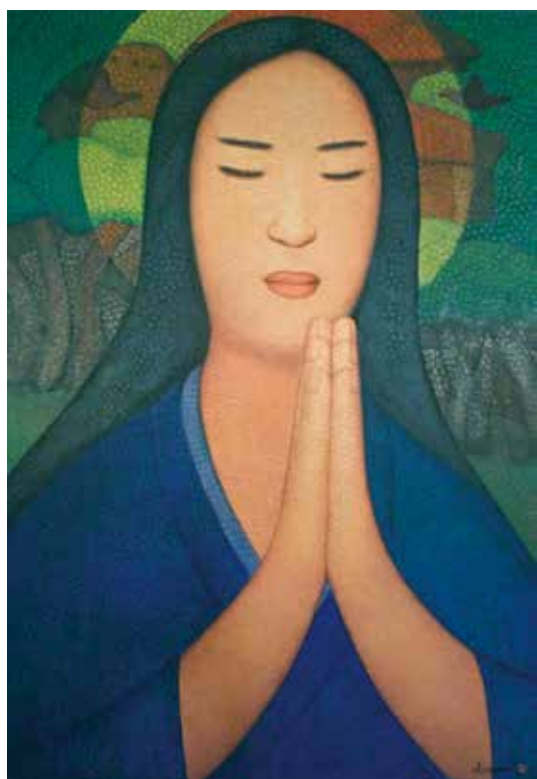
残像 (183×183) 砂川 喜代 (会員)



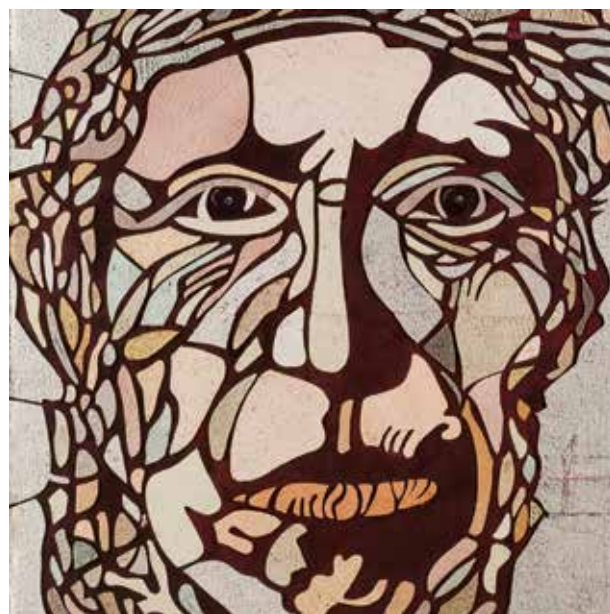
馬鹿の王 (180×180) 金城 幸也 (会員)



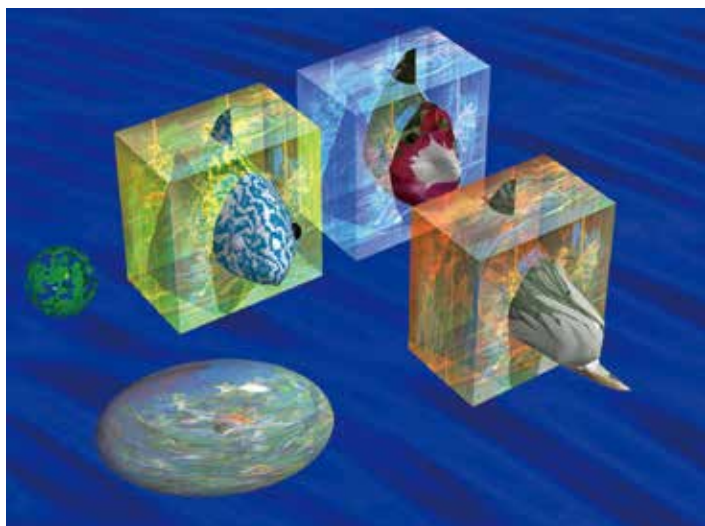
K氏像 (136×102) 久場 とよ (会員)



にげーぐと (200×145) 新垣 正一 (会員)



ミスターゲイトマン (162×162)
宮里 昌信 (会員)



潮流のラビリンス (80×97) 佐久本 伸光 (会員)



南風の記憶 2016 (116.7×116.7)
高島 彦志 (会員)



叫 (210×210) 比嘉 良二 (会員)



追憶の形 (200×200) 鎮西 公子 (会員)



不条理 (145.5×112)
与久田 健一 (会員)



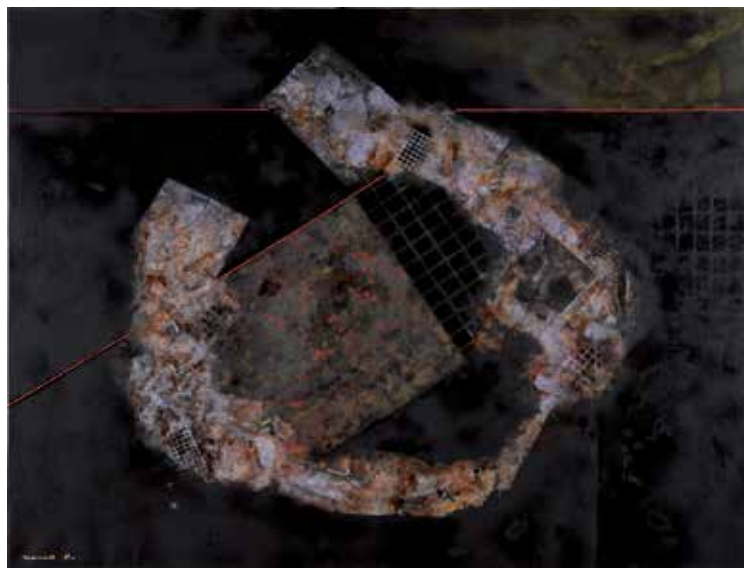
浸食 (114×147.5) 具志堅 誓謹 (会員)



相 (164×131.5) 佐久本 米子 (会員)



自画像 (168.1×136.3) 中島 イソ子 (会員)



赤い地平線 16・80 (112×145) 喜久村 徳男 (会員)



「Pride ?!」 (200×63)
大城 譲 (会員)

準会員賞

あがたぬくがた (165×197) 仲松 清隆 (準会員)



赤と白、そして黒、方形色面の配分や構成の傾きに寄せる、研ぎ澄まされた感性傾注によって成されたであろう、アンバランスのバランス。その静謐な表現の前に立つと、制作に向かう作家の求道者的な精神空間を見るようでもある。

純粹抽象画面でありつつも、その形体のエッジに施された微細な色彩変化は、大気中の熱や水蒸気の還流を彷彿とさせ、さらに、その画面に在る色と色、形と形の間の細心の筆運びを感じ取れば、内面心象を洞察する作家の呼吸感をも、我々は見ているような気がする。

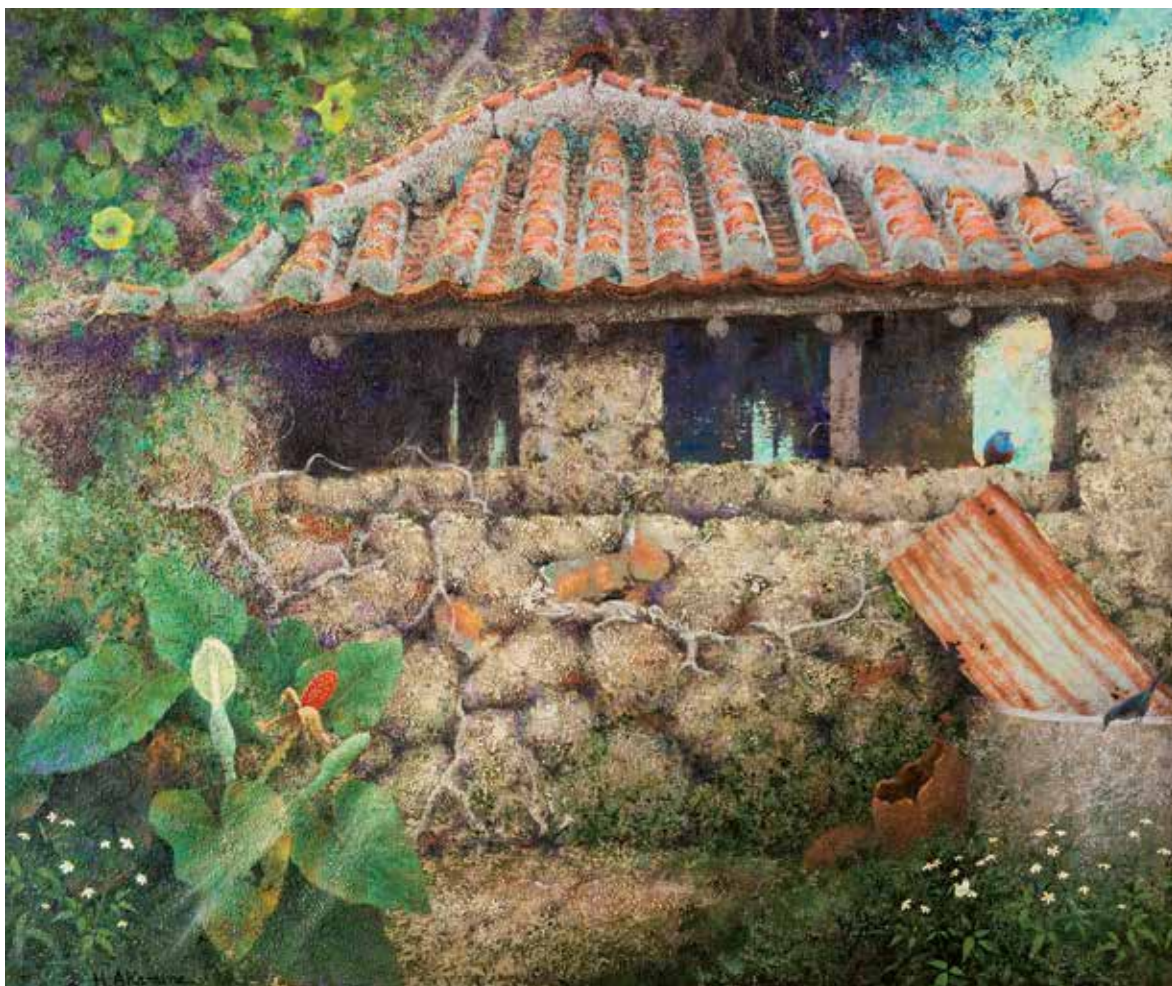
作家が常に、長く、探求してきた「あがたぬくがた」、…。大自然や、人の生死の彼岸と此岸、過去と未来、時空を超えたはざまへの、見る者への誘いであろうか。

多くをそぎ取った純粹抽象の中に込めた、深い心象世界への到達。益々の探求への期待を添え、受賞への賞讃とする。

評—大城 譲 (会員)

準会員賞

追憶の日々 (176×208) 赤嶺 広和 (準会員)



「追憶の日々」シリーズは常に上位の賞候補で競ってきたが、ついに「準会員賞」を獲得した。今回の作品は特に充実していた。

朽ち果てた何時かは取り壊されるであろう赤瓦の家屋をモチーフに、ここ数年、独自の技法と熟練された筆使いで画面構成している。柔らかくで清楚な雰囲気と色彩から醸し出す清閑な画面は時空を超えた香りを漂わせている。

作品を注視して見ると、蝶やそれを狙う番(つがい)の小鳥が描かれているのは、閉塞感のある「沈静」の空間に「動き」を入れることで生氣を出している。また、錆びたトタン切れや、壊れた瓶など朽ちていくものと、生き生きと花と実をつけたクワズイモなど、対称的で微妙な移ろいを重要な要因として演出している。

彼は言う「自然や原風景は失われてきて、一抹の淋しさを感じ、遠い日の沖縄の原風景を追い求めている」と。

失われていく原風景を再現していく描写力と情緒的でポエティックな物語を高く評価する。

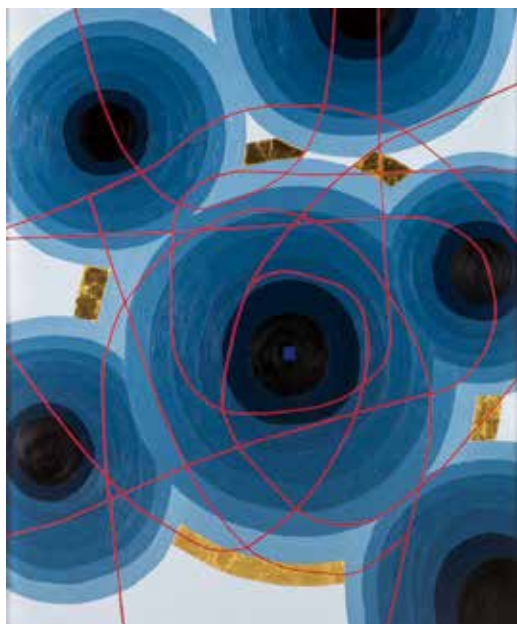
評—城間 喜宏 (会員)



山羊と私（パートⅢ）（194×130）
伊川 はるよし（準会員）



階上の村（165×210）山田 武（準会員）



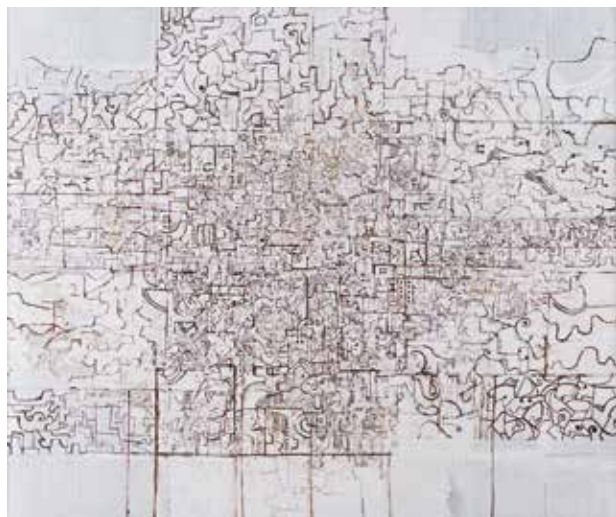
「こく」（197×163）
山城 政子（準会員）



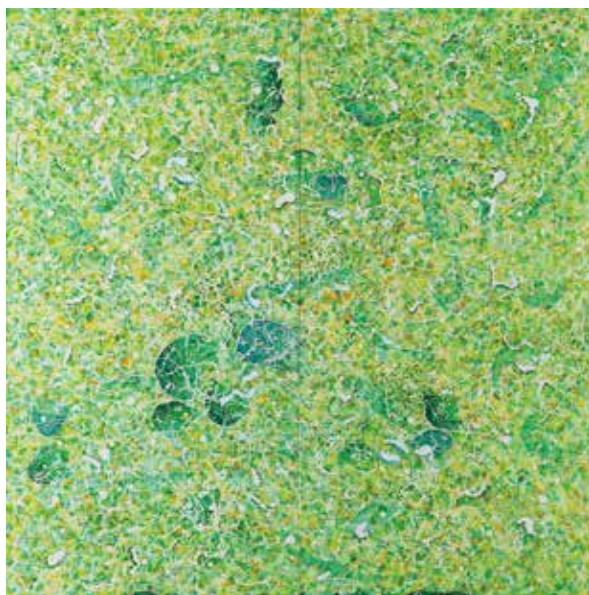
グスクぬアジ（196×164）
松田 盛吉（準会員）



モンサント (167×200) 新崎 多恵子 (準会員)



失われた幻 (165×197) 宮里 昌健 (準会員)



風光る (187×187) 平川 宗信 (準会員)



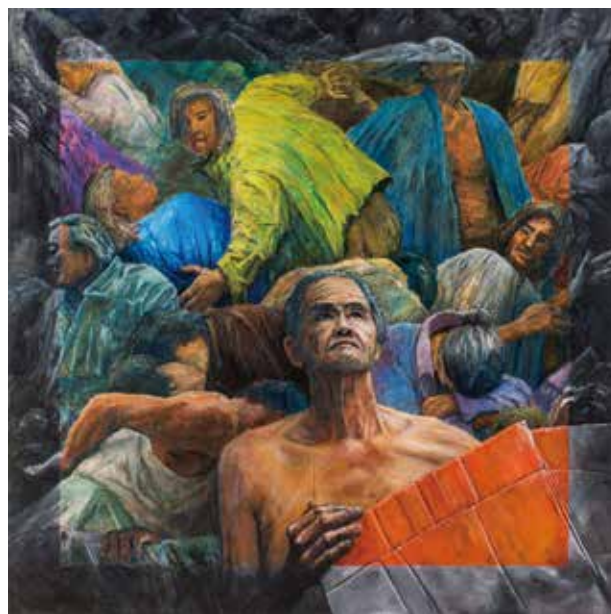
アコークロー (210×210)
並里 幸太 (準会員)



風のある島、熱き魂(クルルンファ)
(185×95)
岸本 ノブヨ (準会員)



無血の祈り (168×189) 伊波 則雄 (準会員)



チュンチャー (208×208)
知念 盛一 (準会員)



パワースポット (178×128)
新城 弘市郎 (準会員)



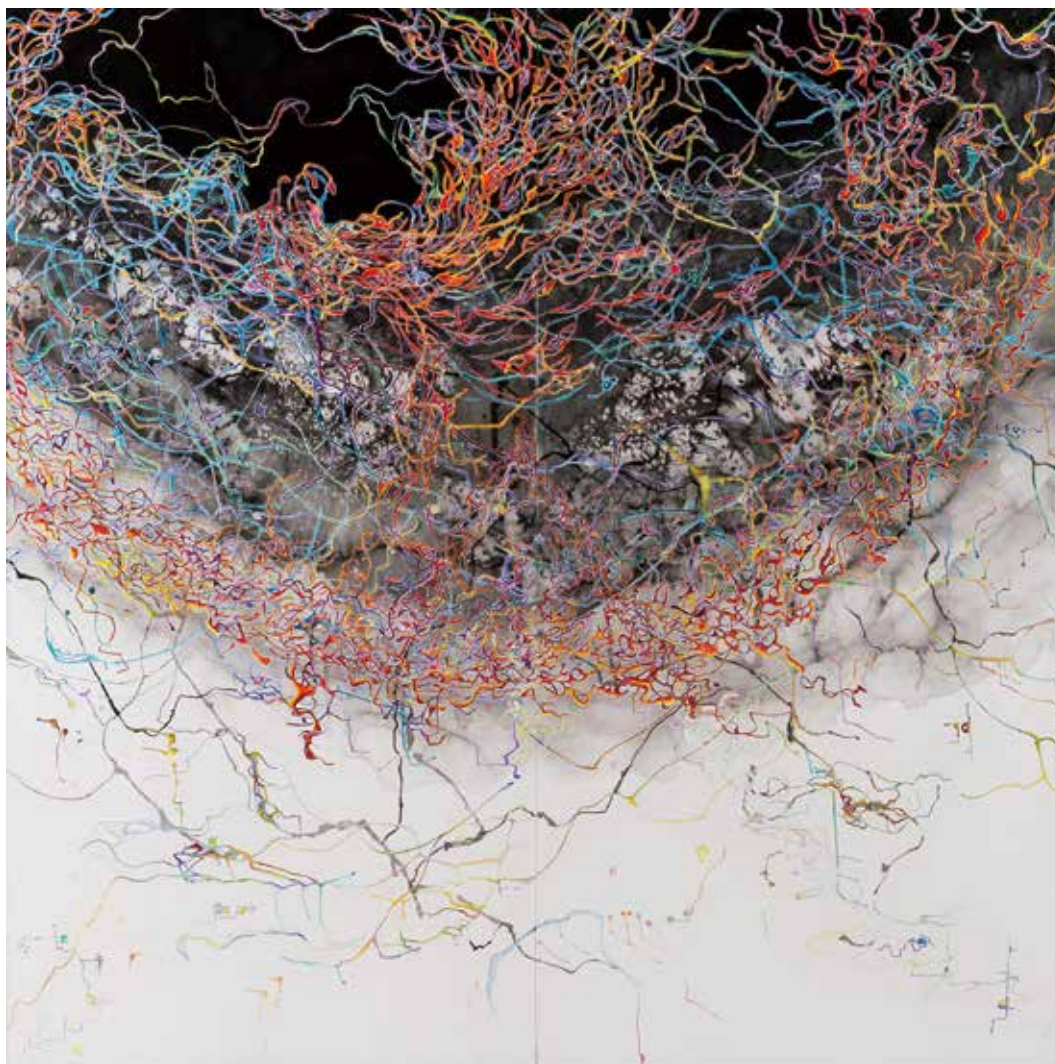
街 (130×162) 橋本 弘徳 (準会員)



Tomorrow (166×198) 城間 かよ子 (準会員)

沖展賞

燃える魂どこへ (183×183) 仲程 悦子



今年は過去7カ年間の資料から最も厳しい選考になった。応募点数166点。その半数に当たる83点が入賞、入選者となった。そうした中での最高賞の沖展賞。おめでとう。

緻密さの中にも大胆な構成力は、存在感と同時に自信の程も見せた。縦横無尽に絡み重なる流線の群れにも堪えながら、繊細な生命体が画面全体を優しく埋め尽くしていく。素材を知り尽くした自信と緻密な作業の根気も伝わる。一方、画面下部にはそれぞれの呼吸を流しながら劣化、消えていく哀感の軌跡も自然でいい。

この作品のメインは、アンバランスな画面左上部の「深墨」の空間と、その下辺右側に疎（まばら）に転がりこんで行く複数の「白塊の群れ」の存在である。この二つのメインは、画面全体に拡散する流動体との相乗効果で存在感を深めている。いわゆる「深墨」の空間は画面最奥の深みに在り、黙示不動にして鑑賞者に深く静かに迫る。そして「白塊の群れ」も同調、自問、自答の世界へ。これこそアートの酔いどころ。

評—喜久村 徳男（会員）



奨励賞

想 (188×189)

金城 恵美子

素材(段ボール)にある造形の可能性を模索し、形象化した。造形的要素にイメージを膨らませて表現し、結実をみた。さらに素材のもつ表現の可能性を探求し、その視点が作者の内面性に喰い込み、形づくられ、画面の空間処理によって作品を決定づけ新鮮な感動を与えている。

心象的表現に向けられた作品のタイトル「想」は、混迷する社会において人間の存在に向けられたメッセージであろう。

画面全体のソフトモノトーンの色調が心地よい安堵感を抱かせ、作者の制作への情熱と感性の豊かさ、表現技術の確かさがあり、独自性とインパクトの強い作品を提示している。

画面の表層にみる焼き付け・染み・切り込み・マチエールの定着は手触りを感じさせる。うす墨色と白系の線が交差した画面に奥深さがみられ、優れた絵画作品である。

近年同じタイトルでテーマを追い求め、明確なコンセプトが伝わる「想」に多くの称賛がむけられ、受賞に輝いた。今後の活躍を期待したい。

評—宮里 昌信(会員)

奨励賞

懺悔無音 (184×184)

砂川 恵光

4年連続の受賞である。砂川さんは常に一貫したテーマでその世界観を追求してきた。

渋く味のある色調で赤錆びた褐色で不毛の大地を、重厚で美しいマチエールで表現した力のこもった作品だ。画面中央にあるムンクの「叫び」を彷彿とさせる「ある物体」は、周りの生々しく忌まわしい出来事を象徴的に現わしているかのようだ。過去、現在、未来へと時空を越えて訴え、嘆き、叫び続けているに違いない。

画家が画面に向き合い描く時ある瞬間から逆に画面が作者に迫り、語りかけて来るものだ。それは幾度となく繰り返された愚かな戦争という行為に対する墓場からの嘆き、2度と繰り返してはならないと…

この作品から様々なイメージを膨らませてしまう。かつて平和で緑豊かな豊穡の大地であった沖縄。作者の平和に対する思いが画面に向かわせた事だろう。これから平和のメッセンジャーとして、又、表現者として、さらなる活躍を期待したい。

評—鎮西 公子(会員)



奨励賞

HOTEL MOONBEACH (100×200) 鈴木 金助



透明で詩的なイメージが生き生きと響き合い、色彩は雅やかな明るいきらめとメロディーが表現された画面構成となっています。

横位置の画面の中、奥へ誘う空間は単にイメージの中にある風景の対象を観察し描くことではなく、その描く方法にあると思われます。様々な素材がコラージュされ、それぞれのイメージと、その形のしっかりとした形象が画面全体のコンポジションのアクセントにもなっています。

風景の中の白の質感は、空間をさほど意識しなくても奥行きが広がる手法。そして、光自体には形象は無いが、抽象的に再生された舞台を創造し、そこに普遍的な光を抽象化し、画面に引き寄せる作者の強い精神力を感じます。

気づかなかったものを感じさせる画面を通して再生された記憶の風景は、鑑賞者の気持ちをもリフレッシュさせる、客観的な不思議な感覚が魅力の作品です。

評一知念 秀幸（会員）

浦添市長賞

消えない記憶 (132×162)
 玉木 義勝

玉木義勝さんの作品「消えない記憶」は、グレーがかったモノクローム調の画面に赤や青などの淡彩をアクセントとして効果的に用い、その味わい深さは印象に残った。

以前の作品は描く対象物をパラレルに配置し、向き合う形での具象性の強いものであったが、近年は抽象表現への傾向が見られる。

今回の作品で特筆すべきは新たな表現への兆しである。幾つかの要因を挙げることができるが、まず視点の移動がある。

画面を俯瞰図のように捉えた交差する時間と空間の広がり、隙間なく埋め込むように描かれ増殖する象徴性を帯びた有機的形体。それ等の織り成すイメージは作者の心象風景であり、そこには深淵の世界を暗示するものがある。見応えのある作品と云えよう。

評一大浜 英治（会員）





うるま市長賞

Che fare ? (196×164)

北山 千雅子

2016年のうるま市長賞を受賞した北山千雅子さんの「Che fare ?」は、白黒の無彩色の中に、赤と緑の色のバランスが微妙に響き合った印象的な作品である。

昨年沖展賞を受賞した作品と同じように色の補色関係を充分意識していて、今回も色彩の対比の鮮やかさは健在で魅了される。描写は画面のすみずみまで念入りに行き届いている。紙のシワのような形が作り出す光と影やそれらの細かい線も効果的である。

無彩色の部分にある複雑な陰影やその中にある具象的な形（縄のようなもの、杭のようなもの）が、今回の作品の特徴をなしているように見える。それは作者の創作の葛藤や内面のせめぎ合いなどを象徴しているのであろうか。それにしても、大胆な画面構成やセンスのよい色彩感覚には目を見張られる。

次なる作品の展開が楽しみである。今後ともますますの活躍を期待したい。

評—砂川 喜代（会員）

版画部門

総評一神山 泰治（会員）

昨今、版画界では「版画とは」についてよく議論がなされるようになってきた。一般的に版画は、木、銅、石、シルクスクリーン等の版材を使用して製版し、刷ってはじめて版画。つまり版があつて版画であるという解釈で、当然版画は複数性も伴うものでなければならないということになる。しかし現代美術における「版画」が「版の表現」と呼称されるようになってからは、版を駆使して一品制作も版画の範疇に入り、フォートプリント、デジタルプリントをも OK となってきた。今回の版画部門の審査もこのような意見交換がなされ審査が行われた。

今年の版画部門は、一般の応募点数が17点、準会員が5点の応募があつた。版種は、木版、銅板、リトグラフ、シルクスクリーン、石膏版画、そしてデジタルプリントがあり、版の形式や技法も多様で審査に苦労した。その中から入選15点が選出され、各賞の選考に入ったが、残念ながら作品展は、多くの支持が得られず該当者無しとなり各賞が決定された。

準会員賞には、保志門繁さんの「ヌード入模様」で、人体と植物との組み合わせがダイナミックに処理されている。CGを駆使し自由な発想で、幻想的な世界への展開に脱帽。奨励賞には池城安武さんの「ヤマピカリヤー」で、白黒の濃淡による抽象形体とリアルに表現された動物との融合が巧みに表出された大作。同じく奨励賞は比嘉れもんさんの「海月(くらげ)」で、画面全体が柔らかな色調で浮遊する軟体物の動的表現に魅了される作品だった。

浦添市長賞の東亜紀さんの「静寂1」は、銅版の中でも根気のいるメゾチントで、漆黒の背景に白く浮かんだ花たちがリズミカルに表現されて好感のもてる作品。うるま市長賞の大山朝之さんの「月下美人」は、彫刻刀の線彫りによる密度の高い木版画で、動きのある画面構成に植物の葉と人体との組み合わせがストーリー性を感じさせる作品。沖縄教育出版賞の金城由季乃さんの「Garlic Kazura」は、咲き誇る花々が風に吹かれている光景とシルクスクリーンの技法を活かした青空のグラデーションの効果が心地よい作品である。

今年は、点数が少ないわりに、それぞれの版種の持ち味と各種の技法の併用にチャレンジする姿勢が多く見られ、今後が楽しみである。今年の応募状況は前年に比べ減少しており、版による表現者の多くの参加を期待したい。

会員作品

「COLOR-大地の記憶」—— 赤 嶺 雅
シーサーII —— 新 崎 竜 哉
時の景 —— 大 久 保 彰
心景 —— 神 山 泰 治
背番号のない君らに
エールを送る —— 座 間 味 良 吉
天使のジェラシー —— 知 念 秀 幸
兆し —— 友 利 直
景象 '16-C-1 —— 比 嘉 良 徳
2016-1 —— 前 田 栄

準会員賞

ヌード入模様 —— 保 志 門 繁

準会員作品

きのう、きょう、あした —— 新 屋 敷 孝 雄
回帰 —— 仲 本 和 子
グランドキャニオン A —— 保 志 門 繁

奨励賞

ヤマピカリヤー —— 池 城 安 武
海月 —— 比 嘉 れもん

浦添市長賞

静寂 1 —— 東 亜 紀

うるま市長賞

「月下美人」 —— 大 山 朝 之

沖縄教育出版賞

Garlic Kazura
(ニンニクカズラ) —— 金 城 由季乃

一般入選作品

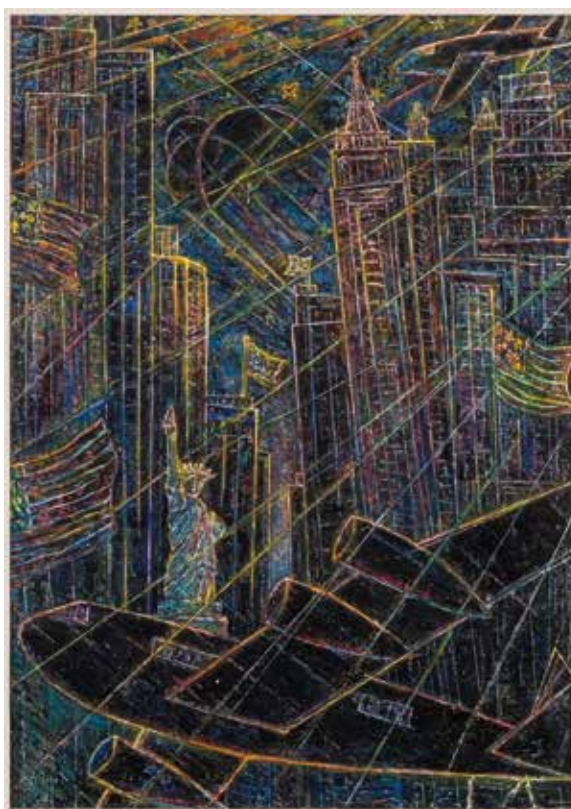
静寂 2 —— 東 亜 紀
透過 —— 我 如 古 真 子
若い力 —— 小 出 由 美
終焉 —北山落城— —— 座 喜 味 盛 亮
山里カルスト —— 座 覇 政 秀
紡ぐ —— 玉 城 綾 乃
CHANGE —— 玉 城 研
City scape 街景 —— 平 川 良 栄
掛蘭 —— 茂 木 淳 子
佛桑花 —— 茂 木 淳 子



景象'16-C-1 (59×90) 比嘉 良徳 (会員)



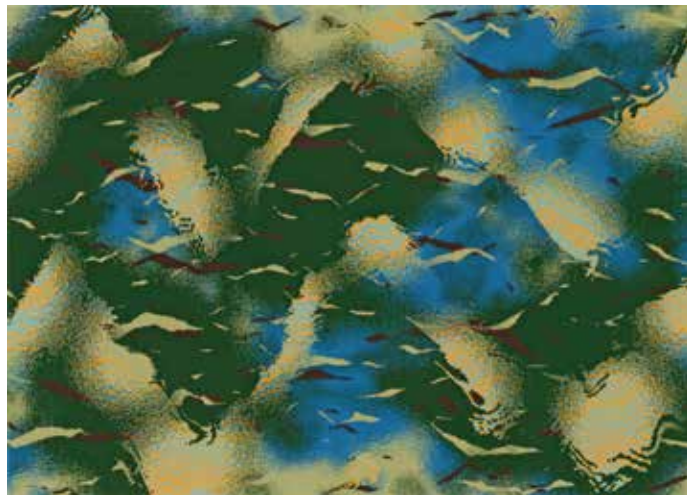
背番号のない君らにエールを送る
(97×58)
座間味 良吉 (会員)



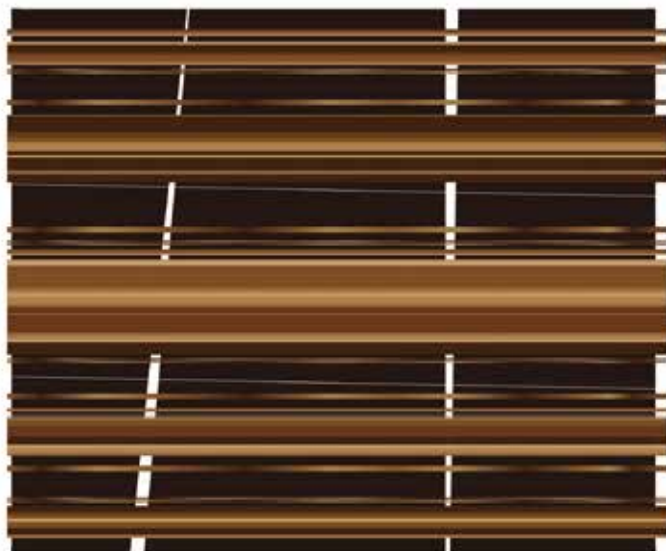
兆し (91×73) 友利 直 (会員)



シーサー II (90×61)
新崎 竜哉 (会員)



時の景 (50×70) 大久保 彰 (会員)

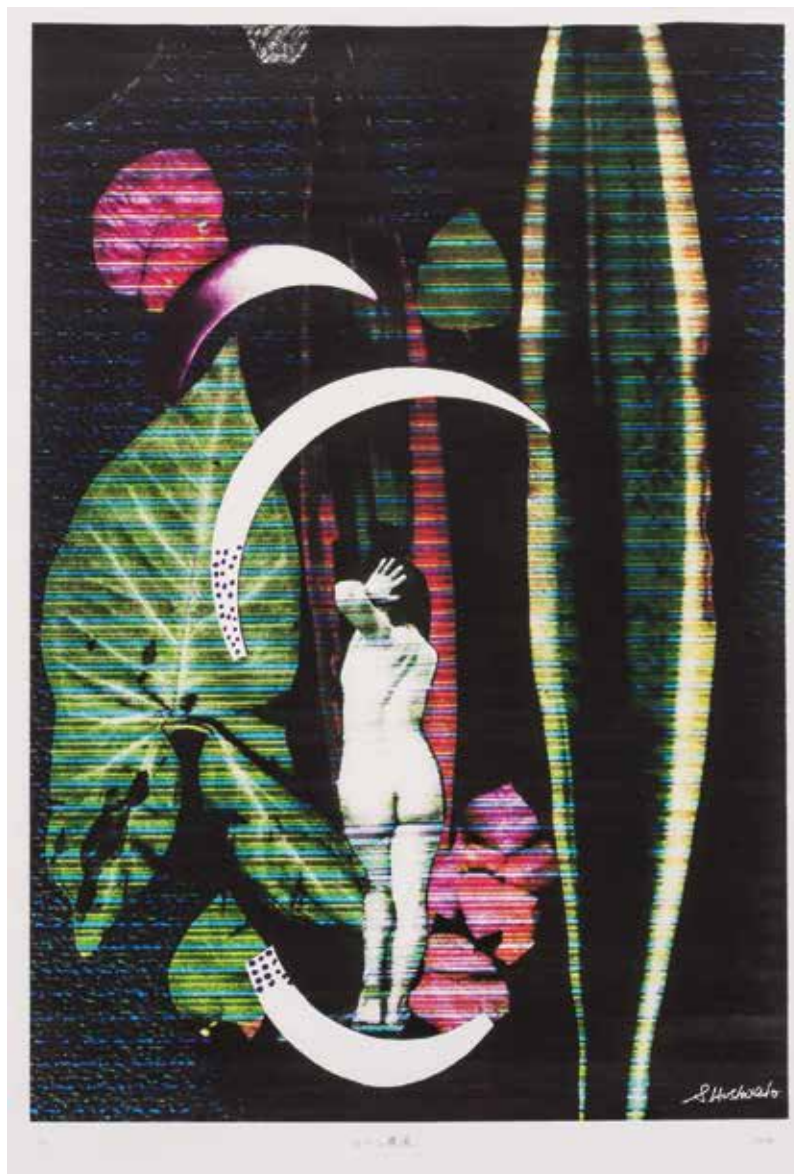


「COLOR -大地の記憶」 (27.3×34.5) 赤嶺 雅 (会員)

準会員賞

ヌード入模様 (91×62)

保志門 繁 (準会員)



保志門繁さん準会員賞おめでとう。

保志門さんの実績は2009年の初受賞から7年目で、準会員賞とまさにハイスピードの出世頭である。

保志門さんは現在、創元会沖縄支部長を退会し、フリーの身で冲展をはじめ文化協会等で活動中。創作はCG技法であらゆる物を題材に制作、かくしゃくたる者で制作旺盛である。特に2011年には浦添市美術館の全フロアで奥さんと二人展を開催。200ページの画集を出版、著名人を集めての大祝賀会など、大変な情熱的で意欲的な夫婦でかくしゃくたるものを感じる。

今回の作品も山積みになされたエスキースから選び拡大出品したようだ。これまでは抽象的な作風が多かったが、今回のような具象形で描きすぎない、余計な物を入れすぎないシンプルな作風でまとまっている。

この作風は、今回の作品の傾向で、またコラージュを減し、マーブリング、フロッターージュなど色々な題材は限らないものだ。

今回はCGではあるが、美の要素が含まれて素晴らしい作品である。

評—友利 直 (会員)



きのう、きょう、あした (78×88)
新屋敷 孝雄 (準会員)



回帰 (70×111) 仲本 和子 (準会員)

奨励賞

ヤマピカリヤー (63×142)
池城 安武



シルクスクリーンを得意とする作者が、独自の手法で表現を広げている。本来、複数性を基本とする版画の常識を打ち破り、モノタイプ（一点主義）に挑戦して、連続の受賞となった。

静寂の闇から現れた一匹のヤマピカリヤー（山猫）、その眼光が一瞬カメラを見た！写真のワンカットだが、それを素材として扱い、巧みに処理された背景と、その中に溶け込むヤマピカリヤーの存在感が、モノクロームで更なる緊張感と荒々しい迫力を生みだしている。

額面処理について気になるところがあった。額装は最後の仕事で作品を際立たせる大切な仕上げであり、完成の喜びとともに細心を払うべきである。

わが県は固有の自然・文化に育まれ、モチーフとなる素材も豊富だが、埋もれているものも多く、それらを掘り起こして発展させることは、アーティストの情熱にかかっているものと期待している。

評—大久保 彰（会員）

奨励賞

海月 (85×60) 比嘉 れもん

地球は水の惑星と言われています。生物は地球に水が出来た後に誕生したとのこと。その海の生物である海月（くらげ）をシルクスクリーン技法で作品化しています。

透明感のある色彩で表現されていて海月（くらげ）が海中を漂う浮遊感を強調したフォルムが、構図の構成をより成立させています。

比嘉れもんさんは、昨年初出品で浦添市長賞だったが、本年はシルクスクリーンプリントの技法向上と表現内容の構成力で新たな受賞となりました。統一感のある寒色系の色調をベースに、それぞれの中間色をスクリーンを重ねていき、柔らかな彩色に仕上げています。

画面背景に拡がる縦方向のグラデーションや、黄色の色彩で表現された円型のグラデーションなど、それぞれに工夫が見られ、灰白色や青、紫色に対して暖色の黄色は補色として、より海の空間をイメージさせています。次回も更なる作品を期待します。

評—知念 秀幸（会員）





浦添市長賞

静寂 1 (24×18) 東 亜紀

審査会場に並べられた様々な版画の中に、他の作品に比べるとあまりにも小さいその作品は、黒という色をもって自己を主張していた。

「静寂」は、夜に花開くサガリバナをモチーフにした作品である。メゾチント技法、別名マニエール・ノワール（黒の技法）を使用し、糸のような白い花卉とその周囲に蕾や枝が巧妙に表現されている。闇の中に浮かんできた形態をスクレイパーやバニッシャーを巧みに使い、光の諧調を上手く作って仕上げている。メゾチント技法は、緻密な手作業が多く労力も要する。その為、作品サイズが限られてくるのも肯ける。

今回、小作品ながらメゾチント技法の作品を出品したことを大きく評価したい。小が大を制するような技術に磨きをかけて、今後も研鑽し続けることを期待する。

「浦添市長賞」おめでとう！

評—比嘉 良徳（会員）

うるま市長賞

「月下美人」(85×52) 大山 朝之

うるま市長賞に入賞された大山朝之さんの版画は、彫刻刃を駆使した木版画である。迷いのないシャープな切り込みと、細く繊細な線が目を引く作品だ。手慣れていて勢いがある。

画面全体を見ると、一定に刻まれた白い線が下方へリズムに広がり、創作の動機になっているフォルム「女性像」を包み込んで、主題が浮き彫りになる。鑑賞者の視線を誘う効果も生みだして、うまい。

また、大山さんは作品の裏側に転彩色の技法を試みている。モノクロームの一版刷りの作品に色彩が与えられたことにより、画面全体が落ち着いたものになった。作品完成までに幾度か試行錯誤があっただろうことがうかがえる。良い作品である。

独自の感性を生かし、さらなる飛躍に期待する。

評—座間味 良吉（会員）





沖縄教育出版賞

Garlic Kazura (ニンニク カズラ) (60×85)
金城 由季乃

昨年の沖縄教育出版賞に続き、今回連続しての受賞は、大変喜ばしいことである。

前回と同様、写真製版での作品で製版技術もよく、版種は孔版によるシルクスクリーン印刷での力作である。

受賞作の「Garlic Kazura」の作品は、画面全体の空間構成の中で花と葉、枝をうまい具合に、バランス良くレイアウトした作品となっている。

また、バックの徐々に広がりがあるコバルトブルーの、グラデーションの色彩効果が、花びらを一層引き立たせ、魅了する。

版表現としての技術力も高く、版数や色数も多い中、版下作業での工程が目に見え、作品に対する作者の制作意欲と情熱がうかがえる。

最後に、学生時代で沖展での連続受賞を機会に、これからも自己の感性を更に高め、向上心を持って創作活動が出来ることを期待する。

評—新崎 竜哉 (会員)

彫刻部門

総評一玉那覇 英人（会員）

彫刻部門の審査会場には、今年も一般公募作品や準会員の作品が「所狭し」と並んでいた。どの作品も意欲作で、個性的であった。「彫刻」というカテゴリーに収まらない現代的な表現や素材も様々で、どの受賞作も甲乙付けがたい力作揃いであった。しかし気がかりなのは、安全性への考慮が乏しい作品が多いことだ。特に立体作品は、台座を含め「構造物として成立する表現」にしなければならないと考える。

さて、彫刻部門の一般応募は、19名22点の応募があり、そのうち学生の応募は3名3点。全体では昨年より1名1点の増。結果は、入選11名12点。入賞は、沖展賞1点、奨励賞2点、浦添市長賞1点、うるま市長賞1点、沖縄教育出版賞1点が厳選された。また、準会員は、9名中、2名2点の応募で、両者とも納得の準会員賞である。

順に追うと、沖展賞の玉城正昌「芽生」は、米ヒバの寄せ木造りの秀作で、準会員推挙となった。

奨励賞は2作品。伊志嶺達雄「消えた家族」は、熟練された技術に裏付けされた表現である。初出品で受賞の鈴木一平「酸化鉄になる場合Ⅱ」は、高校生とは思えないほど完成度が高い。

浦添市長賞の平敷傑「メタルヒージャー」は、ユーモラスなセンスとフォルムの魅力が光る。うるま市長賞の津波夏希「動きだした不安」は、表現を模索する姿勢に共感する。沖縄教育出版賞の翁長瞳「裸婦坐像」は、素直な制作姿勢に好感がもてる。

準会員賞は2点。大城清久「ハッケヨイノゴリラ」の迫力は圧巻である。また、高嶺善昇「T氏の像」は、地道に制作しつづけた真摯な姿勢が感じられる。

準会員の出品が少ないことも気になるが、ともあれ、次世代を担う学生や若手の豊かな感性と情熱に期待し、励みとしたい。

会員作品

2016・作品Ⅰ	上	原	隆	昭
チャコと一緒に	上	原	博	紀
命どう宝	上	原	よ	し
アカバナー	河	原	圭	佑
散歩道	喜	名	盛	勝
舞姫	喜	名	盛	勝
頭像 68.	具	志	堅	宏
Kの首	玉	榮	広	芳
無題	玉	那	覇	英
南の神 2016- 風の行方	知	念	良	智
対話	津	波	古	稔
環境は捻れ	富	元	明	雄
「記憶Ⅲ」	友	知	雪	江
UGWAN2016	仲	里	安	広
風に向かって	西	村	貞	雄
ゆらめく鼓動	與	儀	清	孝

準会員賞

ハッケヨイノゴリラ	大	城	清	久
T氏の像	高	嶺	善	昇

沖展賞

芽生	玉	城	正	昌
----	---	---	---	---

奨励賞

消えた家族	伊	志	嶺	達
酸化鉄になる場合Ⅱ	鈴	木	一	平

浦添市長賞

メタルヒージャー	平	敷	傑	
----------	---	---	---	--

うるま市長賞

動きだした不安	津	波	夏	希
---------	---	---	---	---

沖縄教育出版賞

裸婦坐像	翁	長	瞳	
------	---	---	---	--

一般入選作品

WORK2016-1「うつは」	赤	嶺	善	雄
陶標 HENOKO				
―根源的暴力への不服従―	神	村	吉	次
支え合い	小	橋	川	剛
辺野古「おしつけはいやだ」	小	橋	川	共
月下のピタヤ	高	橋	哲	平
冬虫夏草 in がま	富	永	繁	雄
マヤンガナシのダンス	仲	宗	根	浩
翁	宮	城	宏	吉
胎動	安	田	淳	夫
音楽を感じている人達	吉	田	俊	景
激闘	與	那	嶺	勝
黎明	與	那	嶺	勝



Kの首 (H42×W19×D26) 玉栄 広芳 (会員)



風に向かって (H201×W43×D63)
西村 貞雄 (会員)



ゆらめく鼓動 (H220×W100×D100)
與儀 清孝 (会員)



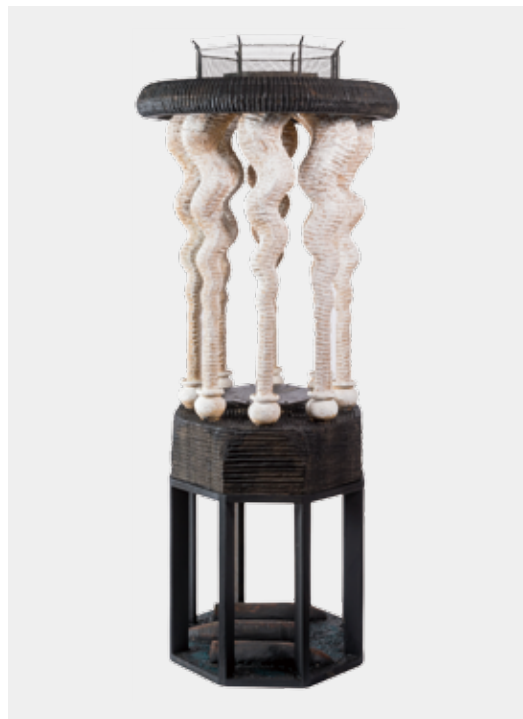
アカバナー (H20×W20×D20)
河原 圭佑 (会員)



対話 (H166×W77×D30) 津波古 稔 (会員)



環境は捻れ (H117×W40×D40)
富元 明雄 (会員)



UGWAN2016 (H190×W80×D80)
仲里 安広 (会員)

準会員賞

T氏の像 (H70×W80×D24) 高嶺 善昇 (準会員)



高嶺さんは十六年前に準会員推挙になって旺盛な制作活動が続けていたが、途中出品が途絶えていた。久しぶりに制作に当たり、活気を取り戻している。

出品された「T氏の像」の、日だまりの中で過ぎ行く時の音に耳を傾け遠くを見つめている表情は、未来を見つめ今を想う心情が感じられる。

T氏は自分であり、鏡を通して向き合いながら、自分の内なる心を見つめて、形の中に共鳴するものを意図して、彫刻表現をしている。

胸像からは温かい情感がকাশい出され、内面から出て来る量感が塑像の持ち味としてよく活かされており、心温まる作品となっている。

今後に期待をする作家である。

評—上原 よし (会員)

準会員賞

ハッケヨイノゴリラ (H170×W130×D130) 大城 清久 (準会員)



これまで動物を題材にしてきた大城さんは、2013年から3年連続入賞を果たし、昨年準会員となり勢いがある。2013年初受賞のフラミンゴから、フクロウ、猿と続けて動物をモチーフにし、造形的な面白さと隠喩によって詩的、哲学的な要素を内包した題材であった。そして、今回の準会員賞に輝いた「ハッケヨイノゴリラ」は鉄の素材を活かした爆発的な迫力ある力作である。

何かと揺れる沖縄、土俵で寄り切られるかどうか、今後を左右する状況である。このゴリラのような力強い沖縄でありたいと願う。

本作品においては、正面の造形的な強さは然ることながら、背後の構造についてももしっかり造られ、量感ある魅力的な作品と多くの審査員から称賛された。毎年進化し続ける大城さんの作品に今後とも注目したい。

評—仲里 安広 (会員)

沖展賞

芽生 (H80×W78×D63) 玉城 正昌



やさしく大事そうに、生まれてくる我が子に語りかけているような表情がほほえましい。作者は木を知り尽くし、丁寧に作品を製作しているのが伝わる。米ヒバ材の肌目は加工性がよく作品の細かい部分を見事に表現している。初出品の大型バイクの高度な技術力を生かし、第66、67回目の奨励賞に続き、今回の沖展賞で準会員推挙おめでとうございます。今後の活躍を期待します。

評一與儀 清孝（会員）

奨励賞

消えた家族 (H65×W70×D50)
伊志嶺 達雄



伊志嶺さんは陶芸歴からみても焼成の技術が豊かである。陶器制作にとどまらず、今度は陶彫にも関心をもち、数年前からメッセージ性のある作品を造り、公募展にも頻繁に出品し、昨年は沖展賞に輝いた。

今回の受賞「消えた家族」の作品では、作者の主張が昨年とは違う方向に向かっていることがうかがえる。遺骨を入れる箱形の陶棺の蓋にはひび割れがあり、その前に香炉や花瓶が無造作に散乱している。その状況から放置され荒廃している状況が、家族のつながりを失った形が見えてくる。

陶彫としては、単なる形の再現ではなく、陶土による形を窯にいれ焼成し釉薬を施し、一旦窯から出した後にシャモットや耐火煉瓦を砕いたものでマチエールを造って再び釜に入れて独特の地肌ができている。作者が最も意識した密度のある表現を実現したことがこの作品を陶彫として格調高いものになっている。今後の活躍が期待できる作家である。

評—西村 貞雄（会員）

奨励賞

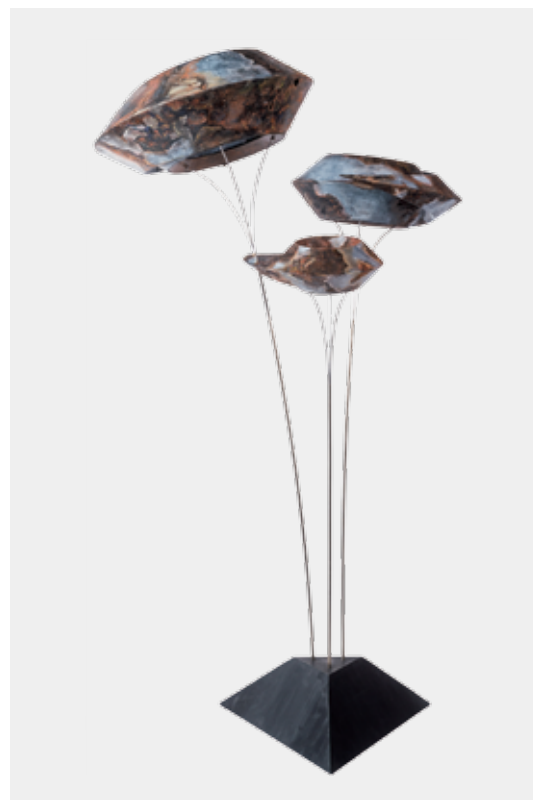
酸化鉄になる場合Ⅱ (H190×W88×D98)
鈴木 一平

赤錆た大きさが異なる三つのドーナツ型造型物は、中心から外側へと遠心力がかかり、空間を浮遊している様な生命感をかもしだしている。作品表面の腐食した鉄の赤錆とアルミニウム等の白錆は、素材の上にアクリルガッシュで着色したものである。錆が激しく進行し貫通している様等、細部までよく表現されている。

ここ数年、素材も多様化しているが、この作品が紙と聞かされたときは驚いた。受賞に当たって作品評記で鈴木さんが、初出品の高校生と知り更に驚かされた。

今後も創作を通し、鈴木さんの感性で新たな表現ができたらと、楽しみに思う。受賞おめでとうございます。

評—知念 良智（会員）





浦添市長賞

メタルヒージャー (H118×W150×D43)

平敷 傑

沖展への出品歴は第65回展、沖縄教育出版賞、第66回展で浦添市長賞、今回68回展、浦添市長賞、昨年から素材を鉄にして制作してきた。創作を続けることの難しさを克服しながらの出品だと思う。しかし、このことが後に必ず力となって発揮されることを信じて続けて貰いたい。

今回も心棒となる線材（鉄筋）に薄い鉄板を張り合わせて形造る難度の高い工夫でヒージャー（山羊）を造った。欲を言えばシンメトリー性が強いので動きを入れて貰いたかった。四つ足動物の蹄にはそれぞれ見るべき特徴があるのでそこを造りきってほしい。現在続けている制作工法をいっそう極め、新しい展開と境地を開くことを期待する。タイトルの「メタルヒージャー」はユニークで印象に残る。

評－富元 明雄（会員）

うるま市長賞

動きだした不安 (H130×W50×D75)

津波 夏希

前屈みの上半身に頭部は正面、両腕は下に垂れ、足の膝を折り、片方を一歩前に踏み出したポーズは、彫刻の動きを表現するのに十分な形態である。全身像のこの作品は、細部に渡って動勢を伴い、人体の脈打つ躍動感と力強さが全身に漲る。頭部における驚愕した顔の表情は眼光鋭く、観る者に一瞬の緊張感を与え、空間を支配する表現としての美意識を創出する。

彫塑による彫刻表現は、石膏取りから型を抜き樹脂による成形の過程を経て、着色を施し完成に至る。それぞれの制作過程における作者の真摯な取り組みと表現素材に対する探求心がこの作品には見られる。

作者の受賞歴をみると沖展賞、奨励賞、浦添市長賞を受賞している。今回の作品は人体彫刻として造形感覚に満ちた深みのある作品となっている。期待感が膨らむゆえ、更に精進し頑張ってもらいたい。

評－具志堅 宏清（会員）





沖縄教育出版賞

裸婦坐像 (H85×W30×D35)

翁長 瞳

初出品で「沖縄教育出版賞」を射止めました。おめでとうございます。

受賞作品「裸婦坐像」は小品ながら存在感のあるいい作品だと思います。

ただ坐るという自然のポーズの中に凜とした緊張感と品の良さを感じます。

しかし、課題もいくつかあると思います。細部の表現、着色、台座等（台座も作品の一部です）。

これからも研鑽を積み、そして継続して下さい。今後に期待します。

評—友知 雪江（会員）

グラフィックデザイン部門

総評—小浜 晋（会員）

近年のグラフィックデザインは、Illustrator、Photoshop、InDesign といったアドビ社のアプリケーションソフトを利用した作品が巷に氾濫している。今後、デザイン業界に進もうとしている諸氏に一言だけ苦言を述べさせて頂きたい。

いかに技量や能力が優れてもこの業界では、一定の業務をこなしていると人は、ワンパターンになりがちだ。魂に訴えるデザインを目指し、常に情報の収集及び、たゆまぬ研鑽を続けて、より斬新なデザインを世に出していくことを心がけ、グラフィックデザイン業界のパイオニア的存在になっていただきたい。

今、メディア媒体の多様化が急速に進んでいる。インターネットやモバイル、電子書籍などの新たな媒体の波が沖縄にも急激に押し寄せてきている。

あらためて、グラフィックデザイナーを志す皆さんに申し上げる。従来の紙媒体にとどまらず新しいメディアのノウハウを学び、習得する事をお奨めしたい。

第68回沖縄展の審査は、例年に比べ多少応募数が落ちたが、出品作品の質は去年より向上した感があった。出品作品の審査は滞りなく進行し、2時間程度で入落の選考を終えた。

今回の沖縄展賞大村郁乃さん、奨励賞川平勝也さん、和田瑞希さん、花城達紀さん、そして、準会員賞のキムラロメオさん、幸地のぞみさん、他、受賞された皆様、おめでとう。これからも優れたオリジナリティー溢れる作品作りを期待している。

会員作品

市場の女 # 44/279——ウチマ ヤスヒコ
イラストレーション——亀 川 康 栄
CORAL REEF OKINAWA——岸 本 一 夫
イラストレーション①——金 城 正 司
イラストレーション②——金 城 正 司
今、電子書籍が熱い!!——小 浜 晋
ポスター「Reborn 2016B」——玉 城 徳 正
ポスター「Reborn 2016W」——玉 城 徳 正
original work——知 念 秀 幸
HARISENBON——知 念 仁 志
TORAFUGU——知 念 仁 志
2016 Poster——本 庄 正 巳
COEXISTENCE (NO1)——宮 城 保 武
COEXISTENCE (NO2)——宮 城 保 武

準会員賞

ZERO:RED Type——キムラ ロメオ
沖縄と韓国 [お面]——幸 地 のぞみ

準会員作品

ZERO:BLACK Type——キムラ ロメオ
レスボスの日々-夜明けまで——中 井 結
レスボスの日々-落日——中 井 結

沖展賞

センス オブ ワンダー
イン ザ トロピカル ナイト——大 村 郁 乃

奨励賞

創造してみよう! -4——川 平 勝 也
沖縄を世界へ——花 城 達 紀
おきなわじまのはじまり——和 田 瑞 希

浦添市長賞

Blue Moon ブルームーン——仲 里 都貴江

うるま市長賞

無秩序の秩序——吉 田 コマキ

沖縄教育出版賞

ココくま君の
ホワイトウォーター——松 田 萌

一般入選作品

小さきものたち——上 江 洲 仁 美
沖縄ら四季——上 田 真 弓
考える猿——宇 榮 原 格
ブカブカブーカ
認知度 UP 用ポスター——上 原 悠 雅
シーサーとめぐる
AZAMA 散歩。——奥 濱 愛 梨
世界のタイル展
(タイルの可能性は無限に広がる)——神 野 俊 一
創造してみよう! -3——川 平 勝 也
私のなかのあなた
(平面構成 II)——亘 保 定 和
IDA 高等課程卒業制作展——金 城 風 沙
居酒屋新規顧客度 up 用ポスター——金 城 有 紀
あなたと飲みたい沖縄ほろ酔い
あわもり project _A——慶 田 充
ウォールステッカー
専門店認知度 UP ポスター——小 橋 川 春 菜
県民の声——小 浜 晋 也
ノカオイ——島 澤 喜 芳
LOVE——島 尻 一 成
昭和空間門の家宣伝ポスター——島 村 亮 汰
inspration 6——末 吉 由 佳 梨
パッションの宙 (そら)——玉 城 久 美 子
いじめの現状 I——玉 城 美 衣 奈
愛鳥月間ポスター——知 念 信 雄
IDA 高等課程卒業制作展——徳 元 亜 由 美
Dialogue To Universe
~宇宙との対話~——仲 里 都 貴 江
沖縄県立芸術大学・
大学院造形芸術研究科
第 27 回卒業・修了作品展——長 浜 翼 輝
キジムナーとユタ
辺野古の海を語る——野 原 正 浩
児童館利用者 up ポスター——比 嘉 江 梨 加
Feel so good——屋 部 憲 光
Floral island okinawa——山 里 永 作
ありがとう。——与 儀 一



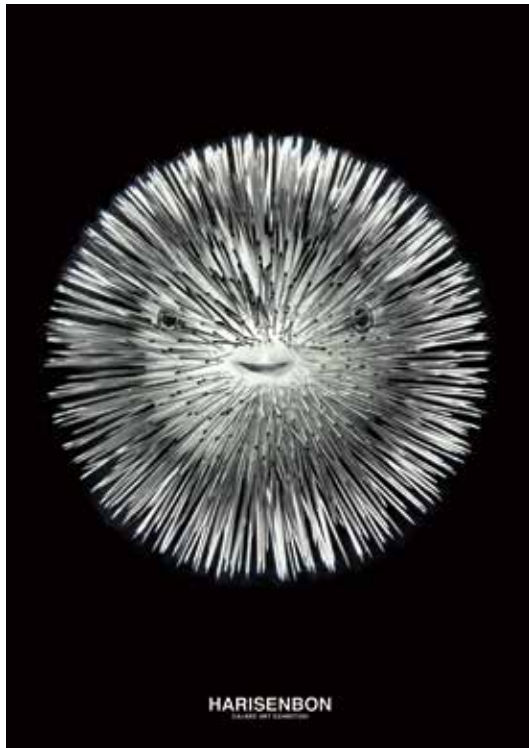
市場の女 # 44/279 (B0) ウチマ ヤスヒコ (会員)



今、電子書籍が熱い!! (B0) 小浜 晋 (会員)



ポスター「Reborn 2016B」(B1)
玉城 徳正 (会員)



HARISENBON (B1) 知念 仁志 (会員)



CORAL REEF OKINAWA (B0)
岸本 一夫 (会員)



レスボスの日々ー夜明けまでー (B1) 中井 結 (準会員)

準会員賞

ZERO:RED Type (B1)
キムラ ロメオ (準会員)



キムラ ロメオさんは、1999年に第51回準会員賞、今回2016年は第68回準会員賞で2度受賞し、沖展会員に推挙された。第51回の準会員賞から今年の沖展まで17回準会員として出品し、勝ち取った受賞作品である。

キムラさんの作品を準会員賞に推挙するか論議し全会一致で決定した。

作品は全体に赤色で、ZEROの英字が目にとまった。赤色全面にZEROを縦に配置し、よく見ると、トリック・アート手法で、サンゴや貝がらのかけらと遺骨が混ざりあって立体に構成されている。誰も思いつかない発想で表現している。

作品左上の英文2つの意味、メッセージは、

① Life is a treasure 「命どう宝」＝命こそ宝。

② Let's aim at animal slaughter zero、動物殺処分ゼロをめざそう。

※ポスター中央 ZERO の文字の下に敷かれた赤色の布は生命の色をイメージし、ポスター「ZERO」を創作しているようだ。

キムラさんは積極的に県外コンクールに応募し受賞を続けている。

これからもトリック・アートの創作を続けてほしい。受賞おめでとう。

評—宮城 保武 (会員)

準会員賞

沖縄と韓国[お面] (B0)幸地 のぞみ(準会員)



幸地のぞみさんは昨年に引き続き2年連続の準会員賞受賞で、会員推挙となった。

作品の「沖縄と韓国[お面]」は、昨年の沖縄と韓国をテーマにした作品と繋がりがるように感じる。韓国と沖縄の交流は、琉球王朝時代からあり、現在も観光の分野を中心に友好関係が続いている。幸地さんの作品は、韓国と沖縄の共通点や友好関係を願う気持ちが表れた作品のように感じた。

沖縄の八重山地方に伝わるアンガマのお面と韓国の東江地方の河回仮面(ハフェタル)は、いずれも伝統芸能で使われているお面であり、男女が対になっている共通点もある。とても興味深いことであり、そのことに着目した幸地さんの探究心が、優れた作品を生み出したのだろう。

作品は写真ではなくイラストによる表現で、木の材質感を、コンピュータを駆使し表現している。

今後も、幸地さんの情熱あふれる作品を期待している。

評一知念 仁志(会員)

沖展賞

センス オブ ワンダー イン ザ トロピカル ナイト (B0) 大村 郁乃



静寂な満月の月明りの森。

ここに表現された風景は、写生的なものではなく、時間というフィルターを通したイメージの空間です。大きなガジュマルの根が持つ生命力溢れるエネルギーは、鑑賞者を魅了することと思います。

星がまたたく上空の色から、地平線に近いグラデーションの柔らかな表現は、独特な温度を感じ、ダイナミックに描かれた、からみ合うガジュマルの枝が画面から飛び出していて、構図を成す構成要素も最大限に活かされています。

そして、統一感のある色調が、懐かしい親しみさえわく表現となっています。巧みに描かれたイラストレーション原画の中、キノボリトカゲを探すのも楽しみな作品となっています。

大村郁乃さんは、2014年と今回の受賞で準会員へ推挙されました。次回は更なる感性で表現された作品に出合えることを期待します。

評—知念 秀幸（会員）

奨励賞

創造してみよう！－ 4 （B0）
川平 勝也



漆黒の闇に浮かぶ色彩と光のシンフォニー。最新の画像ツールが生み出す驚異のテクノロジー。優れたクリエイティブがグラフィックデザインの新時代を開く。

「創造してみよう！」という主題のように、川平さんは昨年の奨励賞に続き今回も個性的な作品を出品し、2度目の奨励賞を受賞した。

作品は、画面中央から放射状に拡散していく鮮やかな光の帯が揺らめいたり、ネオンのようにきらめきながら浮遊する空間に、英文と日本語が交差するコピーを配置した構成となっている。

画面上部のモンスターを連想させる形態や宇宙空間、または夜景など見る側に様々な想像の世界を広げる。まさに自在に変化する現代アートを見る思いがする。画像やコピーのレイアウトは適確で、制作者のキャリアと才能が十分に汲み取れる。

コピーから察すると、クリエイティブ集団の要員を募るポスターと思われるが、曖昧な表現のために目的が伝わりにくく、ポスターとしての訴求力に欠ける嫌いがある。沖展賞に一步届かなかった理由もそこにあるのでは。しかしグラフィックデザイナーとしての川平さんの斬新で優れた発想に敬意を払うと共に可能性に満ちたこれからの活躍に期待する。

評一金城 正司（会員）

奨励賞

おきなわじまのはじまり （55×145）
和田 瑞希



この作品は、沖縄島がまだなかった頃の物語である。

作品に「あこなわ」はじまりのうた、と書かれているのは、沖縄島のことで、沖縄大百科事典によると「阿児奈波（あこなは）」奈良時代の地名で沖縄島をさす。となっている。

作品は有史以前の神話で、女神アマミキヨによって島がつくられた物語から素材を考え、絵本の表現方法として、本ではなく、一枚の透明アクリル板に表わし、更に、立体感をもたせるため、パネルにアクリル板を取付け、その隙間に光がさしこむことで、イラストが立体的に見えることと、色彩の変化を生み出すように工夫された作品として、アピールしている。

手書きと、切絵のおもしろさを、うまく組み合わせ、絵本を一枚のパネルに展開させた表現が、審査員の賛同を得て、奨励賞に輝いた。おめでとう。作者は二十代、将来が楽しみである。更なる表現力に期待したい。

評一岸本 一夫（会員）

奨励賞

沖縄を世界へ (B0) 花城 達紀



花城達紀さんは初出品で、奨励賞という輝かしい結果であった。

作品の「沖縄を世界へ」は、沖縄が世界に誇れる文化、歴史、自然が緻密に表現されている。左側の白い部分が、全体をすっきりさせ、波のような動きのあるレイアウトは躍動感を与えている。波を構成しているのは、首里城、ジンベイザメ、シーサー、紅型、三線、ハイビスカス、蝶、ウミガメ、エイサー、花笠など様々な沖縄らしいモチーフである。

地球を取り囲むように見えるハートは、沖縄の心を世界に届けたいというメッセージがうかがえる。色合いも、ハートの部分は赤やピンクの暖色系と波の部分は青や紺碧などの深みと意味合いが考慮されている。

グラフィックデザインで大切なのは、情報を相手にしっかり伝えることである。花城さんの作品は、沖縄の素晴らしい文化、歴史、自然を世界へ発信したいという思いを強く感じた。

評—知念 仁志 (会員)

浦添市長賞

Blue Moon ブルームーン (B1) 仲里 都貴江

第63回浦添市長賞、第65回奨励賞、第66回浦添市長賞、第67回奨励賞、今回第68回浦添市長賞と5度受賞している。

今回も自然界をモチーフにした大宇宙の作品である。仲里都貴江さんの作品は人間が抗うことのできないこの大宇宙。そして光り輝く惑星の数々…。満月の光りのスペクトルの中に何色もの色彩が光り輝き、その輝く満月を何年もの間撮り続けて来た満月を表現しパステルで仕上げた作品のようである。

「Blue Moon (ブルームーン)」は自身の感じとった満月を、自分自身の感性で表現している。

大宇宙は常に新しい惑星が誕生し、変化し続けている。

作品は画面全体に光り輝く満月と惑星が大宇宙の広大さや奥深さを感じさせている。

光り輝く満月の動きを観察しなければ大宇宙の作品は生まれない。斬新で全体の構図も良くパステルで描いたイラストや文字など良くデザインされている。エネルギーに満ちた大宇宙を追い求めて新たな創作を…。

受賞おめでとう。

評—宮城 保武 (会員)





うるま市長賞

無秩序の秩序 (116×91)

吉田 コマキ

吉田コマキさん、2014年の奨励賞に続く二回目の受賞作である。

アクリル絵具をベースに顔料インクで描画、その上にメディウムで立体性と余韻を与え、心象風景を描いたイラストレーション作品である。深海を思わせる深い藍色を背景に、岩場から無秩序に成長をつづける海洋生物。その夥しい数の白い触手と光合成の証拠として放出される大小の水泡が、勢い良く上昇する動きのある画面構成となっている。また、一見冷たく寒色系の色相は休みなく蠢く白色の有機体と、絶えず呼吸をつづける樹根によって瑞々しく力強い活気と生命力を手に入れている。

無秩序に見えるこの生物の成長過程は、よく観ていくと、ある一定の秩序の基に増殖する生命体を想起させる。秩序と無秩序の間。その境界線を遥かに超越したところ。作者の心情は常にその線上で揺れ動いているのかもしれない。深く暗い海底を掻き分け見上げるのは愛と希望に満ちた朱色の光源か。はたまた森の奥の祠から眺めるエメラルドの水平か。

観る者を心象世界に引き込むこの作品は、自然あふれるうるま市の市長賞を受賞するに相応しい、大自然の営みと心中の宇宙観さまざまな「物」「事」「場」を想像させる良作である。吉田さんの、今後の更なる精力的な創作活動を期待するものである。

評—ウチマヤスヒコ (会員)

沖縄教育出版賞

ココくま君のホワイトウォーター (B1)

松田 萌

受賞作は、大学の地域貢献活動の一環で、コンビニエンスストアと共同で行った授業で取り組んだ作品で、実際にコンビニ店頭で発売された商品の広告物である。学生のデザインによる社会参加活動として大変意義深いものである。

ポスター・パッケージデザイン・POPなど販売促進用として展開したもので、夏限定商品に、白熊(ココくま君)キャラクターをメインにしたキービジュアルで統一展開し、キャラクターの表情や氷山が可愛くシズル感たっぷりに表現され、同世代の若い購買層に共感を得る効果が出ている。イラストやレイアウト・色使いもシンプルに整理された素敵なデザインに仕上がっている。

このように学校での創作活動が、実際の売り場で販売される商品デザイン開発に携わることを体験するのは、デザインと社会との関係性を考える上で貴重な取り組みだと思う。学校・企業・行政の各担当者の方々には今後も幅広く感性豊かな学生にトライする機会をつくって頂ける環境づくりを願うとともに、学生達もそれに積極的に取り組んだ楽しいクリエイティブ活動を期待する。

評—玉城 徳正 (会員)



書芸部門

総評一茅原 善元（会員）

沖展は1949年に産声をあげて今日に至っている。今年は68回展を迎える。因みに書芸部の増設はこれより5年後の第6回展からであった。人の年齢にすると68歳。実に尊い歳月を経て数多くの有能な人材を各分野へ輩出しているのである。正に沖展は本県芸術文化の発展に著しい貢献をなし、未来へ羽撃く夢実現の有り難い架け橋的舞台なのである。

書芸部の審査は昨年同様一日で終わっている。午前9時審査総会後10時には応募作の審査が始まった。昨年比より12点減の263点が審査台に。厳選の結果70%に相当する15点以上獲得の作が入選となった。

更なる審査を経て沖展賞1点、奨励賞4点、浦添市長賞1点、うるま市長賞1点、沖縄教育出版賞1点それぞれが選出された。殊に特筆に値することを記する。

今年の沖展賞に輝いた作は殊の外作者が長年にわたる稽古鍛錬を積むも紆余曲折が幾重にも。苦汁の辛酸を嘗めての受賞は歓喜の涙を誘うものがあった。次に準会員賞を決定する時がやって来た。出品数28点を3回の厳しい審査を経て2作が準会員賞に決まったのであった。何時の時代も厳しい審査と言う人の眼を潜り抜ける覚悟をせねばならない。

また、一歩足らずの努力や運に捲土重来をせねばならない人もいる。どうか書芸術の道に挑むなら己自身に練磨必定を期す信念と勇氣凛々さを大いに漲らせ、日頃を怠ることなく自我に拍車を掛けることである。

申すまでもなく芸術文化の分野に生涯の道と定め、一人前と称されるに三、四十年余の地道な稽古鍛錬を要するとよく耳にしたが、職人芸の道を極むるは並大抵の道程ではないようである。これまで長年にわたり沖展書芸術文化の向上と人材育成に献身的に牽引役をされた先輩の先生方のご労苦に深甚なる感謝の意を表し書芸部の総評とする。

< 前期・後期 >

会員作品

愛は寛容であり——東 江 順 子
韋編三絶——安 里 牧 子
桜月夜——阿 部 田 鶴子
凜巖——新 城 弘 志
牧水の歌——上 原 幸 子
破顔一笑——運 天 雅 代
老子詩——大 城 武 雄
李白詩——大 城 稔
七言律詩五首——大 山 美代子
論語——我 喜 屋 明 正
黄山谷詩——我 部 幸 枝
若——神 山 律 子
与謝野晶子のうた——小 杉 紘 子
夜もすがら・・・——砂 川 米 市
春夜喜雨——砂 川 榮 子
孫逖詩——高 良 房 子
静慮——田 名 洋 子
愛毓——茅 原 善 元
詩句——渡 名 喜 清
早春賦——豊 平 信 則
禅語 山花開似錦
澗水湛如藍——名 嘉 喜 美
菜根譚——長 浜 和 子
李夢陽詩——仲 村 信 男
六諭衍義一節——中 村 裕 美
夕月夜——仲 本 清 子
夜歩——西 蔵 盛 英 雄
丹楓葉落寒——比 嘉 千 鶴子
鳳來麟現——比 嘉 安 子
水流心不競——比 嘉 良 勝
魂魄——東 恩 納 安 弘
隙駒 令月——前 田 賢 二
五字聯——眞 喜 屋 美 佐
彩鳳舞丹霄——宮 里 朝 尊
一瞬一生——盛 島 高 行
春夜洛城聞笛——山 城 篤 男
花見つ——山 城 美智子

準会員賞

天地無私春又帰 辞理明暢
為虎傅翼 師敵道尊——金 城 多美子
病中有感 高麗林棒詩——豊 平 美奈子

準会員作品

韋応物の詩——天 久 武 和
牧水のうた——石 津 陽 子
杜甫詩——上 門 かおり
温庭筠詩——上 地 徹
漢詩六首——上 原 孝 之
芒種後経句無日不雨偶得
長句 陸游詩——我 喜 屋 ヤス子
銅雀臺——漢 那 治 子

代阮籍詠懷 其一——幸 喜 石 子
寒山詩——島 尚 美
除夜作 他三首——島 崎 サダエ
菜根譚の一節——城 間 律 子
征途曉に発す 他二首——新 垣 敏 子
かぜそよく——新 里 明 美
何景明詩三首——新 里 智 子
書懷 他二首——友 利 通 子
西津別妓——仲 里 徹 子
櫻——西 澤 恒 子
龍門の大遺跡——福 原 兼 永
「ふじの木」のある風景——松 堂 征 子
蔡大鼎詩——松 堂 康 子
雲間より——宮 城 政 夫
古今和歌集仮名序より——村 山 典 子
百人一首——本 村 晴 美
夢李白二（杜甫詩）——吉 里 恒 貞
百人一首——吉 田 優 子
蘇舜欽詩太湖を望む 他三首——与 那 嶺 典 子

沖展賞

春日郊外 他二首——伊 野 前 喜美子

奨励賞

谷風——安 座 間 賀 子
觀心同水月 脩己以敬
研精覃思 好學近乎知——小 林 好 生
積善余慶 心有天游 游魚動綠荷
竜飛鳳舞 和顔既以暢——田 頭 節 子
唐詩——仲 宗 根 司

浦添市長賞

和祠部王員外雪後早朝即
時 他二首——謝 名 堂 奈緒子

うるま市長賞

春の歌七首——當 間 秀 美

沖縄教育出版賞

春の山辺——比 嘉 優 花

特別展示

馴染——泉 朝 信

一般入選作品 <前期>

<漢字>

尋花——知 念 栄 子
 高青邱集——知 念 レイ 子
 高青邱詩——津 嘉 山 純 枝
 律詩三首——照 屋 敏 子
 送張子尉南海登總持閣——天 願 圭 祐
 關下贈裴舍人——当 真 洋 子
 元好問詩 他一首——当 山 初 江
 杜甫詩——德 里 美代子
 秋懷詩——渡 口 葉 子
 和淵明雜詩 他一首——富 盛 朝 秀
 蔡大鼎詩——富 山 美智子
 漢詩——豐 平 美榮子
 擬陶 他一首——長 堂 加代子
 鄭虞臣詩——仲 舛 由美子
 種蓮——長 嶺 こず枝
 彭澤雨泊有懷陶公 他一首——長 嶺 朝 弘
 唐詩——仲 本 一 郎
 高青邱詩——名 渡 山 千恵子
 漂母祠 外二首——根 路 銘 昭 子
 曹植詩——比 嘉 德 史
 蘇東坡詩——比 嘉 勝 子
 程順則詩——比 嘉 さつき
 漢詩二首(舟中 西湖春日)——日 高 俊 彦
 漢詩二首——日 高 米利子
 春日齋中即事——比 屋 根 尚 美
 双竹の濕師の房に書す 他二首——平 田 悦 子
 高青邱詩——終 崎 ケイ 子
 秋日觀稼樓曉望 他二首——福 地 恭 子
 秋蓮——古 堅 直 子
 曉雨復登燕子磯絶頂——平 敷 律 子
 郊遊 外一首——星 川 初 見
 李白詩——真 栄 田 義 之
 漢詩五首——真 壁 恵 子
 漢詩二首——真 謝 幸 代
 漢詩——又 吉 澄 枝
 和陶 他二首——松 川 美智子
 雪中尋梅 他二首——松 本 弘 子
 荀子——嶺 井 律 子
 蘇東坡詩——宮 城 圭 子
 蔡大鼎詩——宮 城 孝 子
 読売山絶句有感 他二首——宮 城 政 子
 寒山詩——宮 城 みち 子
 由南昌至吉安舟行雜詩 外二首——宮 城 洋 子
 蔡大鼎詩——宮 里 えり 子
 送張子尉南海 他二首——宮 里 博 子
 杜甫詩——宮 平 妃 女花
 送人使河源 他四首——宮 良 明 美
 楓橋 他——森 さゆり
 蔡大鼎詩——盛 島 洋 子
 蔡大鼎詩——森 田 綾 子
 王洪詩——山 内 南々子

山陰道中三首 其一、二——山 里 美代子
 高青邱詩——山 城 捷 明
 高青邱詩三首——山 城 英 子
 李白詩——屋 良 知絵未
 杜甫詩——屋 良 美 香
 湖に憶う三首——与 儀 ふじ江
 陳都師に贈る 外二首——与 儀 政 子
 高青邱詩——与 儀 好 子
 雜詩 外二首——與 那城 千恵子
 蔡大鼎詩——與 那霸 初 子
 蘇東坡詩——與 那霸 律 子

<調和体>

かなりや——後 藤 豊 彦
 鳩間節——玉 城 笙 子

<仮名>

良寛のうた——志 田 美代子
 あさの雲……——島 袋 侑 子
 桜——城 間 杏 奈
 卯の花……——瀬 長 由美子
 春の歌——田 場 ツル子
 湖の上に……——田 場 啓 子
 良寛の歌(三首)——玉 那霸 節 子
 晶子の歌三首——渡 久地 美佐子
 みちか夜——渡 慶次 喜代美
 花をのみ……——名 嘉 久美子
 春かぜ——仲 程 一 美
 はるのあけぼの——新 田 千賀子
 秋近き——比 嘉 栄 子
 春風——備 瀬 恵 子
 福寿草——福 原 美 枝
 島木赤彦のうた——松 田 春 美
 この里も——宮 城 多佳子

<卷子>

夢——丸 谷 幸 子
 冬の歌——諸 見里 史 子

<篆刻>

萬寿無疆 萬國津梁
 風光明媚 老當益壯——須 藤 保
 年年歲歲 一葉知秋
 吟遊詩人 頂天立地——関 口 恵美子
 束馬懸車 将門有将
 魚質龍文 仁者樂山——玉 城 鶴 枝
 先憂後樂 鳥歌花舞
 射石飲羽 軋禍為福——仲 村 愛
 初軋法輪 盤樂遊嬉
 游魚出聽 融通無礙——山 城 千恵子

一般入選作品 <後期>

<漢字>

廢瑟詩 他一首——赤 嶺 美智子
 杜甫詩——安 里 弘 子
 漢詩三首——安 座 間 澄 子
 謝維焜詩——安 谷 屋 実 加
 唐詩——天 久 美津枝
 蘇軾の詩五首——新 垣 惠津子
 上湖南崔中丞 他一首——新 垣 絹 枝
 漢詩二首——池 原 米 子
 唐詩——石 川 美智代
 送人還京——石 原 勝 子
 東山寺 外二首——稲 嶺 法 子
 蔡大鼎詩——伊 波 エツ子
 王維詩——伊 禮 かおる
 蘇東坡詩——上 門 静 子
 漢詩二首——上 江 田 敏 博
 西江胎釣叟養生 晚泊岳陽 上 原 啓 子
 求巖蓀友楷書離騷經——上 原 千枝美
 律詩四首——上 間 智 子
 山翠——内 間 綾 子
 蔡大鼎詩——内 間 カズ子
 歲暮——浦 崎 康 哉
 蔡溫詩——栄 野 川 栄 子
 田園雜詩 其三 他一首——近 江 幸 子
 新興至陽春——大 島 常 功
 七言律詩三首——大 城 加代子
 李白詩三首——大 城 紗 和
 漢詩二首——大 城 百合子
 七言絶句三首——太 田 節 子
 漢詩——太 田 美枝子
 子由の澠池懷旧に和す 他二首 大 田 安 子
 七言絶句二首——小 川 和 美
 蔡大鼎詩——奥 濱 喜美子
 秋懷 外一首——嘉 手 苅 陽 子
 杜甫詩——兼 城 ゆ い
 豐樂亭遊春 他五首——神 里 和 子
 高其倬 他二首——神 谷 希 子
 白楽天二首——神 山 直 子
 杜甫詩——香 村 春 乃
 妙高台 他一首——亀ヶ谷 牧 子
 蔡大鼎詩——川 上 タケミ
 蔡大鼎詩——川 中 留 美
 十七夜月・桐江（其四、五）喜 久 山 安 子
 秋山 他一首——喜 屋 武 美佐子
 唐詩三首——金 城 真理子
 漢詩——金 城 美 惠
 高棟詩——金 城 めぐみ
 春夜阻舟尤村渡華子攜酒見訪——國 吉 真 吾
 送陸蕙晦 他一首——桑 江 美惠子
 雷 外二首——小 橋 川 町 子
 漢詩 ていんさぐの花——米 須 浅 美
 高適詩——酒 井 文
 漢詩三首——島 津 和 美

西江晚泊 他一首——島 袋 敬 子
 櫟欒 他——島 袋 園 子
 唐詩五首(送別魏二他四首) 島 袋 ひろみ
 山中晚歸 他一首——下 里 佳 惠
 無題——昇 高 愛
 李頎詩「題璿公山池」——城 間 小 采
 江亭 他一首——城 間 美 香
 漢詩二首——平 良 悦 子
 宿唐洞寺 他一首——平 良 小夜子
 漢詩三首——平 良 久 子
 黃庭堅 漢詩二首——高 田 良 實
 蔡大鼎詩——田 端 場 愛 子
 梅花九首 他一首——田 端 喜 代
 夏日閒居 他二首——田 福 宏 美
 唐詩四首——玉 城 悦 子
 漢詩二首——玉 那 霸 明 美
 陶淵明 雜詩 其一、其二 玉 那 霸 すみ子
 李太白橫江詞——玉 元 庄 弘
 漢詩三首——田 港 玲 子

<仮名>

おほきみの——新 垣 任 紀
 茂吉のうた——石 川 葉 子
 いく山河……岸 本 弘 子
 春から夏へ——喜 納 竹 子
 ふるさと——儀 間 洋 子
 睡蓮——喜 友 名 正 子
 夜をふかみ……小 波 津 園 子

<帖・卷子>

李白詩——伊 佐 直 美
 夏来にけらし——上 元 優
 白楽天五首——城 間 ハツエ

<篆刻>

守道有天知 長厚清修
 地道無成 景氣和暢——赤 嶺 悦 子
 旅進旅退 同道者相愛
 射石飲羽 忍之一字衆妙之門——安 里 涼 子
 變化時有 光陰如箭
 靜坐山齋月 長樂無極——伊 佐 澄 子
 地利人和 別是一乾坤
 辞達而已 辞理明暢——大 城 愛 子
 安身静體 慎始敬終
 天道無親 道法自然——桑 江 慶 子
 能事畢矣 魚鱗鶴翼
 光陰如箭 萬古長青——古 謝 治 子
 般若心經——吳 屋 純 媛



老子詩
大城 武雄 (會員)
(225×53)



李夢陽詩
仲村 信男 (會員)
(223×52)



詩句
渡名喜 清 (會員)
(225×53)



彩鳳舞丹青
宮里 朝尊 (會員)
(235×53)



春夜喜雨
砂川 榮 (會員)
(240×60)



夜步
西藏盛 英雄 (會員)
(240×60)



菜根譚
長浜 和子 (會員)
(232×53)



丹楓葉落寒
比嘉 千鶴子 (會員)
(226×53)

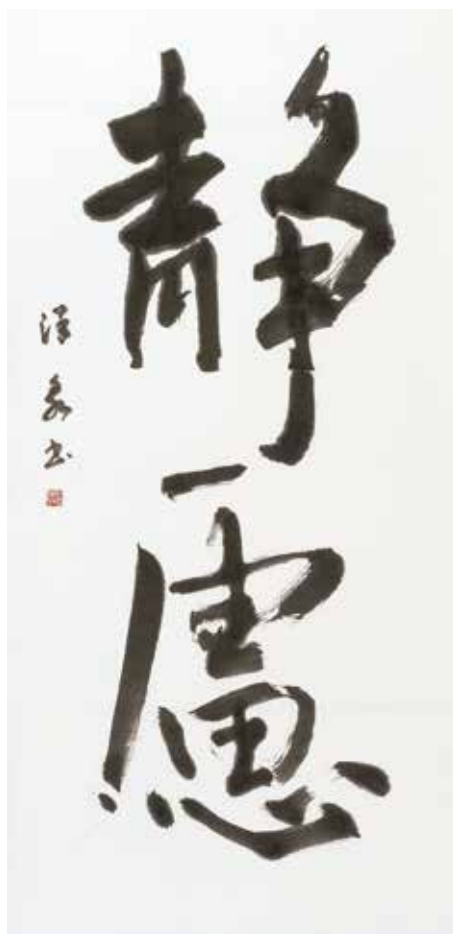


(70×170)

愛毓 茅原 善元 (会員)



五字聯
眞喜屋 美佐 (会員)
(135×70)



静慮
田名 洋子 (会員)
(135×70)



破顔一笑
運天 雅代 (会員)
(135×70)



(62×191)

禪語 山花開似錦 澗水湛如藍 名嘉 喜美 (会員)



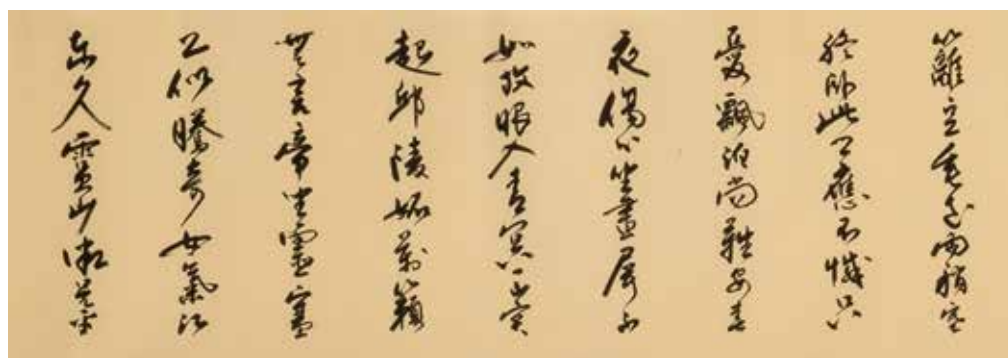
若
神山 律子 (会員)
(135×70)



凜嚴
新城 弘志 (会員)
(100×55)



鳳来麟現
比嘉 安子 (会員)
(136×37)



(30×350)

七言律詩五首（部分） 大山 美代子（會員）



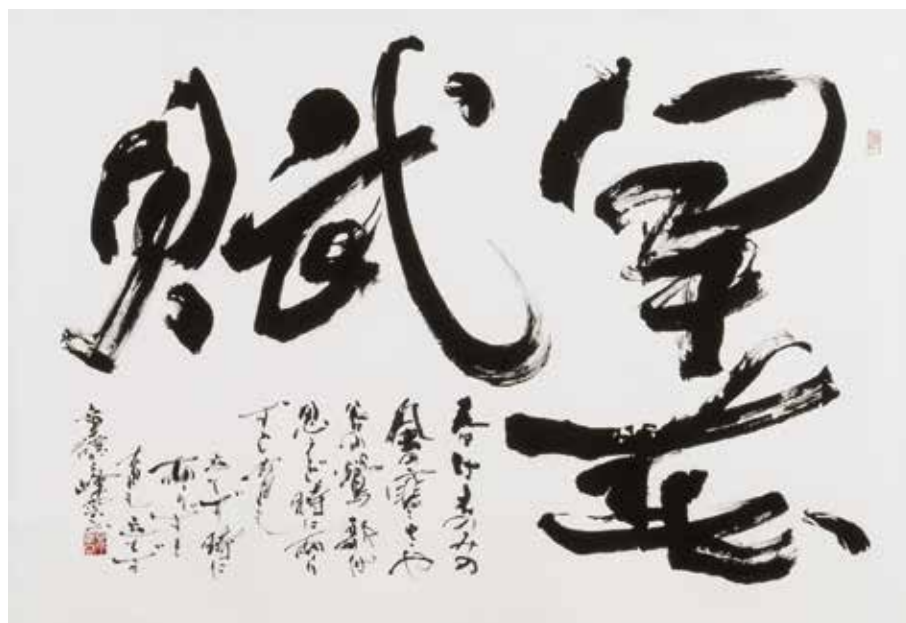
李白詩
大城 稔（會員）
(170×70)



黃山谷詩
我部 幸枝（會員）
(170×70)



一瞬一生
盛島 高行（會員）
(170×67)



(90.5×132)

早春賦 豊平 信則 (会員)



(65×65)

論語 我喜屋 明正 (会員)



(78×97)

韋編三絶 安里 牧子 (会員)



(39×70)

愛は寛容であり 東江 順子 (会員)



(70×136)

魂魄 東恩納 安弘 (会員)



(70×140)

孫逖詩 高良 房子 (会員)



水流心不競
比嘉 良勝 (会員)
(52×32)



隙駒 令月
前田 賢二 (会員)
(68×48)



(60×180)

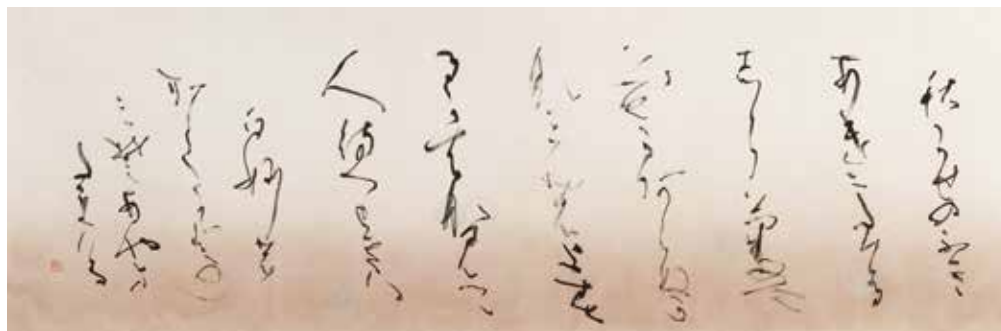
与謝野晶子のうた 小杉 紘子 (会員)



牧水の歌
上原 幸子 (会員)
(198×62)



夕月夜
仲本 清子 (会員)
(220×53)



(60×180)

花見つつ 山城 美智子 (会員)



(60×180)

桜月夜 阿部 田鶴子 (会員)



(70×135)

夜もすがら・・・ 砂川 米市 (会員)

準会員賞

書芸は文字を書くことを通して、自らの心象を表現することに尽きる。勿論そのプロセスとして先達の墨跡を臨書し考察を重ねることで、自分らしい作風を作り上げていく。

その表現の為に文房四宝を選び撰文し、充分に書き込んで作品を生み出していくのである。

この作品は、細微光峰の超長峰を使用し、濃墨を用いたため、潤渴の効果が表出され、運筆は曲線を多用に、そして心の赴くままの筆致は律動感を伴い、優しさと楽しさが加味されたものである。

又、筆圧の抑揚は心憎いほどのテクニックである。しかも文字の大小・肥瘦・潤渴が自然体で表現されており、文字群の構成も良く、空間が美しくバランスの取れた作品となった。これからも益々研鑽され更なる飛躍を望む。

評—豊平 信則（会員）



病中有感
高麗林棒詩
豊平
美奈子（準会員）

(222×53)



(70×40)

準会員賞

沖展受賞歴は2001年を皮切りに奨励賞3回、2007年、今年と準会員賞を受賞し会員推挙。金城さんの情熱は篆刻の深い学びの中から訓練され鍛えられて、希望を持ち続けた結果が作品の輝きとなり、今回準会員賞に選ばれたことは誠に喜ばしい事である。篆刻は方寸の世界の芸術といわれるが、その中に自分らしい文字学への美の追求が良い作品効果となって良かったと思う。

さて作品の4顆中の1顆は、9センチの円形印に7文字を疎密に布字し、多字数の成語を違和感なく纏め上げた作は刀タッチの機敏さと迫力が感じられた。「為虎傳翼」は7センチ5ミリの角印に、朱文で甲骨文と金文で構成され引き締まりがあり、線の細さで変化を出して強さを増し加えた。全体的に独自性の雰囲気でも仕上げたセンスの良さと筆意が感じられた。そして側款の赤と黒のコントラスト、拓の採り方など絵心があり好感持った作品は人目を引いた。益々の精進を祈る。

評—東江 順子（会員）

天地無私春又帰
辞理明暢
為虎傳翼
師嚴道尊
金城
多美子（準会員）



西津別妓
仲里 徹 (準會員)
(242×61)



蔡大鼎詩
松堂 康子 (準會員)
(225×53)



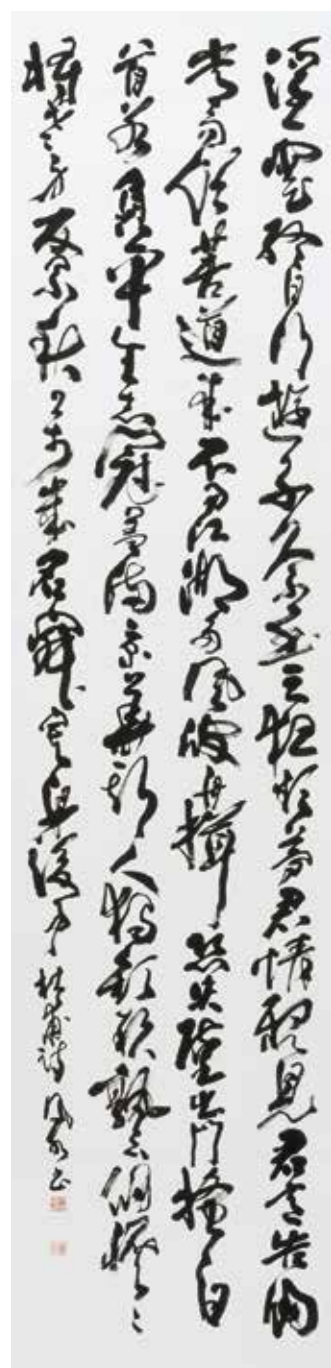
芒種後經句無日不雨偶得長句
陸游詩
我喜屋 ヤス子 (準會員)
(240×60)



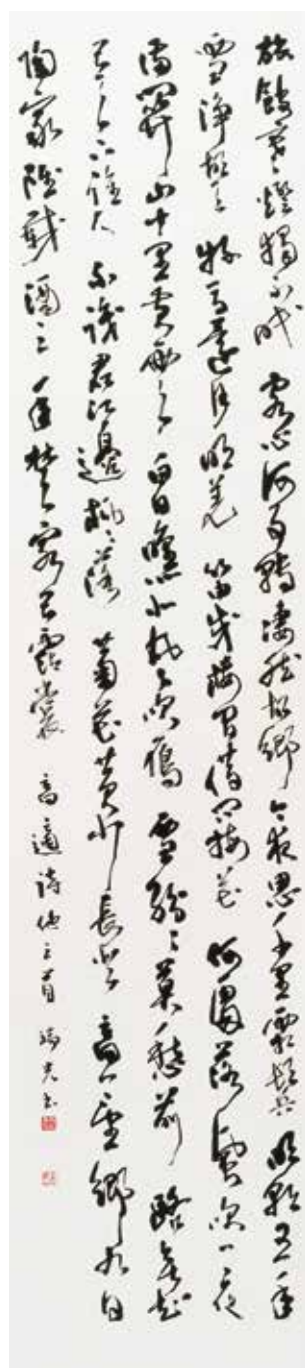
何景明詩三首
新里 智子 (準會員)
(227×53)



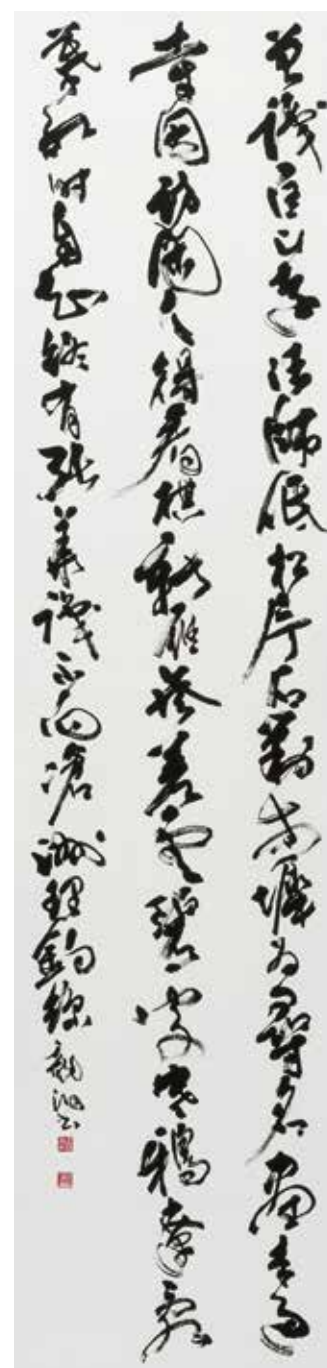
征途曉に発す 他二首
新垣 敏子 (準会員)
(228×53)



夢李白二 (杜甫詩)
吉里 恒貞 (準会員)
(228×53)



除夜作 他三首
島崎 サダエ (準会員)
(228×53)



温庭筠詩
上地 徹 (準会員)
(227×53)



韋応物の詩
天久 武和（準会員）
(227×53)



漢詩六首
上原 孝之（準会員）
(227×53)



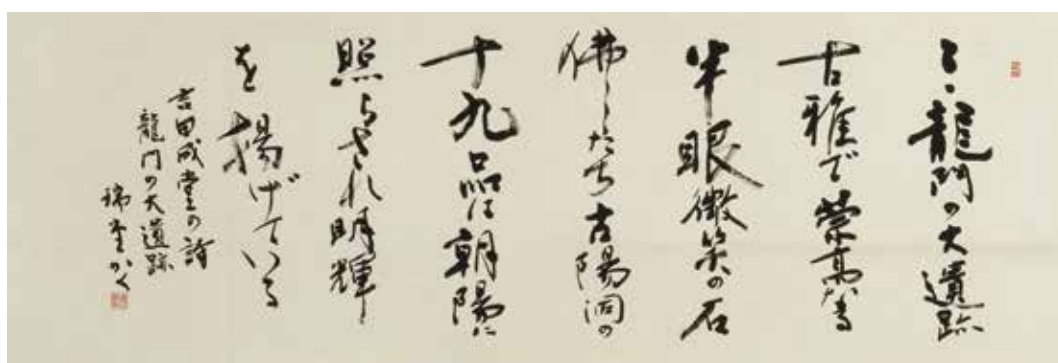
銅雀臺
漢那 治子（準会員）
(171×69)



蘇舜欽詩太湖を望む
他三首（部分）
与那嶺 典子（準会員）
(30×360)



杜甫詩（部分）
上門 かおり（準会員）
(35×327)



龍門の大遺跡
福原 兼永（準会員）
(60×180)

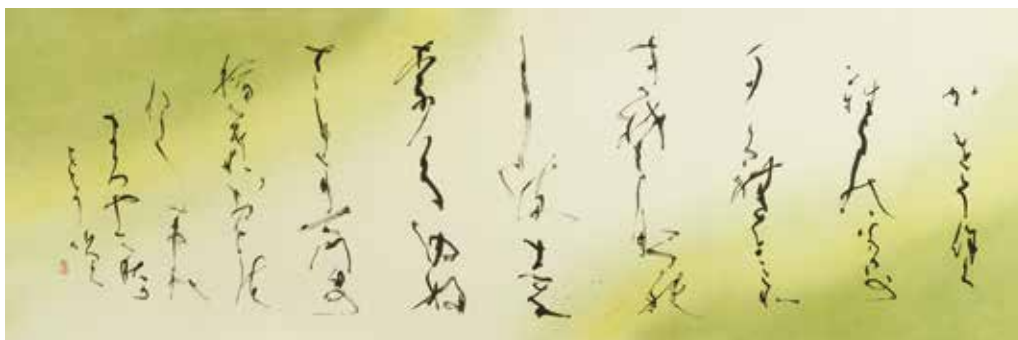


百人一首
吉田 優子（準会員）
(70×135)



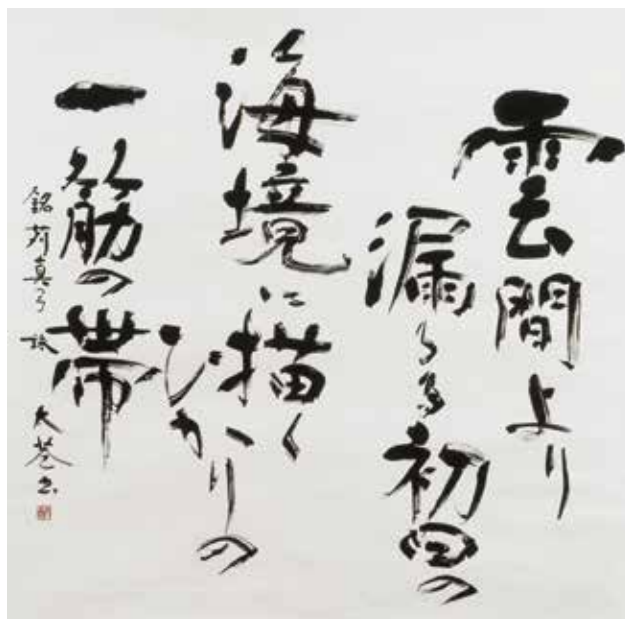
(60×180)

「ふじの木」のある風景 松田 征子 (準会員)



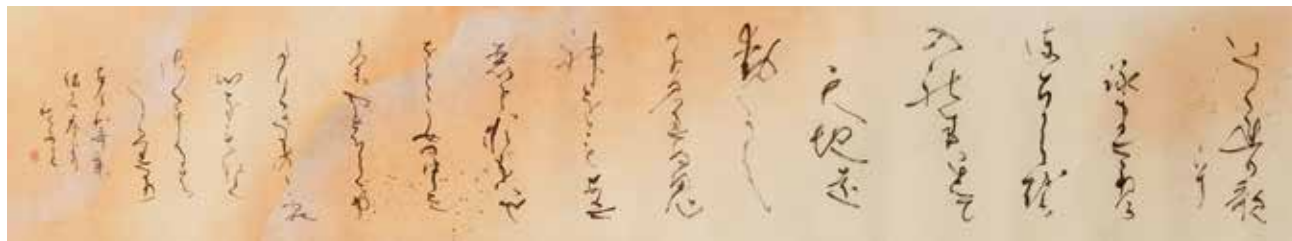
(60×178)

かぜそよぐ 新里 明美 (準会員)



(130×130)

雲間より 宮城 政夫 (準会員)



(34×360)

古今和歌集仮名序より（部分） 村山 典子（準会員）



(30×372)

百人一首（部分） 本村 晴美（準会員）



(25×252)

牧水のうた（部分） 石津 陽子（準会員）



(60×180)

櫻 西澤 恒子（準会員）

沖展賞

沖展賞受賞、そして準会員推挙、誠にありがとうございます。

王鐸、米芾の古典に学び、リズムと雰囲気表現したいとの願いと、日頃の努力の賜でしょうね。お見事です。

唐庚詩の春日郊外他二首を、大字3行、小字2行に纏めた構成は、バランス良く、緊張感を与えていると思います。大字の1行目は押さえぎみに表現し、2行目は懐の大きさと横張りで、うねりを美しく表現されていて、溢れる詩情さえ感じられます。それでいて気脈がしっかりしているので、3行目と共に作品の中心部を大きく盛り上げ、安定感が見られます。

また、小字の2行は、大字をよく補佐し、効果的に作品を引き締めています。全体的に墨量豊かで、潤渾も美しく、鋭い筆勢も感じられる格調高い作品となっています。

この素晴らしい感性を生かし、今後のご精進を期待しています。

評一高良 房子（会員）



春日郊外 他二首 伊野前 喜美子

(227×53)

奨励賞



(40×70) 積善余慶 心有天游 游魚動緑荷 竜飛鳳舞 和顔既以暢
田頭 節子

2014年のうるま市長賞に続いて2度目の奨励賞である。

この作品表装は作者得意のもので、測款拓と篆刻を同時に見せる手法である。五顆印は紙面にやや苦しい気もするが、図版に円形を使うことで調和を保っている。「積善余慶」は瓦当を意識した構成で、上部は縦画の多い文字をのびのびとまとめている。下部は横画の多い文字で中央に集まるので空間が狭くなる。息苦しくなるところを辺款の雅味でうく処理し明るい印に仕上げた。

白印二顆はそりの界線を細く入れたのと亜字形で全体を縮めて外へ逃げる力をうまくまとめた。朱印二顆は五文字を二行と三行で変化を求め工夫している。書体もバラエティに富んで居り、刻線はおだやかで、力みがなく生真面目な作品である。

篆刻は古代文字の学習研究なくしては成果は期待できない。ますます精進していい作品を作ってほしい。県芸と合わせて今後の活躍に期待する。

評—東恩納 安弘（会員）

奨励賞

李白の詩七首の五行構成で、躍動感漲る作品である。

たとえば、最初の小字二行は静かな序章。続く三行は、力に満ちあふれリズムカルな展開を見せ、終章は短く16文字を小字2行にまとめすっきりと終わる。見る者に、気持ちの変化や高まりや余韻を感じさせる、ドラマチックな構成である。

線は紙に食い込み、時に紙を切り、息吹を感じる。特に、展開部の三行は、筆圧をしっかりとかけた線と軽妙な線、筆の開閉や、線の粗密、墨の潤滑が見事に絡み合っている。背景に、顔真卿の臨書の研鑽を積んだ作者の、練度の高さが窺える。

また、線の抑揚や緩急の変化、文字の大小が行と行で響き合い、美しい行間を作っている。それが、力強さだけでなく、清々しさと爽やかさを感じさせる。

昨年亡くなった師は、「全体に生き生きとしたリズムがあり、気が入った作品がいい作品よ」と常に言っていた。これから古典臨書の研鑽を積み、ますますの精進を期待する。共に頑張ろう。

評—田名 洋子（会員）



唐詩
仲宗根 司
(227×53)

奨励賞



(60×178)

谷風 安座間 賀子

通し審査で、観た瞬間に印象に残った作品の一つである。
上段は紺の料紙にやや小さめの濃い墨色、強めの線で中央部を渴筆を交えながら行を粗にして書かれている。それでいて、全体として陰を呈している。
下の段は、薄くともグレー系であるため落ち着いたトーンの料紙となっている。そこに、行間をほぼ一定にしながらかげらない滑らかな線の動きと濃・渴のバランスがほどよく配され、それぞれの文字は幅の変化、フォルムの変化がある。
「春かけて」から渴筆の「ふりつ」で一群を成し、二群目は、懐の大きな「月」から始まって「夜には」まで濃墨を用いてゆったりと筆を進めている。中央部に「それ」から渴筆が始まり「梅の花」まで、筆から墨を絞り出しながらかつている。一見スピード感があるが近づいて観るとおろろから滑らかな線であり、「梅の花」は、行を落として余白を創っているため、渴筆の四行は心地よい「白」となっている。それが「陽」を呈している。
それらのことが料紙の濃淡の配分と相俟って、見た瞬間に印象に残る造形を成している。
また、中央の渴筆四行に対し、控えているかのような小さめの文字はゆったりと書かれている。それは落ち着いた雰囲気を出しており、それ故にじっくり観ていると一種の安心感すら覚える。
古今集より、「谷風に」から始まって四首の「春に因んだ歌」をよく表現していると言えよう。
この作に「行・行間の呼応」をもっと加味すると更に良くなる。今後の精進を期待したい。

評一砂川 米市（会員）



(60×39)

観心同水月
脩己以敬
研精覃思
好學近乎知
小林 好生

奨励賞

小林さんは遠方（千葉県）から出品している。数カ月沖縄の地に投宿し、日々研鑽を積み、栄えある賞を受賞した。
受賞作は、日頃篆書の学習に勤しみ、その上で鉄筆に持ち替えると、一氣呵成に運刀した、重厚でバラエティーに富んだ四顆である。「観心同水月」（朱文）は、金文の動的な造形を活かし、さらに界線を施したことにより、緊張感が生まれた。「脩己以敬」（朱白相间）は、「己」の朱字が効果的に使われており、筆意豊かに刻されている。「研精覃思」（白文）は、印篆体を用い鄧散木を意識した作。「研」の偏と傍の処理が巧妙だ。「好學近乎知」（朱文）は、小篆体を筆意のごとく刻し、「乎」と「知」の重心を思い切り上げることにより余白が生じ、印に疎と密の表現が出来た。
側款は、四顆とも隸書で纏め、陽刻、陰刻をおりませ、品位と安定感がある。
入賞に慢心することなく、今まで以上の精進を期待する。

評一前田 賢二（会員）

浦添市長賞

168の多字数を、前半大字を主文、後半小字を添文とした構成で前半、後半が見事に調和した佳作である。

線條は書き出しから最後まで、羊毛長鋒を自在に駆使し、リズムカルに書き進められている。文字や文字群は、大小、膨らみ、強弱のある線、適度なデフォルメと振幅で自然な行の揺れや流れを創り出し、余白の妙が醸し出されている。更に、濃墨の潤・渴のコントラストで前半、後半とも行間が効果的に響き合い、また、紙の薄黄色とも相俟って作品効果を高め、全体が清涼感溢れる心地よい作品となった。

謝名堂さんは、県内外の公募展でも活躍中で、今後とも、ご活躍を期待する。

評一砂川 榮（会員）

和祠部王員外雪後早朝即時 他二首 謝名堂 奈緒子



(227×53)

うるま市長賞



春の歌七首 當間 秀美

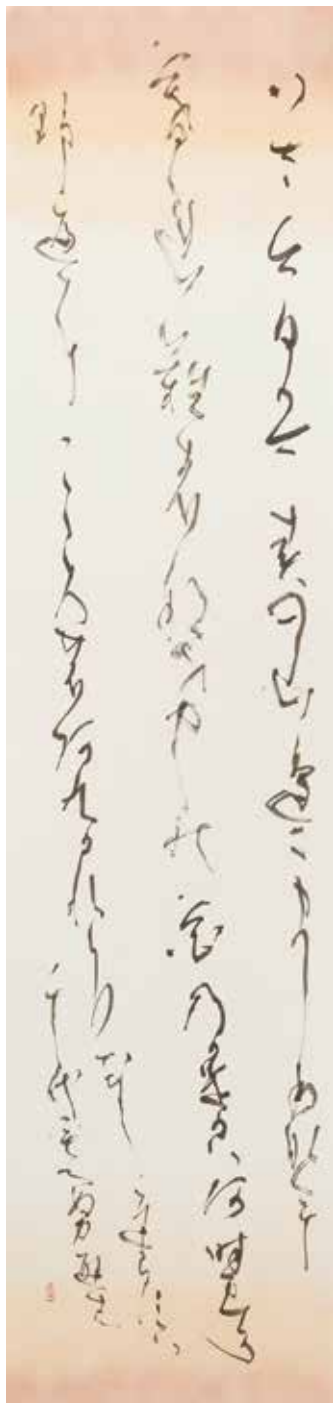
(180×60)

この作品、扇面7枚の縦方向への散らし貼り・使用料紙の配色・書かれた文字群の流れ、等々、大字かな作品とは一味違った小字かなの魅力・親しみやすさを強く印象づけ、観る者を“かな書”ならではの雅な世界へと誘ってくれる。

1枚々々の扇面が一つの作品としてのまとまりを保ちながら、7枚を穏やかな川の流れの如くに上から下へと配置し、3・4枚目の濃色を全体のアクセントとすることで下部をすっきりと見せている。

丁寧に書き込まれた線は、多少硬さは見られるが温かくやわらかな雰囲気であり、かな書のポイントの一つである流動美を存分に楽しませてくれる一作となった。日頃の書に対する真摯な取り組みが今回の受賞をもたらしたと思う。今後、さらに古典臨書に励み、基礎力を養い、一歩ずつ地道に精進されることを期待する。おめでとう。

評一小杉 紘子（会員）



(226×53)

沖縄教育出版賞

真に若さ溢れる伸びやかな作品。一見して墨量の変化による明るさと安定感に加え、かな作品の命とも云える線質の強さ、鋒先の使い方は抜群である。特に一行目の「まじ利那牟」の筆の稔転による変化は良い。只惜しいのは二行目上部の「難」がやや小さいこと。もう少し膨らみがあれば下部がすっきりしたのではと同意見も。一瞬の動きにあらゆる要素の工夫と知識が必要で、書の分野においても総合的な空間センスと技術が求められるのが、かな作品。ともあれ、ここまでくるのも一朝一夕にはいかない。

幼少から筆を持ち始め、更に中一から古典かなに興味を覚え、いろはの単体から変体仮名へと基礎をしっかりと学び現在に至る。その素養と継続、努力が今回の作品に表れたと思う。まだまだ人生は長い。今後も初心を忘れず、あせらず休まず、更なる仮名の研究に勤しんでほしい。ストレスの多い昨今の世の中、それに負けぬ精神力を書を通して身に付けてほしいとも願っている。

評—仲本 清子（会員）

春の山辺
比嘉
優花

写真部門

総評一翁長 盛武（会員）

一般応募173人307点。前年比で5人減6点増。88人101点が入賞・入選し、入選率は33%で、上昇した。

5人で審査し、挙手で入選101点を決めた。その後、挙手で12点の賞候補に絞り込み、投票で沖展賞を含む6点の賞を決めた。

一般応募に含まれる学生は4人5点で2人2点増だが、入選がなく、沖縄教育出版賞は該当なし。準会員は18人のうち11人11点の応募で、3人3点増。挙手で賞候補を絞り込み、その後、投票により、準会員賞2点を決めた。一般応募6人の入賞者のうち、1人を除く5人が初入賞。祭り、鳥、花火等、また、カラー 3点モノクロ3点と、バラエティに富んでいる。

特筆すべきは、準会員の渡久地さんと吉直さんが2年連続で準会員賞を受賞し、会員に推挙された。大変喜ばしいことであり、同じ会員としても心強い。今回は、組写真、鳥の写真は少なく、写真は大型化。彩度の上げすぎ、色のかたより等、不自然なプリントも見受けられた。

ところで、写真歴の浅い方から、どんな写真が落選するかをきかれた。私が考える落選の主な理由は、カメラブレ（画面全体のブレ）、被写体ブレ（主役のブレ）、ピンボケ（主役にピントが合わない）、何を狙っているか不明（撮影意図が不明）、内容がない、被写体自体に魅力がない、ストーリー性が弱い、主題に合った露出でない、プリントが悪すぎる。

上記で一番気になり重要なことは「何を狙っているか不明」である。私は下記のこと注意到意して、撮影している。参考にいただければ、うれしい。

1：主役が目立つようにする。

主役と脇役を決め、主役にピントを合わせ、光を当てたり、脇役より大きくする等。

2：背景を整理する。

なるべくシンプルな背景を選ぶ。主役を殺す、強い色、目立つ形等、強すぎるものは画面からはずし、それが不可ならぼかす。広角系レンズで主役に接近し、広角特有の効果で、主役はより大きく、脇役はより小さくする。昼間でも、意図的に背景を暗くし、ストロボ等で主役を明るくする。

おわりに、写真を撮る機会が多いほど、良いシャッターチャンスの確率は高くなり、みる目も鍛えられる。楽しみながら写真を撮り、気軽に、沖展に応募してほしい。

会員作品

暮らし	大城信吉
雨あがりの公園	翁長達夫
オーバーも戦力	翁長盛武
彼方へ	崎山洋子
風巻	島元智
解体	末吉はじめ
夕景	普天間直弘
作業船	前原基男
伊地のカミンチュ	山川元亮
歩道	山田實

準会員賞

安田のシヌグ	渡久地政修
星のページェント	吉直 新一郎

準会員作品

ミャンマーの男	東邦定
残骸船の眠り	池原徳明
根家	仲宗根直
島の昼下り	中山良哲
祈る	平井順光
木陰のハンター	前田貞夫
漁のあと	真栄田義和
夜明け	宮城和成
威嚇	山内昌昭

沖展賞

御願	國吉健郎
----	------

奨励賞

馬追い	砂川悦子
浜辺の詩	知念和範
「安眠妨害」	仲間智常

浦添市長賞

うたた寝	花城雅孝
------	------

うるま市長賞

夜空に咲く	喜名朝駿
-------	------

一般入選作品

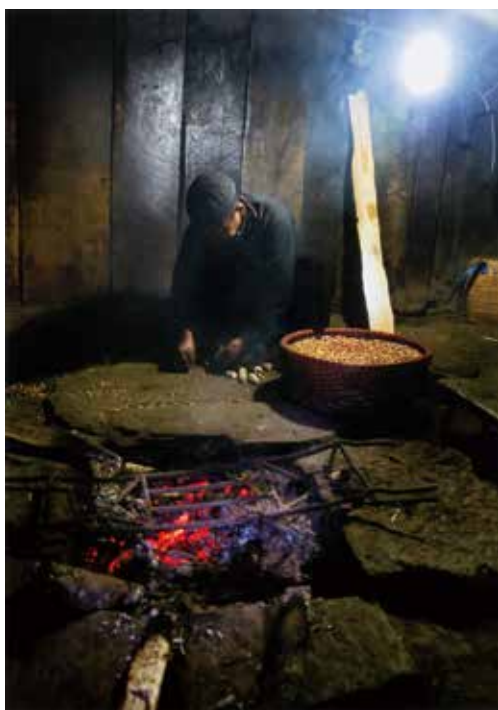
興味津々——安次嶺 まり子
いのち——新垣 フミ子
大正口マン——新城 直美
Urban space——新城 直美
祝祭の日——池宮城 繁夫
晩秋——石垣 末子
花傘——石堂 和霞
想いを繋ぐ——稲福 晃
激突——伊禮 宗信
至福の時——岩城 禮子
初デート——上原 聡
戦闘態勢——宇栄原 格
私のお庭——宇久田 全正
ひゃー冷てー——内間 秀太郎
威風堂々——大川 盛安
伝統継承の風格——大川 盛安
甲子園への道——おおき ゆうこう
タイムトラベラー——大城 敏雄
馳逐——大田 五十士
異空間——奥平 健彦
歌い踊るマチグラー
コミニティーの輪——親富祖 勝枝
楽しき光景——我喜屋 明正
赤き妖麗走る——我喜屋 明正
シーサー作り——我如古 弥助
揺るがぬ民意——亀島 重男
チョンダラー青春の瞬間——亀島 重男
川平湾の朝焼け——岸本 亮
美——喜名 朝駿
白い貴婦人——儀間 生子
楽しみなひととき——金城 文子
生と死の境——具志堅 一彦
残雪のテント蚩——具志堅 興清
焼痕——國吉 倅明

ムスリムの娘——國吉 倅明
疾走——國吉 健郎
一本足漕法——栗秋 大志郎
ロマン飛行——米須 末子
6月のツリー——佐藤 進
ゲリラ雨——島袋 進
少年たちの夏休み——島袋 メリ子
海人の格闘——島袋 陽子
雪原の生活——城間 由美子
古道を歩く——しんざと えいじ
真夏の少年——新里 ゆきえ
花のしずく——砂川 悦子
求愛のダンス——添石 艶子
理由なき現実——平良 克之
天職——谷 利宏
いちはなり島のアート——玉城 律子
ジャストミート！——たまき わこ
祭りの道化師——知念 和範
三線づくり——知念 かねみ
ある日の川底の光景——知念 信雄
屋下り——独酌亭 写禄
巢立ち（ツミ）——独酌亭 写禄
ハンター——渡具知 武美
島の不安——富村 盛信
ケラマジカの領域——中野 奈穂子
捕獲——仲原 功
のーんびり桜日和——仲程 梨枝子
つかれたー——仲間 智常
島時間——仲道 幸子
アートなくらし——仲村 千佳子
羽撃く——中村 秀雄
遠い日——西原 けんじ
ぶらさガール——西原 けんじ
感動“未来へ繋ぐ”——西平 守光

霜華（しもばな）——原国 政裕
タイムトンネル（未来へ）——比嘉 朝男
好奇心——比嘉 朝男
慶びの日——比嘉 佐智子
頭上に注意！——比嘉 良正
野性の目覚め——平田 善信
花の雫——本庄 和子
石路の咲く頃——本庄 正人
海渦——本間 京子
秋の茶屋——真栄城 相子
HELP ME ～——牧志 盛吉
フライング・フィッシュ——真志喜 律子
レッツ・ダンス——又吉 全一
御魂に誓う——松門 重雄
小さなまつり——嶺井 時光
ティービーガーエー——宮城 勲
ひとときの空間——宮城 悦子
見廻り——宮城 文正
マイフナー——宮城 光代
朽廃の図像——宮城 米子
ワン忘れられた？——村田 勲
いい夕日だにゃ——森江 直子
月下美人——森山 元子
蜜に群がる蝶——諸見里 安吉
雨上がりの神秘——山里 邦子
ファンタジー——山田 恵美子
躍動——与儀 文夫
甘えん坊“たま”——與儀 幸孝

特別展示

視線——上地 キミ子
メッセージ——金城 幸彦



暮らし(109×84) 大城 信吉(会員)



歩道(51×62) 山田 實(会員)



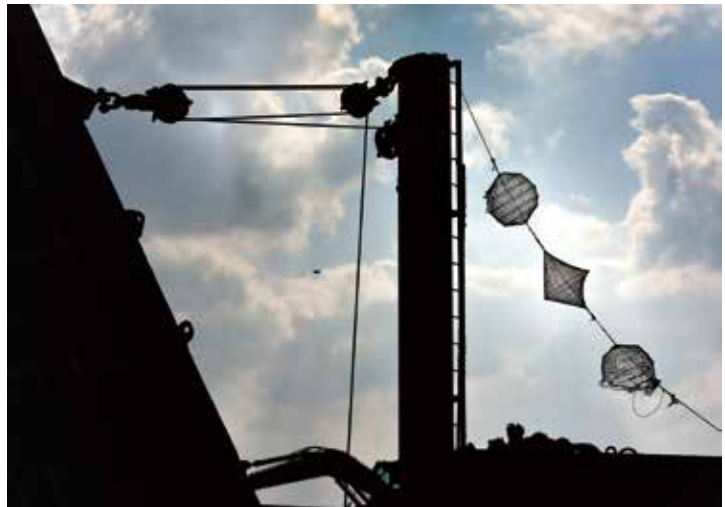
伊地のカミンチュ(93×62)
山川 元亮(会員)



解体(65×90) 末吉 はじめ(会員)



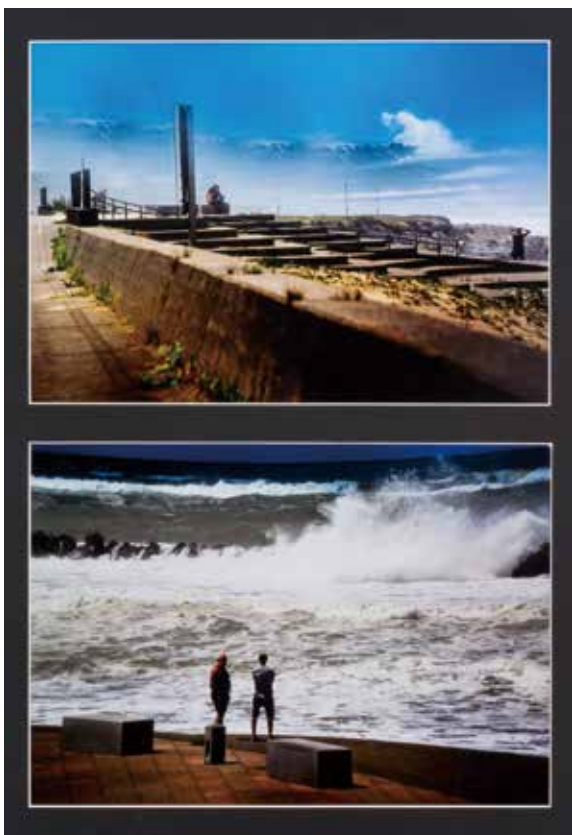
雨あがりの公園(50×40) 翁長 達夫(会員)



作業船(80×110) 前原 基男(会員)



オーバーも戦力(96×141) 翁長 盛武(会員)



風巻(168×91) 島元 智(会員)



彼方へ(87×62) 崎山 洋子(会員)

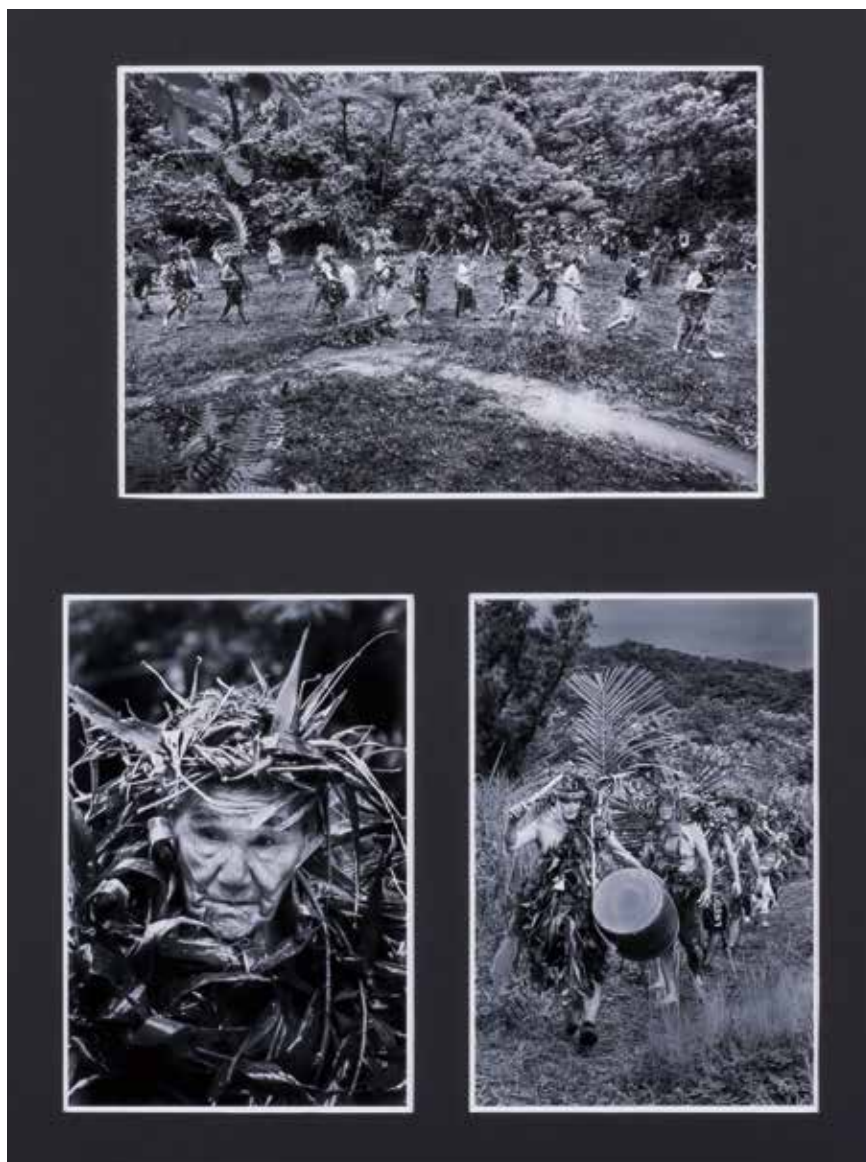


夕景(50.5×75) 普天間 直弘(会員)

準会員賞

安田のシヌグ (111×82)

渡久地 政修(準会員)



サッカーのU-23、縁の下で優勝に導いたスタッフの方々の話にうなづく。写真も同様、優れた作品は被写体との良好な関係がある。何うに作者の撮影スタンスに好感を感じた。資料を入手し文献を読み、写真を観る。更には関係者の方々から直接お話を伺う。

安田のシヌグは、ウフシヌグとウンジャミを隔年で行い、前者は男性中心、後者は女性中心とある。三方の裏山に登り草木を身につけ、“仮装神”が生まれる。その姿をアップで捉えている。

微妙なアンシャープを感じるが、シャープネス絶対主義の主張に、ロバート・フランクの作品が立ち止らせているのを観ると、ストーリーやコメントの重要性を大事にしたい。ソフトに捉えた“仮装神”その眼差しやはり“神”を感じさせる何かが潜んでいるのを感じた。会員に推挙される作者の今後の活躍に期待したい。

評—島元 智(会員)

準会員賞

星のページェント (80×110) 吉直 新一郎(準会員)



星空写真には、星を止めるか、長時間露光で線にして描写するか、二つの手法があるが、これは後者。

北極星を中心に長時間露光すれば、地球は自転しているので、星がブレて、円形の星の光跡ができる。

撮影には、街明りの影響が少ない暗い空で、月、雲、飛行機等ないほうが良い等、いろいろな制約があり、また、技術的にも難易度が高い。

それを、綿密な計算とテクニック、撮影地の下調べ等相当な努力で、すばらしい写真に仕上げた。

星の光跡と古城を組み合わせることで、遠近感も出て、宇宙の神秘、歴史のロマンを感じることができ、また、我々の地球は自転して、確かに動いていることを実感できる写真だ。

連続で準会員賞受賞、そして、会員推挙、本当におめでとう。

評一翁長 盛武(会員)



祈る (70×72) 平井 順光(準会員)



夜明け (62×73) 宮城 和成(準会員)



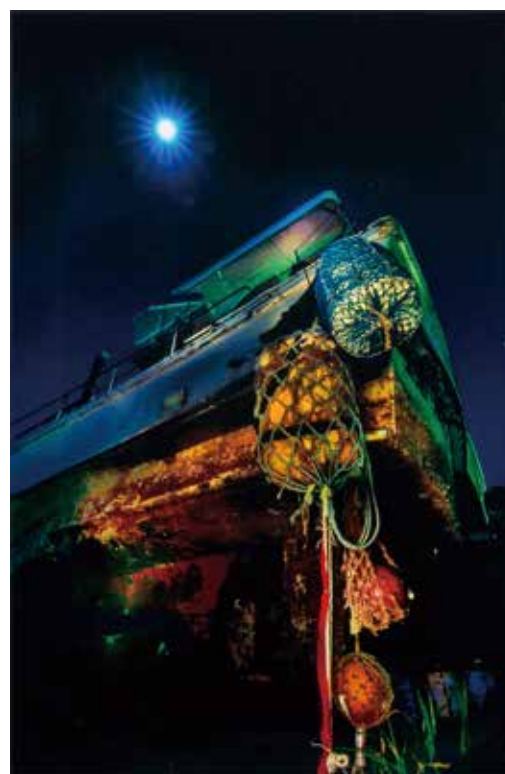
木陰のハンター (64×133) 前田 貞夫(準会員)



島の昼下り (87×117) 中山 良哲(準会員)



ミャンマーの男 (87×75) 東 邦定(準会員)



残骸船の眠り (115×84)
池原 徳明(準会員)



根家 (91×107) 仲宗根 直(準会員)



威嚇 (107×80) 山内 昌昭(準会員)



漁のあと (62×73) 真栄田 義和(準会員)

沖展賞

御願 (88×143) 國吉 健郎



モノクロムは感情移入の余地と、物語性に富むと言われる。霊験を捉えたこの作品は、どのようにして生まれたのであろうか。モノクロムのもつ特徴、それをより忠実に再現する、マット紙の選択、それらに加えて、作者の津嘉山大綱曳きに対する敬虔な撮影姿勢にあると言えよう。

作者は、南風原町史編集委員会編の“津嘉山大綱曳き”と、津嘉山大綱曳き実行委員会編の“津嘉山大綱曳き”の複製を座右の書として、撮影に取り組んでいるのである。綱曳きは、七つの御嶽巡りから始まる。この御嶽巡りの一シーンを作品にしている。

綱曳きは豊穰繁栄を祈願する「カシチー」と雨乞いの「アミシー」があり、「カシチー」はウーナンとも言われ、集落の東西から旗頭が繰り出される。今から300年程前、時の尚敬王から贈られたと言われる「御拝領旗」が一番旗となると記述されていて、伝統の深さを知ることが出来る。

作者の弛まぬ研鑽に称賛の拍手を送ります。受賞おめでとうございます。

評—島元 智（会員）

奨励賞

浜辺の詩 (75×98) 知念 和範



カメラを持って朝の散歩をするのが知念さんの日課になっているという。

或る日、いつもの浜が朝日に輝かされ真紅に染まり、浜辺に打ち寄せる波が引き際に出来る波は規則正しい旋律を奏でていた。

この感激の一瞬を、浜に打ち寄せる波を半楕円形で画面一杯に切り取り、波間に佇む一羽のサギを三分の一程に構図良く配し、情緒溢れる作品に仕上げた。

作品作りをするのに写真用紙の選択も重要なカギになる。検討を重ね無光沢紙を選択している。無光沢紙は、静けさや、しっとりした落ちついた雰囲気を出すのに適しているように思う。

写真はいろいろな楽しみ方がある。旅の思い出の中から、季節の移り変わりの中から、テーマを追求する中から作品に仕上げるのも一方法だが、自分の生活環境に合わせて楽しむのも忘れてはならない方法だと「浜辺の詩」は物語っている。

評—大城 信吉（会員）

奨励賞

馬追い (77×59) 砂川 悦子

熊本県八代市の八代神社の例大祭「八代妙見祭」は、江戸時代から380年以上続く伝統行事で、九州三大祭りの一つで国の重要無形民俗文化財に指定されている。メインイベントの馬追いは、多勢の写真愛好家がシャッターチャンスを狙っている中、人混みをかき分けて撮影ポイントを確認するのは困難だと言う。

砂川さんは河原に降りてローアングルで狙いを定め、川の中を疾走する飾馬の神馬（しんめ）を画面一杯に力強く配し、水飛沫を巻き上げて疾走する飾馬が僅かに頭を傾げ、口を開けて必死に伸びきった手綱を持つ馬主を気遣う様子が人馬の愛情を感じる。踏み込んだ右前足が水の輪を作った瞬間のシャッタータイミングが勇壮で迫力のある写真になった。

祭りの写真は、何十枚、何百枚も撮影すると思うが、その中からどれを選ぶか迷い、「この一点」を選択するのも写真を楽しむ一つである。砂川さんはこれで一つの壁を乗り越えたと思う。来年も期待している。

評—大城 信吉（会員）





奨励賞

「安眠妨害」 (73×58)

仲間 智常

北谷町砂辺の海岸近くに、数基の墓があり、飛行機の着陸線上の真下に置かれた墓、軍用機が低空で通過する爆音に日々悩まされ、安らかに眠りにつけない様子を昨年の夏、5時頃、数回通って白雲を待ち、ローキーに勢いをつけ、不気味さを強調し際立たせた、一瞬をとらえ撮影。

タイトル通りの安眠妨害、基地の沖縄を表現された作者。

被写体画角を左右上下に移動させて、数基の墓を覗き表現意図をもって、カメラポジションを探したら、もっと強く表現できたと思う。

入選歴が14回にもなるほどの写真好き、今回は奨励賞、次回は冲展賞を期待します。

評—翁長 達夫（会員）

浦添市長賞

うたた寝 (53×64) 花城 雅孝

浦添市長賞おめでとう

木の根を張った大地に揺れる少女、背景に霞がかかり遠い遠い昔の不思議な感じである。どこからともなく子守唄が聞こえてきそうな、夢の様な光景の中、少女は寝入ってしまった。

右上の少年は動きがあり、いい位置で画面を引き立てている。

あと何歩かで少年が画面から消えると、きっとさびしくなる？

静と動、位置、構図、シャッターチャンスがうまくいった。

めまぐるしい現代社会を忘れさせ、在りし日にタイムスリップしたなつかしさがああり、時がとまってしまった様に見える作品に見入ってしまった。

物語性があり、経験と感性の豊かな作者だからこそ、この様な被写体を見つけることが出来た。

評—崎山 洋子（会員）





うるま市長賞

夜空に咲く (78×114)

喜名 朝駿

うるま市長賞おめでとう。

花火はファインダーを覗き続けながら撮影はできないので、予測をもってシャッターを切る。

数多く写して意図に合ったものを選ぶことになる。

花火を建造物や風景を画面に入れたり、水面に反射する花火の模様を写したり、日が落ちた暮色の空に上がった花火も美しい。

作品は熊本県八代市の花火大会。夜間撮影は難しい中、作者は花火に魅せられて、県外へ4、5回足を運び、試行錯誤を重ねた結果2枚の写真を合成することで作品にした。

上部下部のバランスもよく画面いっぱい、豪華かつ繊細な仕上がりになった。

評—崎山 洋子（会員）

工芸部門(陶芸)

総評一新垣 修 (会員)

今回陶芸部門は74点の応募の中から46点が入賞入選した。今年も多種多様な内容の応募であった。登竜門としてあらゆる視点からの審査で、例年に無く厳しい結果となった。

準会員賞、新垣寛さんの「大皿 A」は白化粧掛けに掻き落としの伝統技法で沖縄の風土に培われた健やかな作風が評価された。沖展賞宮國健二さんの「花三島 四方口壺」は花三島に黄釉、四方口の新しい表現と緻密な仕事が評価された。新しい表現方法は新たな感性と創造を生み、時代を反映した表現に撃つので好ましい傾向と言えよう。同時に沖縄の土、釉薬、技法は全国的に見ても強い個性を持っているので、今後とも絶やす事無く追求してほしい。

作品名は毎年、検討事項に上がる。今回も用途を表す作品名にも関わらず、その機能を果していない作品があったが、審査の側でオブジェと判断して入選した。作品名の付け方は判断の分れ目となるので一考してほしい。

焼物は、土味、釉薬味、焼味、手味の四つが揃って良い作品が生まれるが、今年は自然の力を借りて仕上げた作品が目立った。「生まらしみしょうれ。」という言葉は、自らの力量を鍛え上げて、精一ぱいの努力をした後に自然に対して力を貸して下さいと祈る気持ちであって、安易に自然の力に頼る事ではない。

次回は人の力量と自然の力（土、釉薬、焼き）が攻めぎ合い、見事に調和した職人技の光る作品に出会える事を期待したい。

会員作品

からくさカラカラ——新垣 勲
 青釉しのぎ大皿——新垣 修
 赤絵三島鉢揃え——新垣 初子
 傘立——上江洲 茂生
 唐草模様線彫鉢——大宮 育雄
 花三島丸壺——親川 唐白
 御本手壺——島 常信
 満願特大面獅子——島 袋常栄
 赤絵草文皿——島 袋常秀
 大皿——玉城 望
 藍唐草紋大皿——松田 共司
 上絵壺——山田 真萬
 戯れシーサー——湧田 弘

準会員賞

大皿 A——新垣 寛

準会員作品

焼締古酒壺——伊禮 邦夫
 練り込み模様花器——佐渡山 正光
 2015.9 ○●○○——田里 博
 陶ジグ（陶器製ルアー）——比嘉 拓美
 猫背シーサー——山内 米一

沖展賞

花三島四方口壺——宮國 健二

奨励賞

黒彩流し龍耳瓶——石倉 一人
 オグスヤー指描皿——山城 尚子

浦添市長賞

裂眚——新垣 栄

うるま市長賞

帰ってきた家族——伊志嶺 達雄

沖縄教育出版賞

薄氷——門脇 沙映

一般入選作品

スウヌ華（潮の華）——新垣 安隆
 草紋土瓶セット——井村 詩帆
 飛鉤 4.5 寸マカイ——井村 詩帆
 青白波紋組鉢「海流」——宇土 秀一郎
 月桃灰釉稜花形角皿五客——エドメ 陶房
 滝——大城 千秋
 南蛮荒焼甕——大城 幸男
 魚紋陶板画——金城 秀義
 佇む——具志堅 興人
 牡丹文チューカーセット——楠戸 杏子
 櫛目文チューカーセット——楠戸 杏子
 ヤドカニ?——工藤 裕之
 雲海——幸地 良丈

C. チャップリンの憂鬱

‘ War is Over ? ’——小森 秋雄
 威圧——佐野 壽雄
 威嚇——佐野 壽雄
 赤絵組鉢（5 枚）——下地 葉子
 シーシー&サーサー——新里 みお
 黒耀彩筒描蘭壺——田中 淳貴
 唐草文皿——谷口 室生
 黄釉壺——照屋 敏雄
 自然灰釉手びねり焼き締め壺——なかにし ふとし
 シーサー——仲村 渠哲夫
 櫛目文様傘立——登川 均
 貝文壺——玻座 真善高
 彩るものたち——比嘉 清香
 珊瑚礁と魚群の窯変皿——比嘉 正徳
 面シーサー——比嘉 孝雄
 龍——比嘉 武夫
 氷烈釉壺——比嘉 裕之
 龍獅子丁字風炉——前原 常男
 赤絵組皿——町田 智彦
 ビエロ——嶺井 律子
 ゴス掛線彫重箱——宮城 三成
 大地の記憶——安田 淳夫
 岩波シーサー——屋富 祖道代
 布目釉扁壺——吉村 明
 南蛮唐草文荒焼甕①——与那嶺 大輔
 掛分釉いっちゃん皿——綿 千里
 黒釉白釉二段蓋物——綿 千里



上絵壺(H38×W41×D41) 山田 真萬(会員)



青釉しのぎ大皿(H15×W50×D50) 新垣 修(会員)



唐草模様線彫鉢(H11×W39×D39) 大宮 育雄(会員)



傘立(H47×W30×D30) 上江洲 茂生(会員)



大皿(H14×W60×D60) 玉城 望(会員)



御本手壺(H36×W32×D32) 島 常信(会員)



満願特大面獅子(H40×W40×D20) 島袋 常栄(会員)



赤絵三島鉢揃え 大(H15×W15×D15) 他 新垣 初子(会員)



藍唐草紋大皿(H14×W64×D64) 松田 共司(会員)



赤絵草文皿(H11.5×W51×D51) 島袋 常秀(会員)



戯れシーサー (H37×W43×D27) 湧田 弘(会員)



からくさカラカラ (H25×W29×D32) 新垣 勲(会員)



花三島丸壺 (H34×W35×D35) 親川 唐白(会員)

準会員賞

大皿 A (H15×W56×D56) 新垣 寛(準会員)



準会員賞おめでとうございます。

新垣寛さんは過去に、沖展賞と奨励賞を受賞している。

今回の作品「大皿 A」の技法は、白化粧掻き落としである。皿全体を花卉と葉紋で、祝福の連鎖を躊躇なく掻き落とし、おおらかであり、かつ繊細である。

彼は壺屋、新垣家に育ち、幼い頃からもの作りの環境に恵まれた。彼の作品に壺屋陶器の良さがよく出ている。しかし焼成に関して言えば、掻き落としの白土の表情が今一つと云うところだ。沖縄の赤土、白土に今以上に力を与える焼き方が他にもあるはずである。本人も意識していると思う。

今後の作陶活躍に期待したい。

評—松田 共司(会員)



2015. 9 ○●○○ (H25×W110×D30)
田里 博(準会員)



猫背シーサー (H60×W50×D30) 山内 米一(準会員)



陶ジグ(陶器製ルアー) (H0.7×W1×D4) 他
比嘉 拓美(準会員)



練り込み模様花器 (H60×W35×D34)
佐渡山 正光(準会員)



焼締古酒甕 (H65×W45×D45)
伊禮 邦夫(準会員)

沖展賞

花三島四方口壺 (H50.5×W35.5×D35.5) 宮國 健二



受賞作は、三島手の技法をふんだんに取り入れたもので出色の出来映えである。

そもそも三島の技法は有色の素地土に印を打ち込み、そこに白色土を埋める、一種の象眼の技法である。しかし、しっかり花模様の象眼を出すにはすべての印を均一の深さに打たなくてはならない。ムラのないように均一に打つ技術を習得するには時間がかかる。

受賞作は、轆轤成型による丸みを帯びた底底部から一気に四方形のゆるやかな線が伸び、口辺部分はしっかりとした造りで全体を引き締めている。その造形の技術とセンスは高く評価される。器全体に施された三島文様は、普通に見られる三島とは逆に白色系粘土を素地に使用し、象眼には黒色土を使用している。そして全体に土灰釉を掛けて黄を強調したため、作品全体がしっとりとした趣の中にも重量感を醸し出している。

作者は長年真摯に花三島に取り組んできた。この作品を出発点に、新しい感覚の三島の技法に磨きをかけてくれるものと期待したい。

評—親川 唐白（会員）

奨励賞

オーグスヤー指描皿 (H11×W51×D51)

山城 尚子



この作品は一般入選作品の中から審査員推挙によって賞候補に上がって来た。オーグスヤーに指描という沖縄の伝統技法で仕上げている。

登り窯の力がオーグスヤーの色合いをうまく引き出しており、窯味が効いている。加えて大胆な指描で作品を力強いものになっている。

少し残念なのはずっしりと重たいので、削りをしっかりとするともっと使い易い器になった。

緻密で完璧な仕事は思わず脱帽をしてしまう反面、見る側に余裕を与えない。少々隙のある仕事は、見る側の思いが入り込む余地があり、ほっとさせると同時に飽きが来ない。山城尚子さん作品にもほっとさせる良さがある。

評—新垣 初子（会員）

奨励賞

黒彩流し龍耳瓶 (H74×W50×D37)

石倉 一人



奨励賞おめでとう。確かな技術力を背景にこれまでも沖縄賞受賞など、これからも楽しみに作家の一人である。

発想の軸をどこに置くか、形と釉の関係など、それぞれ今後の課題となるであろう。頑張ってください。

評—山田 真萬（会員）



浦添市長賞

裂眚 (H47×W57×D45)
新垣 栄

今回、浦添市長賞を受賞した新垣栄さん
受賞おめでとうございます。

広い審査会場に並べられた沢山の応募作品の中から、まず私の目を引いたのが「裂眚」と題した作品。力強く迫力ある作品だと思いました。

白土の地色と、ちぢれやめくれも歪みが逆におだやかに変化し、その呈色が渋い色合を生み出し、躍動感があり、現代感覚にあふれた造形。見るほどに飽きがこない安定した作品に仕上がっている。

長い期間意欲的に培ってきた努力が実った秀作と言えます。来年も多彩な作品製作を期待しています。

評—新垣 勲（会員）

うるま市長賞

帰ってきた家族 (H60×W65×D50)
伊志嶺 達雄

今回の伊志嶺達雄さんの受賞作は、石厨子のイメージの作品でシャモット耐火レンガを土に加えて、味のある作品になっている。キズもなく、まとまった作品である。今後とも期待しています。

評—上江洲 茂生（会員）



沖縄教育出版賞

薄氷 (H10×W45.5×D45.5)
門脇 沙映



全国、各産地の伝統釉（石灰、木灰など）と違って、亜鉛結晶釉は、媒溶原料に鉱物の亜鉛華（焼）を多量に調合します。いわゆる近代釉に属します。素地は、素地の成分が釉に溶け込んで来るため、白土（半磁土）によく反応します。

焼成方法として、釉薬を融かしてから、熟成（ねらし）に時間を掛け、1150℃まで冷却期（なまし）に長い時間を掛けると、結晶模様が大きくなりますが、この作品は熟成や冷却期に時間を掛けずに、徐冷しています。したがって結晶模様の白色の円形が小さくなり、薄くなっています。作品名の「薄氷」に似て、思い通りの意匠になっていると思います。

大皿のロクロ成形も、しっかりしているが、縁作りは厚めに成形した方がよいでしょう。今後の活躍を期待します。

評一島 常信（会員）

工芸部門(漆芸)

総評一前田 孝允(会員)

今回の出品点数は、9点であった。近年10点以内で推移しているのが現状である。しかし、漆器の職人は、かなり増えている。が、沖展への出品は前記の通りである。沖展は、県内唯一の総合展で入場者も多い。沖展に出品し、自分の感性や技術が、どう評価されるかを確かめる機会である。毎回、技術と造形美は進歩している。王朝時代より、王府の献上品や進貢品として、厳しくチェックされ、今では考えられない程の技術が熟成されており、沖縄の誇るべき部門である。

準会員賞の大見謝恒雄さんは、長年、輪島で修養した蒔絵の技術は全く申し分のない作品で、その技術と安定した考え方が評価され、会員に推挙された。

沖展賞の「降誕」には感動的な物語がある。制作している時は妊娠中で、我が子が無事に生れるよう願を込め、「降誕」としたようである。夜光貝とアワビ貝で、それぞれの特長をうまく使い、中央はアワビ貝で青く、螺鈿の持ち味を十分に生かしている。側面はリズムカルで、身と蓋の一角だけに合致するようになっているが、その一点で我が子が無事に生れるよう願った食籠である。

奨励賞の長嶺一枝は、月桃をこまかく観察して仕上げた秀作である。浦添市長賞とうるま市長賞は、図録に譲る。来年も皆様の優作を待っている。

会員作品

梯梧造朱塗盤——糸 数 政 次

梯梧拭漆盛器——糸 数 政 次

唐獅子飾盆——金 城 唯 喜

螺鈿堆錦乾漆鉢「海遊」—後 間 義 雄

朱漆箔絵硯箱——前 田 孝 允

二段九重箔絵 テイゴと月桃—松 田 勲

準会員賞

波浪蒔絵足付盆——大見謝 恒 雄

準会員作品

堆彩漆螺鈿箱——照喜名 朝 夫

沖展賞

降誕(こうたん)——宇 野 里依子

奨励賞

月桃流螺鈿蒔絵四方盆—長 嶺 一 枝

浦添市長賞

螺鈿模様盆——親 泊 英 利

うるま市長賞

乾漆椰子皮朱塗花器——津 波 静 子

一般入選作品

栃虎空拭漆硯箱——大 城 清 善

酒器 TAN——笹 原 浩 造

六角片口——し ま さつき

ゴシック模様花器——與那嶺 勝 正



唐獅子飾盆 (H2.5×W45.5×D45.5) 金城 唯喜 (会員)



二段丸重箔絵 デイゴと月桃 (H13×W25×D25)
松田 勲 (会員)



螺鈿堆錦乾漆鉢「海遊」 (H6×W33×D33)
後間 義雄 (会員)



梯梧造朱塗盤 (H6×W56×D16.5) 糸数 政次 (会員)



堆彩漆螺鈿箱 (H6×W18×D24)
照喜名 朝夫 (準会員)

準会員賞

波浪蒔絵足付盆 (H10×W30×D30) 大見謝 恒雄 (準会員)



作品は、漆器木地に適している世界で2番目に軽いデイゴを使用し、琉球下地であるニービ下地を施した、狂いがなく堅牢な作りになっている。

内側の見込み部分が朱の塗立て、外側も黒の塗立ての艶消しで、上品な塗りとなっている。見込みの朱塗りを日の出に見立て、荒波を高蒔絵技法のひとつで、友治上げを金粉で施し立体感があり、より荒々しさが表現されている。散らした箔は、波しぶきを表現した足付盆で優れた作品である。

高蒔絵の高上げには、錆・地の粉・錫粉・炭粉・漆などが用いられる。塗面に文様を漆で描き、平均に粉を蒔き付け硬化させ、炭研ぎを行い漆で固める。必要な高さになるまで繰り返す、漆を塗り重ね、肌を整える。友治上げには錫粉を用いるのが通常であるが、作品は金粉のみを使用している。準会員賞受賞おめでとう。

評一条数 政次 (会員)

沖展賞

降誕（こうたん）（H10×W20×D20）宇野 里依子



沖展賞おめでとう。今回の作品は螺鈿の色彩を生かした大小網目模様で表現した良い作品に仕上がっています。網目が細かい割貝を使い、夜光貝やあわび貝で微妙な色を出したことで技術的に良い評価になりました。器物の形も中心で工夫されたこと、使い勝手の良いサイズも好評です。前年度奨励賞、今回沖展賞、次回も良い作品を期待しています。

評—松田 勲（会員）

奨励賞

月桃流螺鈿蒔絵四方盆 (H3.5×W23×D23)

長嶺 一枝



奨励賞受賞おめでとう。今年の作品は螺鈿と蒔絵を組み合わせた独自の作風で仕上げられている。常に緻密な花柄模様を得意としている長嶺さんだが、今回は抽象的なデザインで月桃を表現している。

微塵貝をととてもうまく使い、花、蕾、葉を時間を掛けて作っているの、見ていて飽きのこない作品になっている。

昨今は漆芸の加飾部門で本格的な作品作りが出来る人が少なくなっているが、それが出来る数少ない作家である。今後は独自の発想で木地作りからデザインすればさらにより作品が出来ると思う。

評—後間 義雄 (会員)

浦添市長賞

螺鈿模様盆 (H6×W42×D26)

親泊 英利



浦添市長賞おめでとう。作品は、センダンの木目を生かした呂色漆面に陰影が良い感で表現されている。側面フチの夜光貝張付も、曲面に張りにくい所もしっかりとしており、良い技術だ。ただ、張り付けた盆のウラ面に漆の縮みがあり、ウラ面も手を抜かずに仕上げてほしかった。次回は造形デザインに工夫して、良い作品を出してもらえるよう期待しています。

評—松田 勲 (会員)

うるま市長賞

乾漆椰子皮朱塗花器 (H43×W75×D23)
津波 静子



乾漆は、器物の型を粘土や石膏で形作る。型に麻布、寒冷紗などを漆で張り重ね厚みを作る。乾燥後、型を抜き取り、漆を塗って仕上げる。器胎が布のため軽く、挽物や指物で形作れない微妙な曲面が表現できるのが特徴だ。

作品は、椰子皮を使用し寒冷紗を漆で張り重ねて器胎を制作し、見込み部分の中塗りで色漆を使い、上塗りで黒呂色漆を塗り、研ぎ出して斑模様を表し、全体的に朱塗りの蛸色仕上げとしている。

上位の賞が取れない要因として、器胎が重い、研ぎ傷が多い、艶が上がってない、裏面の仕上げが中途半端となっているなどだ。厳しい批評だが、奨励賞を受賞した際の作品の方が良く、指摘した課題をクリアしてほしい。継続は力なり、次回は完璧な蛸色塗を目指し、上の賞を受賞できるように頑張してほしい。

評一条数 政次（会員）

工芸部門（染色）

総評—外間 修（会員）

工芸（染色）部門では一般・学生の応募者、応募点数ともに13点と例年並みの作品数であった。

染色作品は、他の工芸部門よりも審査するに当たり、染める技術を持っている出品者かどうか分かり易い工芸だと考えているが、作品に対してそれが入選の基準を超えているか、染色の作品としての仕上がりが良いか（例えば、染ムラや岩料のヨゴレ、型紙のおくり（繫ぎ目）が出来ているか等）を審査し入選を決定している。その後、入賞者を選択していくが、この段階では模様の柄合せ等のきびしい審査が行なわれる。

なお着物と帯でもその評価に差が有ることは、工程に費やす仕事量の違いを考えても理解出来ると思う。また、帯の評価に関してもポイント柄から六通帯、次に全通帯と制作に費やす仕事量は言わずとも審査に差が出て来るので、作品として出品する帯は全通を希望する。

装飾品としてのタペストリーや暖簾、パネル貼りの制作でも同様に、着物や帯は人を美しく装う前提にて染められるが、それに対して、装飾品はその用途に合わせた美しい物造りが求められる。美術工芸としての工芸（染色）部門では前記の事柄を考慮して制作に取り組んでいただきたい。ただ今年は厳しい評価となったが、仕事としての基礎的な技術は持っている出品者がほとんどなので、後は作品としての美しさや細やかさ等が加わると確実に良くなって行くと思う。

文末になったが工芸部門では「染色」として作品を募るが、沖縄の美術工芸の復興と発展を目的として開催されてきた沖縄での展示内容は、琉球紅型が過半数を占めている。そのことについては、沖縄を楽しみに鑑賞されている方々にも理解していただいていると思う。なおかつ沖縄の伝統工芸を学び制作に携わる方々にも発表と研鑽の場である様これからも継続して欲しいと願う。

会員作品

紅型帯「海の音」—— 城 間 栄 市
紅型帯「花潮」—— 城 間 栄 順
紅型帯地「芭蕉夢」—— 仲 松 格
紅型着物「フサナリツル」
ナスビ小柄模様—— 外 間 修
藍型着物「ひし形に」
小菊と扇模様—— 外 間 裕 子
紅型筒引両面染
「松竹梅 fennica 紋うちくい」— 宮 城 守 男

準会員作品

紅型着物「楽園」—— 許 田 史 枝
紅型着物夏衣「月桃思編」渡名喜 はるみ
紅型着物「クイラ」—— 迎 里 勝

浦添市長賞

紅型着物
「眠り草のはなぐるま」— 宮 城 友 紀

うるま市長賞

紅型着物「風のめぐり」— 徳 田 佐和子

一般入選作品

紅型パネル「春夏秋冬」— 池 間 真裕子
紅型帯「ピョウヤナギ」— 當 眞 政 美
紅型タペストリー「旋律」— 當 山 雄 二
紅型着物「島とうがらしに」
芒紋様〈踊る〉—— 永 吉 剛 大
紅型帯「めぐるゴーヤー」— 深 沢 さやか
ウージ染めタペストリー
「木立ちの中の清ら月桃」— 真境名 照 子
型絵染パネル「生命の原理」— 増 田 妙 子
紅型帯「宴」
（トックリキワタとほろ酔い猫）— 三 浦 敦 子

特別展示

紅型着尺「菊唐草模様」— 藤 村 玲 子



紅型筒引両面染「松竹梅 fennica 紋うちくい」
(120×120) 宮城 守男 (会員)



紅型帯地「芭蕉夢」(500×35)
仲松 格 (会員)



紅型着物夏衣「月桃思編」(180×125)
渡名喜 はるみ (準会員)



紅型着物「楽園」(170×130)
許田 史枝 (準会員)



紅型着物「クイラ」(180×140)
迎里 勝 (準会員)



浦添市長賞

紅型着物「眠り草のはなぐるま」(170×160)
宮城 友紀

浦添市長賞、受賞おめでとうございます。
「眠り草のはなぐるま」という作品名で「クワンソウ」という沖縄の草花をモチーフに制作されていると思います。沖縄の身近にある植物を取り入れて、いろんな色を使って紅型の技法を駆使し、頑張って染めあげた努力が伺われます。

一枚の着物に仕立ててあるのならば、出来るかぎり型紙を工夫して、そで、背中心、わきヌイ、身頃、おくみなどの模様の繋がりが合えば、もっとよい作品になると思います。

来年も、女性らしさが見える美しい作品に出会えるのを楽しみにしています。

評—外間 裕子(会員)

うるま市長賞

紅型着物「風のめぐり」(174×140)
徳田 佐和子

初出品での受賞、心よりおめでとうございます。

蘭梅の古典模様をもとに、のり伏せを効果的に用いて色に変化を出しながら、落ち着いた配色でうまくまとめています。

もともと躍動感のあるデザインですが、着物の縫い目で模様が切れずにつながることで、色の染め分けも生き、さらなる「風」が生まれてくると思います。ぜひ柄合わせにも挑戦してみてください。

技術的な安定感はうかがえました。次回は、身近な風物などを取り入れた、創作模様での出品も期待しています。

評—宮城 守男(会員)



工芸部門（織物）

総評—新里 玲子（会員）

一般応募14点、準会員応募3点と、昨年（29点）に比べて寂しい応募となった。

審査員の過半数の獲得票で入落を決定する。入選作品の中から投票を繰り返し、厳選の結果、沖展賞・奨励賞・浦添市長賞・うるま市長賞が決定、準会員賞は該当者なしとなった。

多様な素材・技法・地域色等、特色ある作品の応募があり、優しい色調の傾向が多く、現代の人々が求める時代を反映した作品づくりと捉えることができる。

今回、部分的ではあるが新しい素材活用（月桃）の作品もあり、涼感あふれる布として魅力はあるものの、着物という用の美で見た時、素材（糸）づくりの工夫等、さらなる研鑽が望まれる。

新しい作風への希求？和にとどまらぬ用途？等、作者の意図するものが伝わりにくい作品、技術力はあるものの伝統図柄そのままで創作性に欠け、選外となる作品もあった。

伝統と創造は表裏一体であり、制作する時の想い等によって、伝統色の濃い作品、創作性に富んだ作品と表現の幅が広がると思う。

公募展へ挑戦することは自身のこだわりや、制作姿勢の再確認の場でもあるので、多くの染織家の応募を期待する。

受賞者の皆様おめでとうございます。連続沖展賞快挙の島袋知佳子さん作、苧麻蒨黄地八重山上布「新樹」。湧き出づるエネルギーが伝わる逸品です。新樹のように伸びゆく若き染織家。準会員推挙おめでとう！

会員作品

八重山上布紹織着尺田園——新 垣 幸 子
八重山上布着尺「あさまだき」糸 数 江美子
南風原花織経絆に
変わり斜文織——大 城 一 夫
首里の花織——祝 嶺 恭 子
宮古上布着尺「蛭」——新 里 玲 子
芭蕉布八寸帯地「黄地紹織縞」平 良 敏 子
ロートン織帯地「みのり」——多和田 淑 子
夕映雲——仲宗根 みちこ
りゅう華（帯地）——長 嶺 亨 子
緋織着尺「光明」——真栄城 興 茂
紬緋着物——ルバース・ミヤヒラ吟子
首里織紹・花織着物「山息吹」和宇慶 むつみ

準会員作品

雛の調べ——伊 藤 峯 子
読谷山花織着尺——新 垣 隆
芭蕉布着物「豊穰」——鈴 木 隆 太

沖展賞

新樹——島 袋 知佳子

奨励賞

オクラレルカ——島 袋 領 子

浦添市長賞

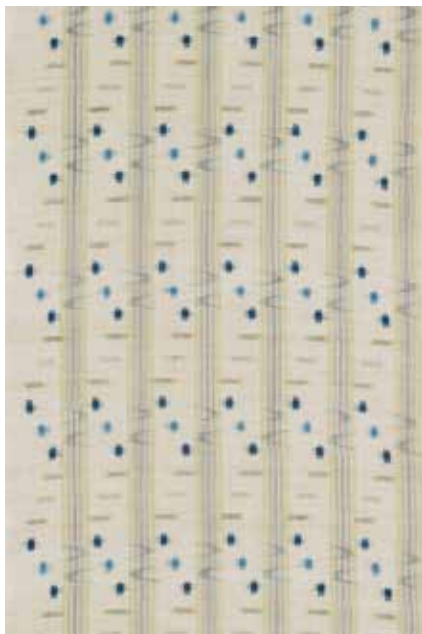
ロートン織・経緯絆「光る穂」——能 勢 玲 子

うるま市長賞

島に吹く風（帯地）——吉 本 敏 子

一般入選作品

絹経縞首里花織着物——安座間 美佐子
首里緋布地「舞」——運 天 裕 子
与那国の馬とアザミ——澤 村 佳 世
黎明——高 良 智 子
首里の織物帯地「結び」——玉 木 由 香
久米島紬——桃 原 禎 子
うららか（帯地）——中 野 夢
月桃布（月桃染織）——仲 村 秀 子
知花花織着尺「竹取物語」——花 城 美 香



八重山上布着尺「あさまだき」(1400×39)
糸数 江美子 (会員)



芭蕉布八寸帯地「黄地紹織縞」(485×32)
平良 敏子 (会員)



夕映雲 (512×36)
仲宗根 みちこ (会員)



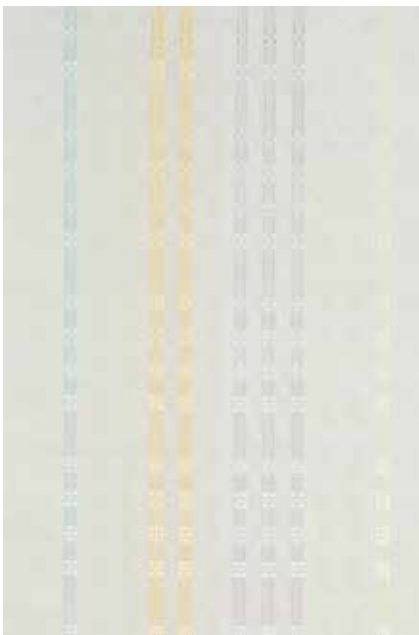
首里織 紹・花織着物「山息吹」(170×135)
和宇慶 むつみ (会員)



南風原花織経紵に変わり斜文織 (185×185)
大城 一夫 (会員)



読谷山花織着尺 (1270×40)
新垣 隆 (準会員)



雛の調べ (500×35)
伊藤 峯子 (準会員)



芭蕉布着物「豊穰」(180×140)
鈴木 隆太 (準会員)

沖展賞

新樹 (180×145)
島袋 知佳子



一見すると、大胆で大らかな雰囲気に着物であるが、近くで見ると繊細さと美しさを兼ね備えていることがわかる。大柄の経絣を基調に細長い絣をバランス良く配置した構成は、緑系の淡い色合と調和した斬新なデザインである。絣部分に同系色や類似色を並べたり重ねたりすることで、影やぼかし風の効果を生む新しい展開を見せている。一般的な着物としては、大きな模様だが圧迫感を感じさせない。

素材は、経糸に苧麻を使って絣部分の染め重ね等を巧みにこなし、緯糸は手績苧麻を使用して夏素材らしい風合いを出している。地色の部分に色うつりがなくことから、素材の色と持ち味を生かすよう絣の工程を丁寧に進めたことがうかがえる。それによって、色絣が際立つ爽やかな夏の衣装になっている。

2年連続の沖展賞は、その力量の高さと確かさを存分に証明するものであり、賞賛に値する。若手ホープの誕生は喜ばしく、今後の制作に大いに期待が持てる。

評—ルバース・ミヤヒラ吟子（会員）

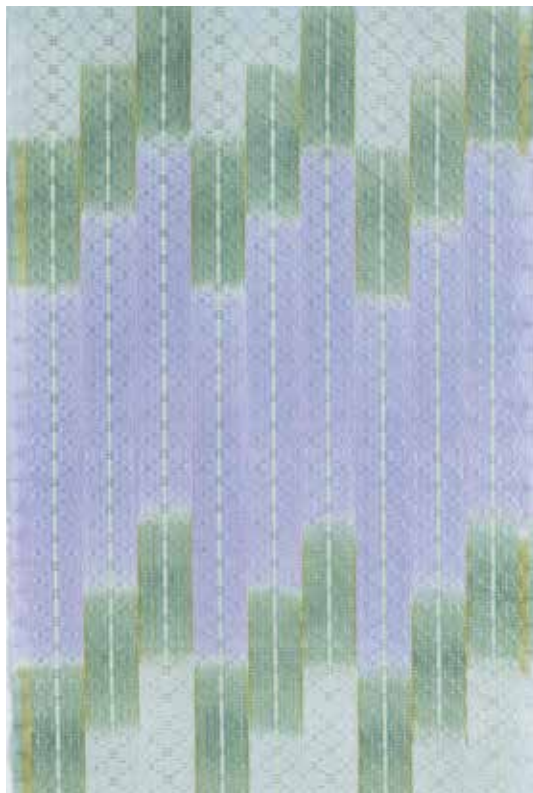
奨励賞

オクラレルカ (1300×38)

島袋 領子

奨励賞、受賞おめでとう。今回の島袋さんの首里花織は、経緋と花織を織りこんだ作品だ。大胆な三段模様の経緋は、ややもすると緋が花織の模様をおさえてしまいがちだが、三色で色分けしたトーンの緋を使い分けたことで、うまく花織と調和した一体感のあるバランスのいい作品に仕上がっていると思う。欲を言えば、仮絵羽にしたら全体の流れがわかりもっと見栄えがしたと思う。次回の作品にも期待したい。

評—大城 一夫（会員）



浦添市長賞

ロートン織・経緯緋「光る穂」(175×146)

能勢 玲子

経糸に絹の玉糸、緯糸に絹の紬糸を使い、福木の黄色を基調に染め分け、ウコンやニッキで染めた色も加えて、やわらかな雰囲気を醸し出している。穏やかな陽の光を受け、さとうきびの穂が風にそよぐ情景を作品に込めたとのこと。その想いが伝わってくる。

少し緋柄を整理されたら、ロートンの浮き糸とのバランスももっと良くなったのではと思う。

昨年、奨励賞を受賞された「珊瑚の海」そして今回の作品と、沖縄の情景をやさしく見つけている。今後もご自分のペースで良い作品を制作して下さい。

評—真栄城 興茂（会員）





うるま市長賞

島に吹く風（帯地）（510×36）

吉本 敏子

シンプルなポイント柄の帯地ですが、柄・色彩ともに強弱のバランスが良く、柔らかな地色にすっきりとまとめられています。

評一和宇慶 むつみ（会員）

工芸部門(ガラス)

総評—宮城 篤正 (会員)

今年はどうな意欲作品に出会えるだろうかと期待しながら審査会場へ向った。既に会場一杯に並べられた作品群をいちべつする。現代人の求める生活の中で使って楽しめるデザインや器が多く見られた。

今年は応募者、点数ともに去年より多少減少しているが、その訳は他部門と異なる事情もある。そのことは別において審査結果を述べる。今年は特に抜きん出る作品がなく、残念ながら沖展賞、準会員賞の該当作なしで精彩さを欠いた感があつた。

その一方で奨励賞2点はいずれも得難い作品であることに救われた。古賀雄大は去年に続く連続受賞である。吹きガラス皿セットに薬品で腐食させる技法と、サンドブラストをうまく組合せたデザイン力が高く評価された。更に玉城晃の水差しセットは長年チャレンジした結果の嬉しい初受賞である。三角型を使ってひねった造形のユニークさ、またガラスの掴み具合といい使いやすい作品である。

浦添市長賞の當山みどりは過去に奨励賞を受賞、今回のアクセサリーセットも実に丁寧な仕事でデザインのにも美しい作品である。

うるま市長賞の照屋大海は去年に続く連続受賞である。作品も実に大らかで力強く存在感もある。

その他、受賞作以外にも注目された作品があつた。一例を挙げるとベネチアン技法の作品や他にデザイン面であとひと工夫欲しい作品など。また準会員賞にあと一步手前の作品もあり惜しまれる。次回にはガラスの特質を生かしてひたむきに用と美の追求、そして個性豊かで意欲的な作品の応募をぜひとも期待したい。

会員作品

金彩煌華	池宮城	善郎
酒器セット(紅葉)	稲嶺	盛一郎
深海の響	稲嶺	盛吉
滄海の波動	稲嶺	盛吉
緑銀彩流	大城	尚也

準会員作品

酔いグラスセット	東新川	拓也
うみかたり	比嘉	裕一
波鉢「慎」	屋我	平尋
波鉢「麗」	屋我	平尋

奨励賞

アステロイド	古賀雄	大晃
三角ひねり水差しセット	玉城	

浦添市長賞

桜咲く、アクセサリーセット	當山	みどり
---------------	----	-----

うるま市長賞

モス泡3色巻口巻ランプ	照屋	大海
-------------	----	----

一般入選作品

Silent Echos	上地	律子
黒銀光沢皿セット	大城	尚之
Stand up	加藤	周作
レース紋様酒器セット	兼	直樹
ジュピターワイングラスセット	柴田	尚実
四季色ぐいのみセット	柴田	尚実
恐竜家族(水差しセット)	島津	幸子
涼波とっくりセット	島津	幸子
別世界を覗ける2つの穴	砂川	泰典
がじゅまるの樹	竹内	祐貴
ブランデーコップ水差しセット	玉城	晃信
生きる	知花	
モス泡3色巻つぼ	照屋	大海
パンジー	中野	幸治
ワイングラスセット	野原	智智
ぐいのみセット	野原	智智
龍宮への憧憬(あこがれ)	野村	伸春
Reticello lace high Compote	比嘉	奈津子
hu 香水花瓶	松田	萌
泡渦	宮城	辰喜
沖晴	宮城	辰喜
Jellyfish	宮城	友紀
平和の光		
(ビーチグラスランプシェード)	宮城	妃芽
Beach glass tree	宮城	妃芽
波に咲く太陽	森上	真
雪の朝	吉田	栄美子
茶器 沙滩模様	与那城	紗友理



緑銀彩流 (H40×W30×D30)
大城 尚也 (会員)



金彩煌華 (H60×W28×D28)
池宮城 善郎 (会員)



深海の響 (H80×W50×D50)
稲嶺 盛吉 (会員)



酒器セット (紅葉) とっくり (H15×W11×D11)
グラス大 (H11×W10×D10)
小 (H6×W8×D8)
稲嶺 盛一郎 (会員)



波鉢「慎」 (H14×W31×D32)
屋我 平尋 (準会員)



酔いグラスセット 水差し (H26×W12×D12)
アイスペール (H17×W14×D14)
グラス (H12×W10×D10)
台 (H6×W9×D9)
東新川 拓也 (準会員)



うみかたり (H33×W53×D53)
比嘉 裕一 (準会員)

奨励賞

アステロイド 大(H4×W34×D34) 小(H2×W19×D19)
古賀 雄大



古賀雄大さんの受賞作品「アステロイド」は、サンドブラストを十分に発揮している。成形も率直で、技量も確か、手に持つと意外と軽くて、インパクトのある作品に仕上げられている。
2連続の受賞ということもあって、確かな力を感じます。これからのすばらしい作品を楽しみにしたい。
奨励賞受賞おめでとうございます。

評—大城 尚也（会員）

奨励賞

三角ひねり水差しセット
アイスペール(H12×W16×D16)
水差し(H17×W13×D13) グラス(H9×W8×D8)
玉城 晃



初の入賞おめでとう。入賞作の水差しセットは、ガラスの特性をうまく生かした秀作である。色彩を対面に入れながらも、造形的には三角面に仕上げ、遊び心を取り込みながらも使い勝手の良い作品に仕上げている。

今後の課題として、器全体のバランス、生地の付け方等を習練して取り組んでほしい。今後の活躍を期待したい。

評—池宮城 善郎（会員）



浦添市長賞

桜咲く、アクセサリセット
 ネックレス (46cm)
 ループタイ (H3×W3×D3)
 ブレスレット (20cm) 他
 當山 みどり

當山みどりさん、浦添市長賞おめでとうございます。
 今回の作品について、桜模様をととてもきれいにとり入れた、すごく印象的な作品でした。

當山みどりさんは62回展の時も奨励賞を受賞しています。その時の受賞より、さらに技術的な進歩がうかがわれます。これからさらに精進して、来年もさらによい作品を期待しています。

評—稲嶺 盛吉 (会員)

うるま市長賞

モス泡3色巻口巻ランプ (H41×W30×D30)
 照屋 大海

今回、うるま市長賞を受賞した照屋大海さん受賞おめでとうございます。

受賞した作品「モス泡3色巻口巻ランプ」は、力強く表現豊かな作品だと思います。

泡ガラスの緑泡もバランス良く付けられており、又、コバルトとの色合いも大変良くできています。

ガラスの表面に泡ガラスを巻き付けることによって一層、作品全体の力強さを感じました。

欲を言えば、足の部分をもっと大きくすると完成度の高い作品に仕上がったと思います。

今後の作品が楽しみです。

評—稲嶺 盛一郎 (会員)



工芸部門(木工芸)

総評一崎山 里見（会員）

沖展に出品した木工芸の作品は8点で、前年よりも3点減少したが、審査は内容の濃いものであった。

入賞作品について触れてみよう。沖展賞の金城久美子さん、おめでとう。女性ならではの作品だと受け止めた。脚の先が細くなっているのはおもしろい。また、脚を広げているのは、接地面積を広くするためであろう。

奨励賞の奥間政仁さんの作品については「寄木造」であろうと思う。昨年も応募し、うるま市長賞をもらっている。解説会時に来て、寄木について、自分どのように作ったかを説明してもらった。何度も作り、そのうちから会うものを選んでいうことだった。寄木と象嵌は違うことを教えてもらった。象嵌は木材などの面に模様を刻みこみ、はめこんだ物である。象嵌技術は箱根細工などが有名である。自分でどれだけの時間を使い作ったのだろうか、失敗してもくじけずに作り直していることがわかる。

浦添市長賞の小橋川剛右さん、うるま市長賞の與那嶺勝正さんもおめでとう。また、おもしろい作品を期待したい。

残念ながら5点は審査対象外となったが、技術や造形などの面から見たオリジナリティー性が弱く、卓越した技芸、個性あふれる創作という点を意識して出品してほしい。木工芸の出品はまだまだ少なく、多くの人が挑戦され、作品が増えることを期待したい。

会員作品

盆———崎 山 里 見

松の木の照明器①———戸 眞 伊 擴

松の木の照明器②———戸 眞 伊 擴

準会員作品

桐五段組手引出

木地呂宝石箱———津 波 敏 雄

沖展賞

空駆ける天馬———金 城 久 美 子

奨励賞

衝立———奥 間 政 仁

浦添市長賞

屋久杉大皿———小 橋 川 剛 右

うるま市長賞

香炉 勇者ノ舞———與 那 嶺 勝 正

一般入選作品

森林の妖精———漢 那 憲 次

きらめき———玉 城 正 昌

RENGE

～ Incense stand ～———比 嘉 亮 太



盆 (H4.5×W30×D30) 崎山 里見 (会員)



桐五段組手引出木地呂宝石箱 (H43×W38×D27.5)
津波 敏雄 (準会員)

沖展賞

空駆ける天馬 (H103×W121×D46) 金城 久美子



今回の沖展賞、金城久美子さんの作品は、いつもより、ゆとりのある作品に仕上がっていると思う。「空駆ける天馬」とした意図がよくわかる作品である。かどを出さず、まるくまるくとしているのは、人に優しい作品を造りたかったからだと思う。

左に大きく空間をとり、茶菓子を頂きながら、のんびりと過す時間を意識している。背もたれの相思樹が天馬で、こしをおろしてみると、中央の背にあたる個所が、何ともいえない程、気持ちがいい。

相思樹の色相も美しく、あのサイズの相思樹はめったに入手出来ないと思う。

最も注目すべきは脚の中央から座面にまで、一本の相思樹が楕木の中央を突き破り、座面まで見せる技術は並ではない。丁寧な仕事に注目してほしい。底もまるく仕上げている。何ともいえない心の優しさがつたわる作品である。

評—前田 孝允（会員）



奨励賞

衝立 (H133×W136.5×D3)

奥間 政仁

奥間さんは工芸部（木工芸）の常連である。過去に受賞歴も多くあり、材質の特性を活かし、質感と色合いを計算した組み合わせを作り上げることができる、優れた技術を持つ作家である。

今回の「衝立」には、従来の材質を組み合わせた技法と透し彫り、線彫りの技法が屏風の中に活かされている。三つの技法とも表と裏を同じ形にしていることから技術の高さがうかがえる。

三面の屏風には縦に葡萄の葉と実が豊かに伸びていく状況が取入れられている。その葡萄の図柄には、透し彫りと線彫りと二通りの技法が米ヒバ材で表現されている。葡萄の葉と実、茎には見事な浮彫りが施され、その周辺は透し彫りにしてヒバ材の軟らかい質感とも相俟った表現になっている。一方、線彫りの技法を活かした葡萄には細やかさがあり、輪郭を糸鋸で切って嵌め込んだ手法が活かされている。屏風の上方と下方には杉材の木目が活かされている。それらの技法をカラントス材で固定し、ウレタン塗装で仕上げて屏風としての風格を作り上げている。

評－西村 貞雄（会員）

浦添市長賞

屋久杉大皿 (H9×W109×D47)

小橋川 剛右

沖展での出品歴は第61回展から連続して彫刻部に出品し、実績のある作家である。今回の木工芸部での受賞も高く評価します。彫刻部でのこれまでの創作の傾向としては、板材を貼り合わせによる、諸々の変化を造形化した作品群が中心であった。今回は木工芸部門にもチャレンジして、この意欲と実践を高く評価し応援をいたします。

今回の作品は分厚い屋久杉で大皿を制作した。一見、盆に見違えるほどの大皿で屋久杉の木目と木質が生かされ、清潔感のある明るい作品である。真四角にするのではなく木の形に添った自由度の柔らかさを感じさせる。塗装は透明性のあるウレタンで施している。過去に本土の家具製作所で10年ほど従事した経験が活かされていると本人は自信のほどを語る。今後とも彫刻、木工芸の両部門での活躍に期待します。

評－富元 明雄（会員）





うるま市長賞

香炉 勇者ノ舞 (H50×W35×D35)
與那嶺 勝正

今回の作品はサンゴ石を加工して組み入れた香炉で、それを楠ノ木を加工し、彫りを入れた板を組み合わせた。台座の四角にも彫刻を施し、作品を取り付けてあり、良く出来た作品である。あえて指摘するならば、台座の平板部分について最後の仕上げを丁寧にしてほしかった。全体的に技術力のある作者である。今後も優れた作品を作りつづける事を期待している。

評—戸眞伊 擴 (会員)

物故会員 略歴

【絵画】儀間 朝健 (1939～2014)

油彩や水墨画を描き、ヨーロッパなどの美術展でも入選を重ねた。

1976年沖展会員推挙。1975年沖縄タイムス芸術選賞奨励賞を受賞。

沖縄キリスト教短期大学教授、現代水墨画協会理事、旺玄会調査委員を歴任。

(略歴)

1939年(昭和14年) 沖縄県生まれ

1975年(昭和50年) 沖縄タイムス芸術選賞奨励賞

1993年(平成5年) 儀間朝健水墨画展

1994年(平成6年) 春季全国精選94現代水墨画
特選展特選賞

1999年(平成11年) 全国公募現水展 奨励賞

2014年(平成26年) 12月24日没(享年75歳)

【絵画】与儀 達治 (1931～2015)

興南高校や県立芸大で後進を指導しながら、楽器の演奏をする少年少女や動物などをモチーフにした叙情的な作品を発表。

1963年に沖展会員に推挙。1977年に沖縄タイムス芸術選賞大賞受賞、2014年には沖縄タイムス賞文化賞を受賞。

県美術家連盟の会長を14年務め、法人化に尽力。

(略歴)

1931年(昭和6年) 那覇市生まれ。多摩美術短期大学卒

1977年(昭和52年) 沖縄県立芸術大学教授

1977年(昭和52年) 沖縄タイムス芸術選賞大賞

1998年(平成10年)『与儀達治作品集』 出版

2009年(平成21年) 第24回与儀達治作品展

2014年(平成26年) 第58回沖縄タイムス賞文化賞

2015年(平成27年) 9月18日没(享年84歳)

【書芸】 泉 朝信 (号：泰光) (1937～2015)

龍賓曹源書道会会長、県書作家協会木筆会相談役などの役職を歴任。1999年に沖展会員に推挙。2004年には沖縄タイムス芸術選賞を受賞。同賞の選考委員のほか、県芸審査員や日本書作家理事審査など様々な書作展の審査員を務める。

優れた指導力で子弟の育成に力を注ぎ、他の芸術分野との交流を図るなど県書道界の発展に貢献。

(略歴)

1937年(昭和12年) 那覇市生まれ。法政大学卒

1999年(平成11年) 沖展会員推挙

2002年(平成14年) 西安碑林博物館書法文化親善大使表彰

2002年(平成14年) 沖縄タイムス芸術選賞奨励賞

2004年(平成16年) 沖縄タイムス芸術選賞大賞

2005年(平成17年) 西安碑林国際臨書展団体賞

2009年(平成21年) 第2回泉泰光(朝信) 書藝展

2015年(平成27年) 6月11日没(享年78歳)

【写真】 上地 キミ子 (1937～2015)

海外での貴重な出会いを撮影し、パプアニューギニアやイタリア、モロッコ、ナミビア、エチオピア、スリランカなど世界30カ国以上を撮影で訪問。

1999年沖展会員推挙。2001年に沖縄タイムス芸術選賞奨励賞、2014年に同賞大賞を受賞。

多くの個展を開催し、女性写真家として活躍した。

(略歴)

1937年(昭和12年) 那覇市生まれ。東京高等美容学校卒

1999年(平成11年) 沖展会員推挙

2001年(平成13年) 沖縄タイムス芸術選賞奨励賞

2014年(平成26年) 沖縄タイムス芸術選賞大賞

2015年(平成27年) 上地キミ子写真展

2015年(平成27年) 11月2日没(享年78歳)

【写真】金城 幸彦 (1945～2015)

沖縄県写真協会会長を9年間歴任、県芸術文化祭審査委員長や各写真展の審査委員を務めるなど、写真界に多くの功績を残す。

2005年に沖展会員に推挙。全国の公募展では三軌会で奨励賞、日本光画会の光展で文部大臣賞奨励賞を受賞。県内では県芸術祭知事賞2回受賞。2013年には沖縄県功労者表彰を受賞。

撮影会や勉強会など多彩な活動を行い、後継者の育成にも尽力。

(略歴)

1945年(昭和20年) 熊本県生まれ。琉球大学法文学部卒

2000年(平成12年) 日本光画会光展文部大臣奨励賞

2005年(平成17年) 沖展会員推挙

2006年(平成18年) 第6代県写真協会会長に就任

2013年(平成25年) 県文化功労者表彰

2015年(平成27年) 4月8日没(享年69歳)

【工芸・染色】藤村 玲子 (1939～2015)

紅型復興に尽力した故・城間栄喜氏に師事。20代で独立し「藤村紅型工房」を設立。

1975年沖展会員推挙。1997年には県指定無形文化財「びん型」保持者に指定。1999年沖縄タイムス芸術選賞大賞、2009年には沖縄タイムス賞文化賞を受賞。

琉球王国時代の紅型の復元や後進の育成など、伝統の継承と発展に尽力。

(略歴)

1939年(昭和14年) 鹿児島県生まれ

1975年(昭和50年) 沖展会員推挙

1997年(平成9年) 県指定無形文化財「びん型」保持者

1999年(平成11年) 沖縄タイムス芸術選賞大賞

2002年(平成14年) 伝統文化ポラ賞優秀賞

2009年(平成21年) 藤村玲子紅型作品展

2009年(平成21年) 沖縄タイムス賞文化賞

2015年(平成27年) 1月17日没(享年77歳)

堂奈緒子（写真）花城雅孝（陶芸）新垣栄（漆芸）親泊英利（染色）宮城友紀（織物）能勢玲子（ガラス）當山みどり（木工芸）小橋川剛右

〔うるま市長賞〕（絵画）北山千雅子（版画）大山朝之（彫刻）津波夏希（グラフィックデザイン）吉田コマキ（書芸）當間秀美（写真）喜名朝駿（陶芸）伊志嶺達雄（漆芸）津波静子（染色）徳田佐和子（織物）吉本敏子（ガラス）照屋大海（木工芸）與那嶺勝正

〔沖縄教育出版賞〕（版画）金城由季乃（彫刻）翁長瞳（グラフィックデザイン）松田萌（書芸）比嘉優花（陶芸）門脇沙映

沖 展 会 則

第一章 名 称

第1条 この会は「沖展」と称し、沖縄タイムス社がこれを主催する。

第二章 目的及び活動

第2条 この会は、「沖展」の展覧会活動を主軸として現代美術工芸の創造発展につとめる。この目的のために次のことを行なう。

- ①. 春季に公募「沖展」を開催する。
- ②. 優秀な新人の推奨につとめる。
- ③. この目的のために必要あるときは、他の団体、機関と協力する。

第三章 方 針

第3条 沖展は、その伝統と歴史的な歩みのうえに各自の作品傾向を尊重し、その進展を期して運営される。

第四章 構 成

第4条 沖展は、絵画・版画・彫刻・工芸（陶芸・漆芸・染色・織物・ガラス・木工芸）書芸・写真・グラフィックデザインの七部門で構成する。

第5条 会の運営を円滑にするため、「沖展運営委員会」とその中に「企画委員会」を設ける。

第五章 会員・準会員

第6条 会員・準会員を各部門におきその数については定めない。

第7条 会員は、準会員中より推挙することを原則とする。推挙は、沖展審査終了後会員の合議によって行われる。

第8条 準会員は一般出品者中より推挙される。推挙は、会員推挙と同時に会員の合議によって行なう。

第9条 会員・準会員は、準会員賞又は沖展賞を2回以上受賞した者を対象とし、その他の受賞及び特別の推挙も考慮することができる。

第10条 会員・準会員は未発表の主要作品を沖展に発表し、又この会の維持運営に協力する。

第11条 会員・準会員は、希望意見を企画委員会に具申することができる。

第12条 客員・会員死去のときは、沖展会場に主要遺作を陳列するのを原則とする。陳列の場合、展示法、点数はそのつど企画委員会が協議する。

第13条 沖展に連続2回に亘って不出品を続ける会員・準会員は、その理由を運営委員会に知らさなければならない。病気その他の理由による不出品以外は運営委員会で審議の結果、会員・準会員を失格することがある。

第14条 会員・準会員のうちに、会の名誉を損う不適当な行為のあったときは、運営委員会はこれを審議し、該当者に対し除名又は適宜の処置をとる。

第六章 沖展運営委員会

第15条 運営委員は沖展運営委員長が会員中から委嘱する。

第16条 沖展運営委員長は沖縄タイムス文化事業局長がこれにあたる。

第17条 沖展運営委員会は沖展の運営ならびに公募作品の審査にあたる。

第18条 運営委員はそれぞれの所属部門の運営にあたる。

第19条 沖展運営委員会は毎年沖展募集要項を審議決定する。

第七章 企画委員会

第20条 企画委員会は各部門の運営委員中より選出された委員によって組織され、沖展運営の企画とその推

進を担当し、又は各種の審議権を運営委員会から委託される。その決議事項は運営委員会の承認を得なければならない。

第21条 企画委員長は沖展運営委員長がこれを兼ね、必要に応じ企画委員会を招集する。

第22条 企画委員会は「沖展」を定例的に企画し、又はこの会の発展のための企画をたてる。その他「沖展」会期中に処理すべき事項にあたる。

第23条 企画委員会は、欠席の部門に関する事項の決議は行わない。又委員の出席数が委任状を含めて定数の過半数に至らないときは、協議の決定は行わない。

第24条 企画委員会は、会員・準会員の中から下の係りを若干名ずつ委嘱し、「沖展」運営の円滑をはかる。

- ① 搬入、搬出係（作品の保護管理の指導を担当する）
- ② 審査係（審査の進行、記録、入選通知、発表等を担当する）
- ③ プロ作成係（沖展プログラムの編集及びデザインを担当する）
- ④ 会場構成係（沖展会場内外及び周辺の構成を担当する）
- ⑤ 受賞係（賞状、賞品等の準備、作成を担当する）
- ⑥ 懇親会係（贈呈式、懇親会の運営を担当する）
- ⑦ 推挙事務係（被推挙者の資料作成を担当する）
- ⑧ P R 係（報道対策、沖展盛り上げ企画等を担当する）

第25条 企画委員の定数は、絵画3、版画2、彫刻2、工芸6、書芸3、グラフィックデザイン2、写真2名、計20名とする。

第26条 企画委員の任期は、2年とし、運営委員会において各部で選出する。その選出に当たっては委員の半数が交替することを原則とする。

第八章 審査及び陳列

第27条 公募作品は審査を行ない運営委員および運営委員長がその審査に当たる。

第28条 審査委員長は運営委員長がこれに当たる。

第29条 審査委員長は、運営委員会の協議による基本案をもとに審査方針をたて、審査を主導する。又審査を円滑に運ぶための決定権をもつ。

第30条 ① 作品の陳列は、各部門から部門別の陳列委員長を選出して行なう。

② 陳列委員長は、各部審査会終了と同時に選出する。

③ 陳列は各部陳列委員長の下に、若干名の陳列委員を置いて行なう。陳列委員は、陳列委員長の意向を参酌の上、会員・準会員の中から、審査会の席上で決める。

④ 陳列は陳列委員長の責任において行なう。

第九章 顧問及び客員

第31条 本会に顧問及び客員をおく。

本会の維持と発展に功績のあった人を顧問又は客員としておくことができる。

第十章 賛助会員

第32条 本会に賛助会員を置く。

第33条 賛助会員は運営委員会によって推挙されたもので、沖展に招待出品することができる。

1. 本会則は1971年2月9日より実施する。
2. 1984年4月3日改正
3. 1986年12月2日改正（第4条、第25条）



2015 年 4 月 5 日 撮影

協贊企業

FOR YOUR HAPPY TIME

Orion

おいしさしっかり、キレすっきり。

ORIONSTYLE

オリオンスタイル

Enjoy!!



飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。

妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を与えるおそれがあります。お酒は、おいしく、適量に。のんだあとはリサイクル ①

オリオンビール株式会社

沖縄教育出版は、第68回『沖展』を応援いたします。

沖縄自然館 **e-no**



イーノ
クレンジング水

紫外線の強い
沖縄だから
生まれた真粧品



イーノ
プレミアム ローション

ちゃ〜げんきの沖縄自然館

究極の発酵食品「玄米酵素」



国産玄米 有機・特別栽培

+



沖縄教育出版

真粧品事業部 **e-no**
TEL:0120-430-960

〒900-0013 沖縄県那覇市牧志 1-2-24
TEL:098-866-4779 FAX:098-867-6677
営業時間 午前 9:00～午後 9:00 (日曜は休館)

健康食品事業部 **ちゃ〜げんき**
TEL:0120-430-890



創立65周年事業 「人、海も健康に。」キャンペーン



創立65周年を記念しスタートした「お米1kgにつき1円を寄付するキャンペーン」はお客様のご理解・ご協力のおかげもあり、目標額を上回る結果となりました。この寄付金は、一般財団法人沖縄美ら島財団様に全額寄付を行い、沖縄の青い海を守るために、海洋保全に関する事業に役立てていただきます。ご協力誠にありがとうございました。

期 間 平成27年7月1日～9月30日

寄付総額 1,054,504円



沖縄食糧株式会社

沖縄の暮らしと共に55年
株式会社 大川



大川家具
グループ



家具とインテリアの大型専門店
THE GRACE

maxplus
HOME FURNISHINGS STORE

アウトレット専売の
TODAY O.K

KARIYUSHI HOTELS

<http://www.kariyushi.co.jp/>

6つのホテルでそれぞれの過ごし方…
かりゆしホテルズは、最高のおもてなしで皆様をお迎えします。



OKINAWA
BEACH RESORT OCEAN SPA
KARIYUSHI



OKINAWA
KARIYUSHI LCH.
Izumizaki

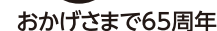


OKINAWA
KARIYUSHI LCH.
2nd
Izumizaki

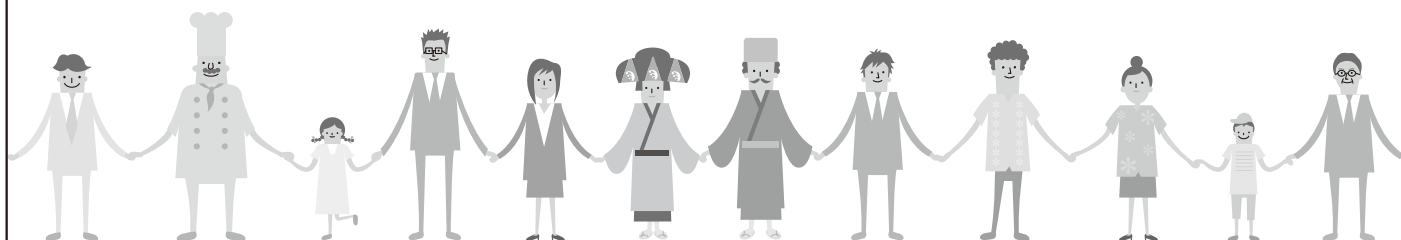


OKINAWA
URBAN RESORT NAHA
KARIYUSHI





人と人をつなぐ 幸せを、いつまでも。



<http://www.kobundo.net>



廣告

古美術 観宝堂

骨董品・美術品誠実高価買入、無料鑑定も致します。
お気軽に御相談下さい。

本 店 沖縄県那覇市松山1-23-1（福州園正門前）
TEL (098)863-2643 FAX(098)863-0583

東京店 東京都港区南青山4-23-6（根津美術館横）
TEL・FAX (03) 3499-5056

書道

峰雲書道院 豊平峰雲

沖縄県書作家協会木筆會会長
那覇市田原 1-10-4 ☎098-858-9155

一般の時間割

火		13:30~15:00	
水	10:30~12:00	13:30~15:00	19:00~20:30
木	10:30~12:00	13:30~15:00	19:00~20:30
金	10:30~12:00	13:30~15:00	

随時入会することができます。

安心・安全を提供して47年!

これからも提供し続けます
人とシステムでより確かな安心を



(株)琉球保安警備隊

代表取締役社長 宮里 和政

本社 沖縄県沖縄市与儀1丁目7番5号 ☎098(983)8811
那覇営業所 沖縄県那覇市首里末吉町4-6-1 ☎098(887)1818
浦添営業所 沖縄県浦添市宮城1-35-7 ☎098(878)9065
うるま営業所 沖縄県うるま市字大田321 ☎098(975)0105
北部営業所 沖縄県名護市字田井等652番地1 ☎0980(58)3096
宮古営業所 沖縄県宮古島市平良字西里768-13 ☎0980(73)4650

城間びんがた工房

代表 城間 栄 順

那覇市首里山川町 1-113
(ホテル日航那覇グランドキャッスル東側)

電話 885-9761

芭蕉布織物工房

平 良 敏 子

大宜味村字喜如嘉 1103
☎(0980)44-3202 FAX(0980)44-3251

イベント会場設営・大型テント・レンタル

SST
砂辺松福テント(株)

代表取締役 砂辺 昭伸

ハナノ テントウヤ

本社 877-1028

<http://www.sunabe-tent.co.jp>

額縁のことなら

MS 合資会社 前田額装商会

代表者 前田 茂

〒900-0014

那覇市松尾2丁目7番地29号(浮島通り)

TEL (098) 867-4811

FAX (098) 861-0367

写真・映像・音楽を創造する
モリヤマグループ

東町にて
オープン

カメラ・プリント・写真撮影のことなら

カメラのモリヤマ

TEL 098-867-7368

出張写真・映像撮影、音楽収録のことなら

Okinawa Media Art Center
oMac
沖縄メディア・アート・センター
音と光の工房

TEL 098-862-1554

音楽イベント企画・演奏のことなら

oMac
oMac Entertainment

TEL 098-861-7322

那覇市東町19-22
カメラのモリヤマARTビル

<http://www.e-okinawa.co.jp/mips>

沖縄タイムスのご試読キャンペーンのご案内

沖縄
タイムス が 7日間 0円
読んで試せる
無料お試しキャンペーン!!

本紙
+
副読紙

ほ〜むぷらざ(木曜日)
タイムス住宅新聞(金曜日)
ワラビー(日曜日)
らくら(偶数月第一日曜日)

ご試読された方には、
ワラビーグッズを
プレゼント!!

お問い合わせ・お申し込みは

0120-21-9674
FREE DIAL

0120-21-9674 (平日9:00~18:00)

FAX: 098-861-8661 (24時間受け付け)



hanbai@okinawatimes.co.jp

シーサー各種

壺屋焼



湧田陶器

壺屋陶器事業協同組合会員

那覇市繁多川 5-23-25
Tel/098-853-5855

各種宴会、会議、研修、宿泊は

一般
財団法人

沖縄県青年会館

レストラン アレグリア



〒900-0033 那覇市久米二丁目15番23号

TEL.098-864-1780

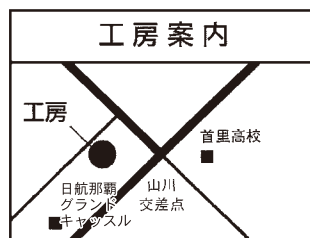
FAX.098-864-1783

沖縄県市町村職員互助会 沖縄県教職員共済会指定
那覇市職員厚生会 沖縄県市町村職員共済組合

出張パーティ承ります。ご予算に応じます。
オードブル・寿司盛り合わせ出前いたします。

琉球紅型

玉那覇紅型工房



玉那覇 有 公

那覇市首里山川町1-66

☎ 884-1184

美術品・文化遺産の梱包輸送

～引越のことなら日通～



琉球物流
RYUKYU LOGISTICS

〒900-0001 沖縄県那覇市港町2-17-13

TEL (098) 861-5151

FAX (098) 861-5158

<http://www.ryukyu-logi.com>

筆・墨・硯・紙・書道専門書
裏打・表装・貸額

書道用品専門店

丸正

南風原町字新川 505-1

☎ (098) 851-3985 FAX (098) 851-3986

オキジム

デザイン・編集 印刷物の企画・立案 出版・印刷物の電子メディア化

取材・撮影 出版物のセールス・プロモーション

FM高精細印刷 ラミネート加工

オンデマンド印刷

つながる。ひろがる。
新しい印刷のカタチ

Planning & Printing
oyo

〔株〕東洋企画印刷
代表取締役 大城 孝

- 主 催 沖縄タイムス社
- 協 力 浦添市・浦添市教育委員会
- 協 賛 オリオンビール(株)・(株)沖縄教育出版
(株)大川・沖縄食糧(株)・(株)かりゆし
光文堂コミュニケーションズ(株)
- 後 援 沖縄県・沖縄県教育委員会・琉球放送
琉球朝日放送・NHK沖縄放送局
エフエム沖縄

第68回 沖縄プログラム

定価 1,000円
(税込み)

- 発行日：2016年3月
- 印刷：株式会社 東洋企画印刷

発行 沖縄タイムス社文化事業局

- 表紙デザイン：知念 秀幸
- 沖縄ロゴタイプデザイン：宮城 保武・我喜屋 明正
- 写真撮影：LaLa Film's (ララフィルム)

OKITEN 2016 EXHIBITION

